

ニ貼シ以テ子宮收縮ノ狀ヲ檢スルヲ要ス五乃至十分ノ後臍帶ノ搏動止ムニ至ラバ之レヲ結紮切離シ胎盤既ニ產出シ子宮ノ收縮佳良ナルヲ見バ小兒ヲ温浴ニ入ラシメ次ニ產婦ノ外陰部ヲ檢シ防腐液ヲ以テ洗滌シ清潔ナル布片ヲ貼シテ繃帶ヲ施コシ更ニ子宮收縮ノ狀ヲ檢査シ二三時間ヲ經テ出血具他ノ障害ナキヲ見バ乃チ產婆ハ產婦ノ許チ去ルコトヲ得可シ——其概畧ヲ舉クレバ正規分娩ノ處置ハ以上記スル所ニ外ナラズト雖モ實際ニ當リテハ此要領ノミヲ知了スルモ到底用ヲナスコトナシ故ニ以下第六十章乃至六十八章ニ於テ之レガ詳細ヲ述ベント欲ス即チ其説述ス可キモノ次ノ如シ

- 一、 產婆携帶用器具并ニ衣服
- 二、 防腐法
- 三、 臨産婦ノ檢査
- 四、 開口期及び産出期ノ處置
- 五、 會陰防護法

- 六、 臍帶纏絡及び軀幹產出遲延ノ處置
  - 七、 臍帶切離法
  - 八、 後産期ノ處置
  - 九、 分娩ヲ終レル子宮其他ノ處置
- 是レナリ次ニ之レヲ各論ス可シ

### 第六十章 產婆携帶用器具并ニ衣服

產婆ハ常ニ分娩ニ要スル器具ヲ整備シ

カラシメ毎ニ之レヲ携ヘテ産家ニ赴ク可シ今其器具ノ品目ヲ舉クレバ次ノ如シ

產婆携帶用器具

#### 產婆携帶用器具

- 一、 一〇〇〇〇以上ヲ容ル可キ イルリガートル
- 二、 腔内用菅管一、灌腸用菅管一、ヲ具フ
- 三、 洗滌其他ニ用ユル瓦設片數枚
- 四、 長サ半迷的兒巾十仙迷的兒巾有シ栓塞其他ニ用ユ可キ脱脂

- 綿八枚
- 四、 臍帶結紫絲
- 五、 臍帶剪刀
- 六、 臍綳帶及ビ礪酸末
- 七、 浴用及ビ體温用檢温器各一、
- 八、 聽胸器及ビ時計
- 九、 刷毛、爪鑷子、石礮及ビ海綿
- 十、 排尿用カテーテル小兒室息用彈力カテーテル並ニ金屬製便器
- 十一、 小兒灌腸器
- 十二、 洗滌得ベキ前垂布
- 十三、 溶解石炭酸三〇、〇（第九百九十六章ヲ見ヨ）
- 十四、 ホフマン液二〇、〇
- 十五、 礪砂精二〇、〇

産婆ノ衣服

十六、 三十倍石炭酸油又ハ、ワセリン

十七、 三〇、〇液量計

右ノ諸品ハ一定ノ函若クハ提籃中ニ收メ常ニ清潔ナラシメ藥品瓦設等ハ必ズ欠乏セシムルコトナク何時ニテモ供用シ得ベカラシムルヲ要ス但シ便器ハ原ト之レヲ携帶スルヲ要セザレトモ現今我國ノ一般民家ニ於テハ之レヲ有セザルコト多キヲ以テ極メテ不便ヲ感スルコト少ナカラズ故ニ實際上産婆ハ金屬製ノ便器ヲ携フルヲ要ス（著者ハ一種輕便ナル携帶用便器ヲ創製セリ大坂器械舖大溝氏之レヲ製作販賣ス之レヲ用ユルキハ甚ダ實際ニ便益ヲ感ス可シ尙ホ卷末附録第二百八章ニ詳ナリ）

産婆ノ衣服 産婆ハ産床ニ臨ムキハ清潔ナル衣服ヲ着ケ白キ前垂布ヲ用ユ可シ若シ手術衣ヲ用ユルトキハ最モ佳ナリ凡ソ衣服前垂布等ハ一タビ着用シ少ニテモ汚染スルトキハ之レヲ洗濯ス可シ又傳染病ヲ有スル産婦ヲ取扱タルキニ用フタル衣服ハ蒸氣消毒法ヲ施コスカ又ハ熱湯中ニ煮沸洗淨セルノ後ニアラザレバ之レヲ用ユ可ラズ

### 第六十一章 防腐法

産婦ノ處置ニ就キ防腐法即チ消毒法ノ必要ナルハ分娩ノ際子宮・膈内・外陰部等ニ創傷ヲ生スルガ故ニ若シ消毒法ヲ行ハザルトキハ茲ニ微菌附着シ化膿ヲ生シ遂ニ産褥熱ノ如キ危険症ヲ發スルノ恐アルニヨルモノナリ

### 産婆及ビ産婦ノ消毒法

産婆及ビ産婦ノ消毒法ハ手及ビ外陰部

ニ施コスモノナリ此法ハ既ニ第二編第三十七章中ニ説キ示セルガ故ニ茲ニハ之レヲ省畧セリ宜シク之レヲ參看ス可シ

### 器具ノ消毒

器具ノ消毒 分娩ニ要スル剪刀・カテーテル等ハ豫シメ5%石炭酸水中ニ浸シテ用ニ供ス又液質ヲ吸取セシメソノガ爲メニ陳腐ノ布巾ヲ用ヒント欲セバ豫メ洗濯煮沸シテ丁寧ニ之レヲ貯藏セシコトヲ要ス否ラサレバ恐ル可キ熱性病即チ産褥熱ヲ發スルコトアリ又更ニ蒸氣消毒ヲ施コストキハ最モ佳ナリ

### 第六十二章 臨産婦ノ検査法

### 産家ニ於ケル第一ノ訊問

産家ニ於ケル第一ノ訊問 産婆ハ産家ニ至ラバ先ツ陣痛ノ状態ヲ察シ且ツ陣痛初發ノ時期及ビ前胎水ノ漏泄セシヤ否ヤヲ問フ可シ而シテ若シ前胎水既ニ漏泄セバ直チニ防腐法ヲ施コシテ内検査ヲ行フ可シ否ラサレバ分娩ノ至ルヲ知ラズシテ狼狽スルコトアリ之レニ反シ陣痛尙ホ弱ク胎水未ダ漏出セザルトキハ徐ムロニ既往ヲ訊問ス可シ

### 既往ノ訊問

既往ノ訊問 先ツ初産婦ナルカ若クハ經産婦ナルカヲ問ヒ經産婦ナルトキハ既往ノ分娩産褥ノ經過小兒ノ生死ヲ尋ヌ可シ其他該回終末月經ノ期日妊娠末期ノ自覺的徵候ヲ尋ヌ全身ノ健否ヲ知ル可シ次ニ防腐法ヲ行ヒ外検査ヨリ内検査ニ及ボス可シ

### 外検査

外検査 ハ既ニ妊娠ノ検査法中ニ述ベタル方法ニヨリ子宮底ノ在所胎兒ノ位置・心音ノ部位ヲ知リ又兒頭ノ向ホ恥骨縫際上ニ在リヤ否ヤヲ檢ス可シ又陣痛發作セバ検査ヲ停止スルヲ要ス

### 内検査

内検査 ニヨリ檢知ス可キモノ次ノ三項トナス腔其他ノ検査ニ就キテハ第二篇第九十六頁ヲ參照ス可シ

分娩初期ノ徵候及び其處置

一、子宮口ノ所在大小及び其縁ノ状態

二、胎胞ノ存否若シ胎胞ノ存スルトキハ胎水ノ多小及び陣痛休歇時ニ胎胞ノ緊張セルヤ否ヤ

三、胎兒先進部ノ辨別及び其子宮口内ニ進入セルヤ否ヤ

是レナリ但シ開口期ノ初メニ於テハ前脛穹窿部ヨリ兒頭ヲ觸知シ何レノ部分ニ至ルマテ降レルヤヲ知リ且ツ子宮口ノ大サヲ檢スルヲ以テ足レリトス爾後子宮口ノ殆ト全ク開大スルニ至ラハ縫合及び頸門ヲ觸知ス可シ若シ異常ノ存スルヲ見バ速カニ醫治ヲ求ムルヲ要ス

第六十三章 開口期及び産出期ノ處置

分娩初期ノ徵候及び其處置 既ニ分娩ヲ始ムルトキハ數分間ヲ隔テ産婦ハ疼痛ヲ訴エ手ヲ腹上ニ貼スレバ明カニ子宮ノ固ク收縮セルヲ知ル可シ是レ即チ陣痛ナリ内檢査ヲ施コセバ前胎水ハ陣痛時ニ先進頭部ノ下ニ集マリ卵膜ヲ子宮口ヨリ膨出セシメ子宮口未ダ開カザルキハ子宮壁ヲ隔テ、胎胞ヲ觸知ス可シ子宮口ノ開クト否ラザルトハ分

産室

産床

娩ノ初期ヲ證スルコト能ハサルモノナリ

以上ノ徵候ニヨリ既ニ分娩ノ初期ナルコトヲ知ラバ糞キニ便通アリシト否トニ論ナシ石礮水五六百瓦(石礮凡ソ八瓦ヲ含ム)ヲ以テ灌腸ヲ行ヒ十分ニ糞便ヲ排泄セシム可シ

産室 ハ可及的廣ク明カニシテ温度ハ凡ソ華氏ノ六十三度ナルヲ佳トス而シテ不潔ナル物品ハ必ズ之レヲ除キ去リ不必要ノ器具モ亦之レヲ遠ケ且ツ無用ノ人ハ室内ニ止ム可ラズ

産床 ハ必ズ其周圍ヲ廣カラシメ床ノ頭部ハ稍之レヲ高カラシメ敷布團ハ頭部ノ外全ク油紙若クハ護謨布ヲ以テ之レヲ覆ヒ其上ニ敷布ヲ延ベ安全針ヲ以テ之レヲ固定シ臀部ニハ方凡ソ二尺ノ油紙若クハ護謨布上ニ同シ大サノ脱脂綿ニテ造レル敷布團若クハ藁敷團ヲ載セ再ヒ同シ大サノ敷布ヲ延ベ茲ニ産婦ヲ臥セシム可シ又別ニ方二尺ノ油紙又ハ護謨布上ニ同大ノ敷布ヲ延ベタルモノヲ備ヒ分娩終レル後チ臀下ノ小布團其他ノ物ト交換スルノ用ニ供スルヲ要ス——此等ノ敷布團及び分

産婦ノ被服

婉ニ要スル襦袢等ハ蒸氣装置ヲ以テ消毒スレバ最モ佳ナリ  
産婦ノ被服 衣服ハ總テ緊密ナルモノヲ去リ襦袢ハ液質ニ汚サレ  
ザラフガ爲メ背部ニ捲キ舉ゲ輕キ布圍ヲ以テ身體ヲ覆ヒ分娩終ラバ温  
暖ノ被衾ヲ以テ交換ス可シ

産室内所要ノ器具

産室内ニ於テ分娩ニ要スル器具ハ産婆携帶  
用器具及ヒ産床用諸品ノ外種々アリ皆ナ善ク之レヲ整理シテ其用ニ供  
ス可シ今之レヲ列記セバ大略次ノ如シ

- 一、産婆携帶用器具(第六十章ノ諸器具)
- 二、前項ニ記セル産床用諸品
- 三、産婦及び小兒用布巾類  
小ナル襦袢十數枚○手巾(或ハ之レヲ欠クモ可ナリ)  
瓦設及ヒ綿布ノ壓抵巾各數個○丁字綿帶○方二尺ノ襪二(一ハ産  
出直後小兒ヲ包被シ一ハ小兒浴後ノ瀉ヲ取リトナス)○兩膝間及ヒ  
臀下ニ挿入シ得ベキ大及ヒ中枕子各一○分娩後ニ用ユル腹帶○豫  
備用油紙一○小兒ノ衣服
- 四、温湯及ヒ冷水ノ多量並ニ小兒用浴盤及ヒ温婆二三個

就褥ノ時期

右ノ外看護婦一名及ヒ必要ノ際醫師ノ許ニ赴カシム可キ人夫一名ヲ具  
フルヲ要ス

就褥ノ時期

褥就ハ開口期ノ初メニ於テハ敢テ必要ナラズ陣痛増  
盛シ其休歇時ニモ胎胞ノ緊張スルニ至ラバ直チニ産床ニ入ラシム可キ  
モノトス胎胞ノ破裂ヲ待チ床中ニ入ルハ不可ナリ何トナレバ胎水漏泄  
スルノ後直チニ娩出スルコト多キニヨル其他時トシテハ胎水ノ早期ニ  
漏泄スルコトモ亦多ク之レアリ此ノ場合ニハ産婦ヲ安靜ニ平臥セシメ  
多量ノ胎水ヲ失ハザラシムルヲ要ス——虛弱ナル婦人狹窄骨盤懸垂腹  
又ハ下肢陰部ニ浮腫ヲ有スルモノ、如キハ分娩ノ初期ヨリ産床ニ就カ  
シムルヲ良トス

産婦ノ位置并ニ其緊要ナル規則

産婦ノ位置ハ産婦ノ便宜  
ニ從ヒ或ハ平臥セシメ若クハ倚坐セシム可シ而シテ陣痛微弱ナルモノ

五、洗滌消毒用鹽三個廢水溜桶一個

温牛乳、肉蒸汁、赤葡萄酒、  
若クハ、ブワンテ、酒

六、食料及ビ藥品

ニ在リテハ、交番ニ起坐セシメ若クハ種々ノ臥位ヲ與フルヲ要ス但シ臥位ノ交換ハ陣痛間時ニ於テセシムヘシ此ノ如ク位置ヲ變ズレバ産婦ヲシテ快カラシメ且ツ陣痛ヲ増盛セシムルノ益アリ若シ又兒頭容易ニ下降セザルカ或ハ回轉ヲ營ミ難キトキハ一定ノ臥位ヲ取ラシム可シ即チ其規則トシテ

〔先進ス可キ兒體部ノ存スル側方ニ臥セシム可キコト〕  
是レ甚ダ緊要ノ件ナリ此故ニ兒頭若シ右膈骨窩上ニ位シテ下降セザルトキハ産婦ヲシテ右側ニ臥サシム可シ之レニ反シ兒頭ノ左膈骨窩上ニ存スルトキハ左側ニ臥セシムルヲ要ス若シ兒頭既ニ骨盤内ニ入ルト雖モ第一第二ノ回轉ヲ現ハサズシテ小頤門ハ下降セズ且ツ前方ニ回轉セザルトキハ第一頭蓋位ナレバ左側ニ臥セシメ第二頭蓋位ナレバ右側ニ臥セシム可シ加之第三第四頭蓋位ニ在リテモ此規則ニ基キ兒ノ後頭ノ位セル側方ニ臥セシムルトキハ小頤門ヲ下降シ且ツ前方ニ回轉セシメ第一或ハ第二頭蓋位ニ變ゼシムルコトアリ又兒頭骨盤内ニ降り其矢狀

胎水ノ漏泄

總合依然トシテ横徑ニ位スルモノ(深在横位)ト雖モ亦産婦ヲシテ小頤門ノ側方ニ臥セシムルトキハ兒頭回轉シテ其後頭ヲ前方ニ向ハシムルコトアリ

胎水ノ漏泄

卵胞破開シ胎水漏泄スルトキハ初産婦ニ在リテハ爲メニ驚シコトアルガ故ニ豫シメ之レニ注意ス可シ而シテ羊水多量ナルモノニ在リテハ便器ヲ抵テ之レヲ受ケ納メ甚ダシク床上ヲ汚染セシメザルヲ便ナリトス胎水漏泄ノ際産婆ハ胎水ニ注意シ其性質正常ナリヤ胎尿ヲ以テ着色セラル、コトナキヤ死胎兒ニ於ケルガ如ク綠色ヲ呈スルコトナキヤ異常ノ臭氣ヲ發スルコトナキヤヲ觀察ス可シ(第八十七章ヲ參看ス可シ) 若シ適當ノ時期ヲ過クルモ胎胞自ラ破開セザルトキハ人工ヲ以テ破開セザル可ラズ即チ次ノ如シ

人工胎胞破開法

子宮口十分開大シ且ツ兒頭骨盤腔内ニ進入セルカ又ハ胎胞陰唇間ニ露出セルトキハ人工ヲ以テ之レヲ破開ス可シ但シ之レヲ破開セントスルノ前善ク胎胞内ヲ檢シ四肢又ハ臍帶ノ存セザ

胎胞破開後ノ  
内検査并ニ開  
口期及び産出  
期ノ内検査法

ルヤ否ヤヲ知ラザル可ラズ而シテ其破開法ハ陣痛時ニ胎胞ノ緊張スル  
ヲ見バ指頭ヲ以テ強ク之レヲ薦骨ニ向テ押壓スルヲ要ス若シ此ノ如ク  
スルモ尙ホ破開セザルハカテーテル内ノ鐵線ヲ用テ石炭酸水ヲ以  
テ消毒シ示指ヲ嚮導トナシ注意シテ胎胞内ニ刺入スルヲ佳トス

**胎胞破開後ノ内検査并ニ開口期及び産出期ノ内検査法**

胎胞破開セルノ後ハ防腐法ヲ行ヒテ内診シ子宮口ノ全ク開大セルヤ否  
ヤ臍帶若クハ上肢等ノ脱出セルコトナキヤ否ヤヲ檢セザル可ラズ加之  
此際必ズ縫合ノ方向頸門ノ部位ヲ認知センコトヲ要ス何トナレバ胎胞  
破開前ニハ之レヲ知リ能ハサルコト多ク而シテ更ニ後期ニ至レバ産瘤  
ヲ生スルガ爲メニ之レヲ認メ得ザルニ至ルコトアルニヨル此ノ如クニ  
シテ臍帶ノ脱出若クハ頭蓋位置ノ不正又ハ其他ノ異常ヲ認知セバ速カ  
ニ醫治ヲ求ムルヲ要ス——其他開口期及び産出期ニ於テハ妄リニ屢内  
検査ヲ行フ可ラズ何トナレバ内陰部ヲ不潔ナラシメ傳染症ヲ誘起セシ  
ムルノ害アルニヨル而シテ兒頭腔内ニ降レバ内検査ヲ施ヨサズ注意シ

排尿ノ必要并  
ニカテーテル  
送入法

テ會陰ノ膨出スルヤ否ヤ兒頭ノ陰唇間ニ露出スルヤ否ヤヲ觀察ス可シ

**排尿ノ必要并ニカテーテル送入法** 分娩中ハ善ク排尿セシ  
ムルヲ要ス膀胱若シ充滿スルハ爲メニ陣痛微弱ヲ發ス可シ若シ自ラ  
排尿スルコト能ハサルハカテーテルヲ用ニ即チ之レヲ三十倍石炭酸水  
中ニ浸シ尿道口モ亦同石炭酸水ヲ蘸セル綿花ヲ以テ拭ヒカテーテル  
ノ末端ハ三十倍石炭酸油ヲ塗り指ヲ以テカテーテルノ外口ヲ塞キ尿  
道彎曲ノ方向ニ沿ヒテ挿入シ膀胱内ニ達セシメ塞ケル指ヲ放チテ尿ヲ  
流出セシム若シ兒頭ノ壓迫ニヨリカテーテルヲ送入シ難キトキハ他  
ノ手指ヲ腔内ニ送り兒頭ヲ壓上シ其壓迫ヲ免レシム可シ而シテ尙ホ送  
入シ能ハサルハ之レヲ醫師ニ托センコトヲ要ス若シ妄リニ強力ヲ用  
ユルトキハ尿道ヲ損傷ス可シ——カテーテルヲ抜去セントスルノ際ハ  
再ビ指ヲ以テ其外口ヲ塞ク可シ否ラザレバ空氣ハ膀胱内ニ入り膀胱加  
答兒ヲ發セシムルノ害アリ

**産婦ノ飲食物** 通常之レヲ欲スルコトナキガ故ニ與フルコトヲ

産婦ノ飲食物

要セザレトモ若シ渴アルトキハ水牛乳若クハ稀薄ノ茶ヲ與フ可シ而シテ分婉長時ヲ費ヤシ體力衰憊スルノ恐レアルトキハ葡萄酒肉羔汁等ヲ飲マシムルヲ要ス

體温及ヒ脈搏

便通時ノ注意

體温及ヒ脈搏 ハ分娩中時々之レヲ検査シ若シ脈搏甚ダ増進スルカ又ハ體温三十八度以上ニ至ルコトアラバ醫師ノ診察ヲ請ハシム可シ  
便通時ノ注意 閉口期ノ末期及ヒ産出期ニ於テ産婦便意ヲ訴フルモ決シテ固ニ行カシム可ラス否サレバ胎兒不意ニ産出シ若クハ爲メニ甚ダシク會陰ヲ裂傷セシムルコトアリ

努責

努責(腹壓) ハ開口期ニ於テハ之レヲ營マシム可ラズ胎胞ヲシテ早ク破開セシメ分婉ヲ遲延セシムルノ害アリ然レトモ産出期ニ在リテハ努責スルヲ緊要ナリトス是レ番ニ産出ヲ速カナラシムルノミナラズ陣痛ニ堪ヘ易カラシムルノ益アリ

努責ノ方法

努責ノ方法 兒頭深ク腔内ニ下リ將ニ外陰部ニ露出セントスレバ産婦ハ自ラ努責ヲ發ス可シ此際産婆ハ産婦ニ其手及ヒ足ヲ他物ニ固定

會陰及ヒ陰唇間ノ視察

シ且ツ呼吸ヲ停止シ以テ努責ス可キコトヲ教示ス可シ但シ過度ニ努力セシムルコトナク陣痛止メハ則チ之レヲ停止セシムルヲ要ス若シ又努責スルコト凡ソ半時間ニ至ルモ産機進行セザルキハ暫ク休止セシメ後更ニ之レヲ營マシムルヲ佳トス 此際便意ヲ訴フルモ敢テ便通アルモノニアラサレバ漫リニ之レヲ許ス可ラズ若シ果シテ便通アルトキハ便器ヲ挿入シテ通利セシム可シ

第六十四章 會陰防護法

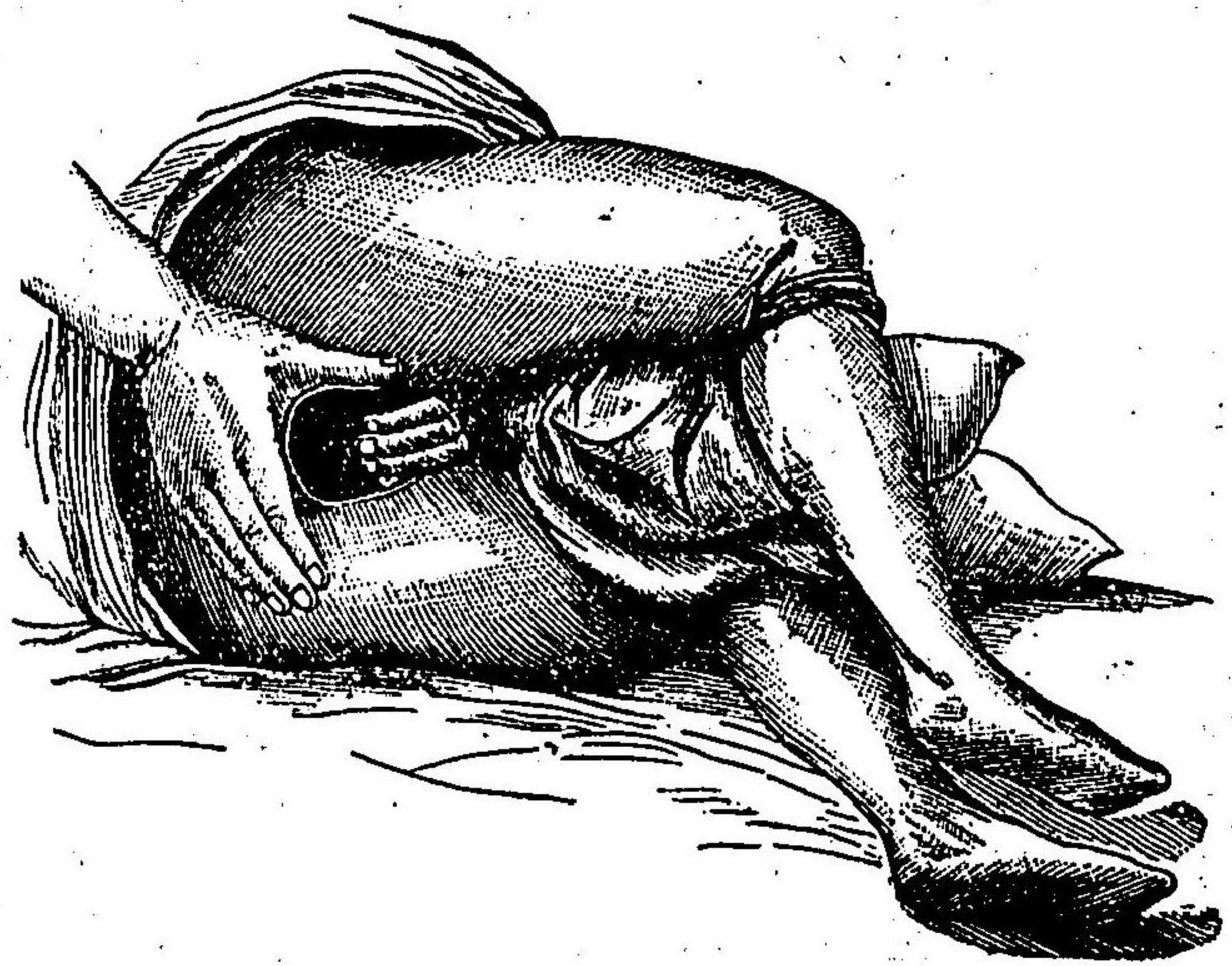
會陰防護ノ理由 兒頭會陰ヲ通過シテ産出スルノ際若シ其通過スルコト急速ナルキハ大ニ會陰ヲ破裂セシムルガ故ニ之レヲ防護セサル

可ラズ而シテ之レヲ防護スルニハ三個ノ要旨アリ(一)産婦ニ適當ノ臥位ヲ與フルコト(二)兒頭ヲシテ會陰部ヲ徐々ニ通過セシムルコト(三)兩手ヲ以テ會陰及ヒ兒頭ヲ支持スルコト是レナリ但シ會陰防護ノ際ハ一桶ノ

會陰防護ノ理由



側臥ニ於テ會陰ヲ防護スルノ圖



一、石炭酸水ト脱脂綿又ハ瓦  
設片トヲ備ヘ以テ手及ビ肛門  
部ノ洗滌用ニ供ス可シ會陰防  
護法ニ二種アリ側臥ニ於テス  
ルモノ及ビ仰臥ニ於テスルモ  
ノ是レナリ

甲、側臥ニテ會陰ヲ防  
護スル法 此法ハ殊ニ初産  
婦ニ適用ス可シ是レ其部分ヲ  
明カニ視得ルノ便アルニヨル  
而シテ第一頭蓋位ニ於テハ左  
側ニ臥セシメ第二頭蓋位ニハ  
右側臥ニ就カシムルヲ要ス此  
ノ如クニシテ産婦ニ強ク膝ヲ

側臥ニテ會陰  
ヲ防護スル法

第七十六圖

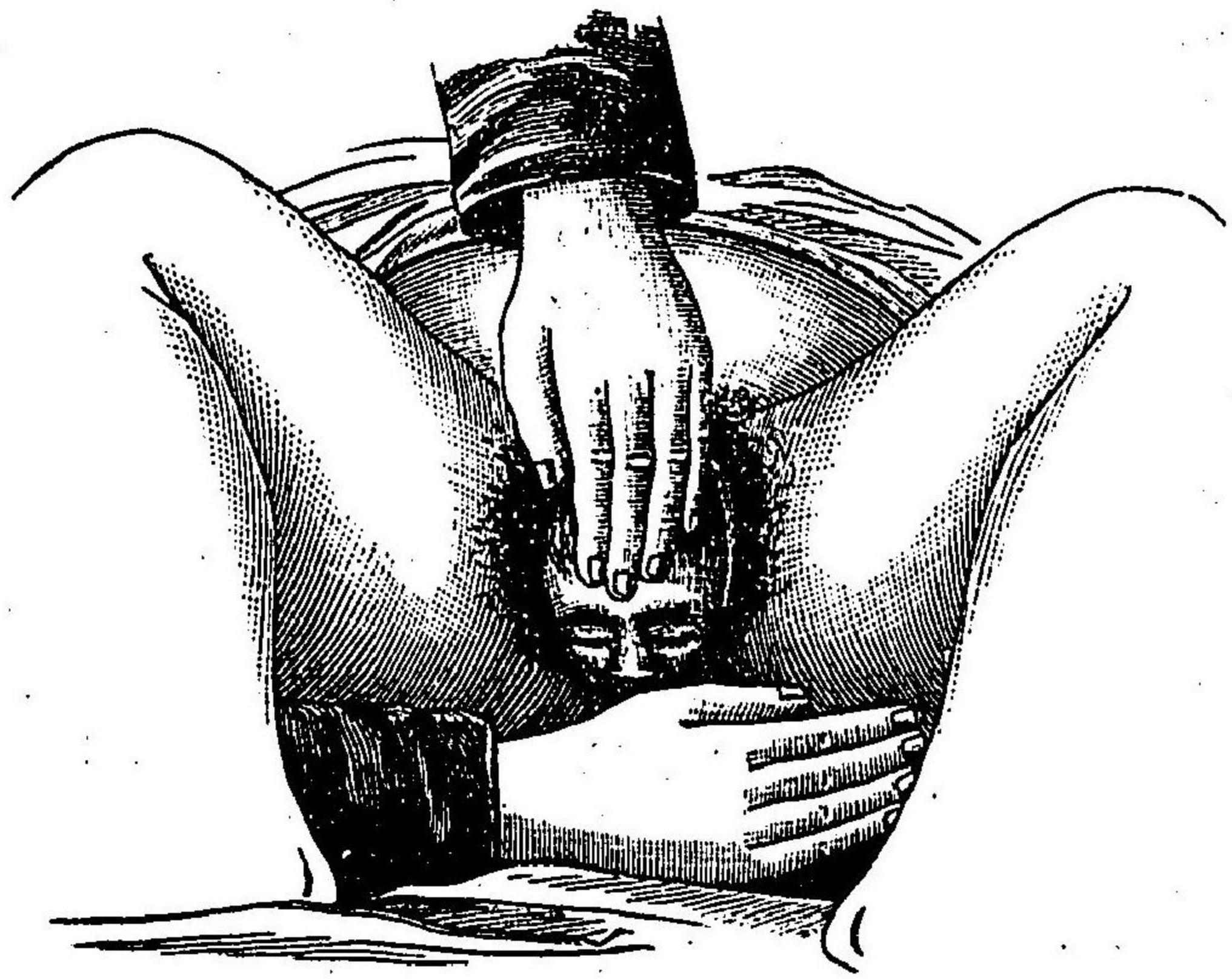
仰臥ニテ會陰  
ヲ防護スル法

屈セシメ兩膝間ニハ大ナル枕子ヲ挿入シ以テ之レヲ離開セシメ產婆ハ  
産婦ノ背側ニ坐テ占メ豫カシノ其手ヲ防腐シ肛門及ビ會陰ノ後部ニハ  
石炭酸水中ニ侵セル一片ノ綿花ヲ貼シ圖ニ示スガ如ク一手(例之ハ右手)  
ノ指ヲ伸展シ拇指ヲ一側ノ陰唇ニ他ノ四指ヲ他側ノ陰唇ニ抵テ拇指及  
ヒ示指ノ中間ヲ正ニ陰唇繫帶ノ部ニ抵テ其緣ヲ去ルコト一仙迷ナラシ  
ム又他手ハ恥骨縫際上ヨリ兩脚間ニ送り其四指ヲ以テ兒頭ヲ支持ス此  
ノ如クニシテ陣痛發起スレバ會陰部ノ手ヲ以テ兒頭ヲ骨盤内ニ壓シ恥  
骨縫際ヨリセル手ヲ以テ兒頭ヲ前方ニ牽引ス可シ而シテ兒頭前進シ前  
額露出スルノ際即チ兒頭最大周圍徑ノ産出スルノ時期ニ於テ會陰部ノ  
手ヲ以テ會陰部ヲシテ顔面ヲ越エテ頤部ニ至ルマテ推送セシム

乙、仰臥ニテ會陰ヲ防護スル法

産婦ヲ仰臥セシメ其兩脚  
ヲ開キ且ツ屈セシメ臀下ニハ枕子ヲ挿入シ少シク之レヲ高クシ術者ハ  
産婦ノ右側ニ坐テ占メ側臥防護法ニ於ケルガ如ク手ヲ防腐シ綿花ヲ貼  
用シ圖ニ示スガ如ク右手ノ指ヲ並列シ會陰及ビ肛門ノ上ニ貼シ陰唇繫

仰臥ニ於テ會陰ヲ防護スルノ圖



兒頭ヲシテ徐々ニ會陰ヲ通過セシムルニ

第七十六圖

帶ノ部凡ソ一仙迷ヲ露  
ハシ更ニ前法ノ如ク他  
手ハ腹壁上ヨリ兒頭ニ  
貼シ陣痛ノ際同一ノ方  
法ニヨリ其力ヲ施コス  
可シ  
兒頭ヲシテ徐々ニ  
會陰ヲ通過セシム  
ルニハ 産婦ヲ安靜  
ニシテ努責ヲ禁ツ手足  
ニ支持セル物品ハ皆之  
レヲ除去スルヲ要ス若  
シ此ノ如クスルモ尙ホ  
努責スルモノハ急速ニ

會陰ヲ防護ス  
可キ時期

深キ呼吸ヲ營マシムルヲ佳トス

會陰ヲ防護ス可キ時期 會陰防護法ヲ施コス可キ適當ノ時期ハ  
會陰部頗ル膨出シ且ツ非薄トナリ兒頭ノ產出近キニ在ルノ際ニ於テス  
可シ早キニ失スルキハ兒頭ノ前進ヲ妨グ且ツ會陰部ノ十分ニ延張スル  
ヲ妨害ス可シ但シ防護ヲ要ス可キ時期ニ近カハ手及ヒ其他ノ準備ヲ整  
ヒ直チニ施術ヲ得ベカラシムルヲ要ス

後會陰壓出法

後會陰壓出法

ハ若シ兒頭深ク腔内ニ下リ而シテ其露出スルニ至  
ルマテ久シク時間ヲ費ヤシ爲メニ羊水中ニ胎尿ヲ混ズルカ又ハ心音緩  
慢トナルカ如キ胎兒危險ノ徵ヲ發スルニ當リ容易ニ產出セザルキハ即  
チ兒頭ノ後會陰壓出法ヲ行ハサル可ラズ此ノ如キ場合ニ於テハ會陰部  
球狀ニ膨出シ尾骶骨ノ尖端ト肛門トノ間若シハ稍其側部ニ於テ薄キ皮  
膚ヲ隔テ兒ノ前額及ヒ上下顎ノ存スルヲ觸知シ得可シ依テ産婦ヲ側臥  
ニ就カシム即チ第一頭蓋位ニ於テハ左側臥第二頭蓋位ニ在リテハ右側  
臥ヲ與ヘ手ヲ尾骶骨ト肛門トノ中間ニ貼シ陣痛時又ハ陣痛間時ニ於テ

顔面ヲ壓出ス可シ此際一手ヲ兒頭ニ加ヘ其急劇ノ産出ヲ豫防シ以テ可及的會陰ヲ損傷セザラシメノヲ務ムルヲ要ス

第六十五章 軀幹産出時ノ處置

兒頭産出後ノ狀況及ビ肩胛産出ノ處置  
産出ノ處置

兒頭産出後ノ狀況及ビ肩胛産出ノ處置 兒頭既ニ産出スルトキハ軀幹ノ未ダ産出セサルニ先チ多クハ呼吸ヲ發シ稀レニハ啼泣スルコトアリ此際小兒ノ口鼻ニ粘液ノ附着セルモノナルガ故ニ注意シテ小指ヲ以テ之ヲ除去シ且ツ綿花若クハ瓦設ヲ以テ其周圍ヲ拂拭シ以テ次回ノ陣痛ヲ持ツ可シ而シテ二三分間ヲ經ルモ尙ホ陣痛起ラザルトキハ子宮底ヲ環狀ニ摩擦シテ陣痛ヲ喚起シ且ツ産婦ニ努責セシム此ノ如クニシテ指ヲ以テ兒ノ下顎及ビ後頭ニ沿ヒテ之レヲ保持シ先ツ會陰ノ方ニ壓シ前方ノ肩胛ヲ恥骨弓下ニ産出セシメ次ニ兒頭ヲ恥骨ノ方ニ推進シ以テ會陰ノ方ニ位セル肩胛ヲ脱出セシム可シ——若シ尙ホ肩胛ノ産出シ難キトキハ兒背ヨリ一手ノ示指ヲ前方ノ腋窩ニ懸ケ初メハ會陰ノ方ニ牽キテ前肩ヲ出ダシ次ニ恥骨縫際ニ向テ引キ後方ノ肩ヲ脱セシ

頸部臍帶纏絡ノ處置

ムルヲ要ス肩胛産出スレバ他ハ自ラ脱出スルモノナリ凡ソ兒體ヲ挽出スルニハ決シテ頭ヲ執リテ牽引ス可ラズ是レ頸筋及ビ脊髓ヲ傷クルノ危険アルニヨル

頸部臍帶纏絡ノ處置

小兒ノ頸部ニ一廻若クハ二三廻ノ臍帶纏絡ヲ呈スルハ屢之レアリ此纏絡ハ解除スルヲ要スレバ兒頭ノ産出スルヤ否ヤ之レヲ探リテ解カントチ求ムルハ不可ナリ肩胛ノ産出スルニ及ビ輕ク其兩端ヲ牽キ試ミテ之レヲ緩メ頭部ヲ廻ラシテ胸面ニ送り次テ纏絡ヲ脱セシム可シ若シ又其纏絡スルヲ緊密ニシテ脱シ難キヲアラバ兩個ノ結紮ヲ施コシ剪刀ヲ以テ其中間ヲ切離シ直チニ軀幹ヲ挽出ス可シ

兒體全ク挽出スレバ

兒體全ク挽出スレバ 側臥セル産婦ヲ靜カニ仰臥セシメ小兒ハ臍帶ヲ牽引若クハ壓迫スルヲナク母ノ兩脚間ニ置キ温メ且ツ清潔ナル襪ヲ以テ身體ヲ被ヒ顔面ヲ自由ナラシメ大凡ソ五分間ニシテ臍帶ヲ切離スルニ至ル可シ若シ小兒ノ假死ニ陥ルモノニ在リテハ直チニ臍帶

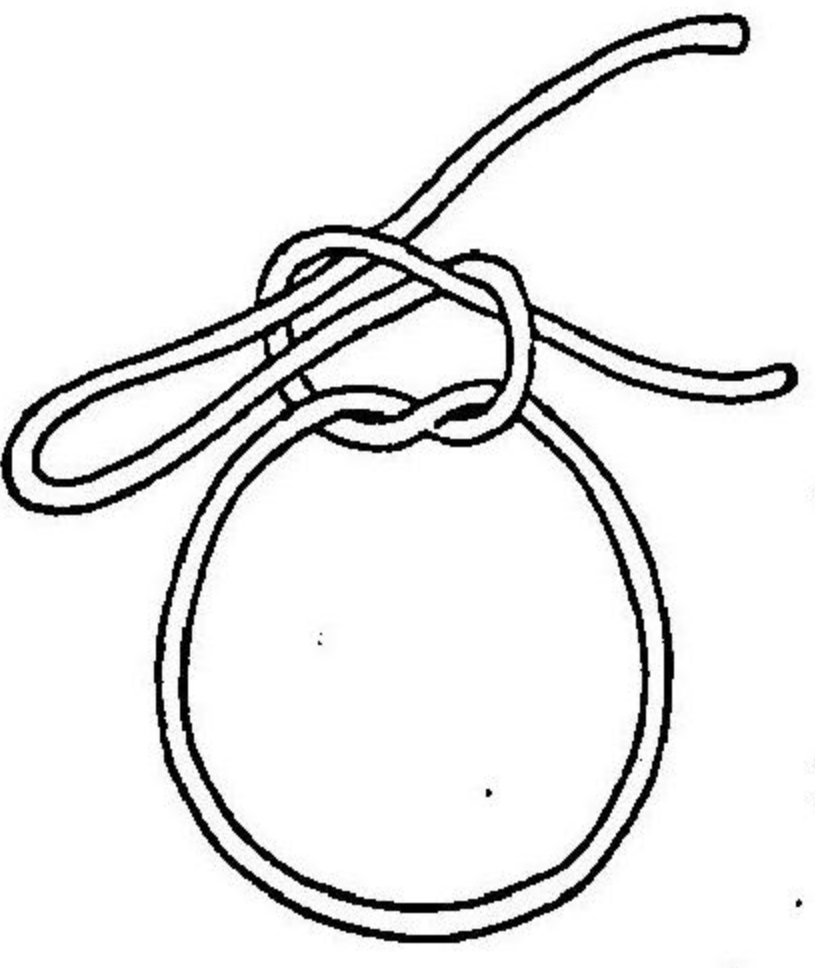
ナ結紮切離シ以テ人工呼吸法ヲ施コサ、ル可ラズ  
小兒若シ直チニ聲ヲ放テテ啼泣セザルキハ手ヲ以テ輕ク臀部ヲ打テ若  
クハ冷水ヲ此部ニ灌グ可シ

### 第六十六章 臍帯切離法

臍帯結紮ノ時期及ビ方法

小兒産出シ二三分若クハ五分間時  
トシテハ十分時間ヲ經ルキハ臍帯ノ搏動漸ク微弱トナリ終ニ止ムニ至  
ル而シテ呼吸活潑ナルキハ臍帯搏  
動ノ止ムヲ從テ速カナル者ナリ既  
ニ臍帯ノ搏動止メハ之レヲ結紮ス  
可シ即チ小兒ノ臍ヲ隔ツル二三指  
横徑ニシテ長サ二十仙迷テ有スル  
結紮紐若クハ麻絲ヲ以テ第七十八  
圖ニ示スカ如キ結節ヲ造リ緊シク

第七十八圖 臍帯結紮ノ圖



第一ノ結紮ヲ施コシ次ニ第一結紮ヨリ更ニ三指横徑ヲ隔テ、第二結紮

ナ行ヒ臍帯剪刀ヲ取リテ兩結紮ノ中央ヲ切離ス可シ此際一手ヲ以テ剪  
刀ヲ覆ヒ誤テ兒ノ手足ヲ傷ツクルヲナカラシム可シ——此ノ如ク胎盤  
ノ方ニ第二ノ結紮ヲ施コス所以ハ出血ノ爲メニ妄リニ床上ヲ不潔トナ  
ラシムルヲ防キ又ハ胎盤ヨリ流出スル血液ヲ防止シ胎盤ヲ軟カナラシ  
メズンテ剝離ヲ容易ニシ且ツ若シ雙胎ナルキハ第二兒ノ血液ヲ失ハサ  
ラシムルノ要アルモノトス

既ニシテ臍帯ヲ切離シ終ラハ

温カニ小兒ヲ被包シ之レヲ傍  
ニ置キ若クハ介者ニ渡シ産婆ハ子宮ノ状態ニ注意シ手ヲ腹上ニ置キ其  
弛緩スルヲナキヤヲ觸知ス可シ

### 第六十七章 後産期ノ處置

既ニ後産期ニ至レバ

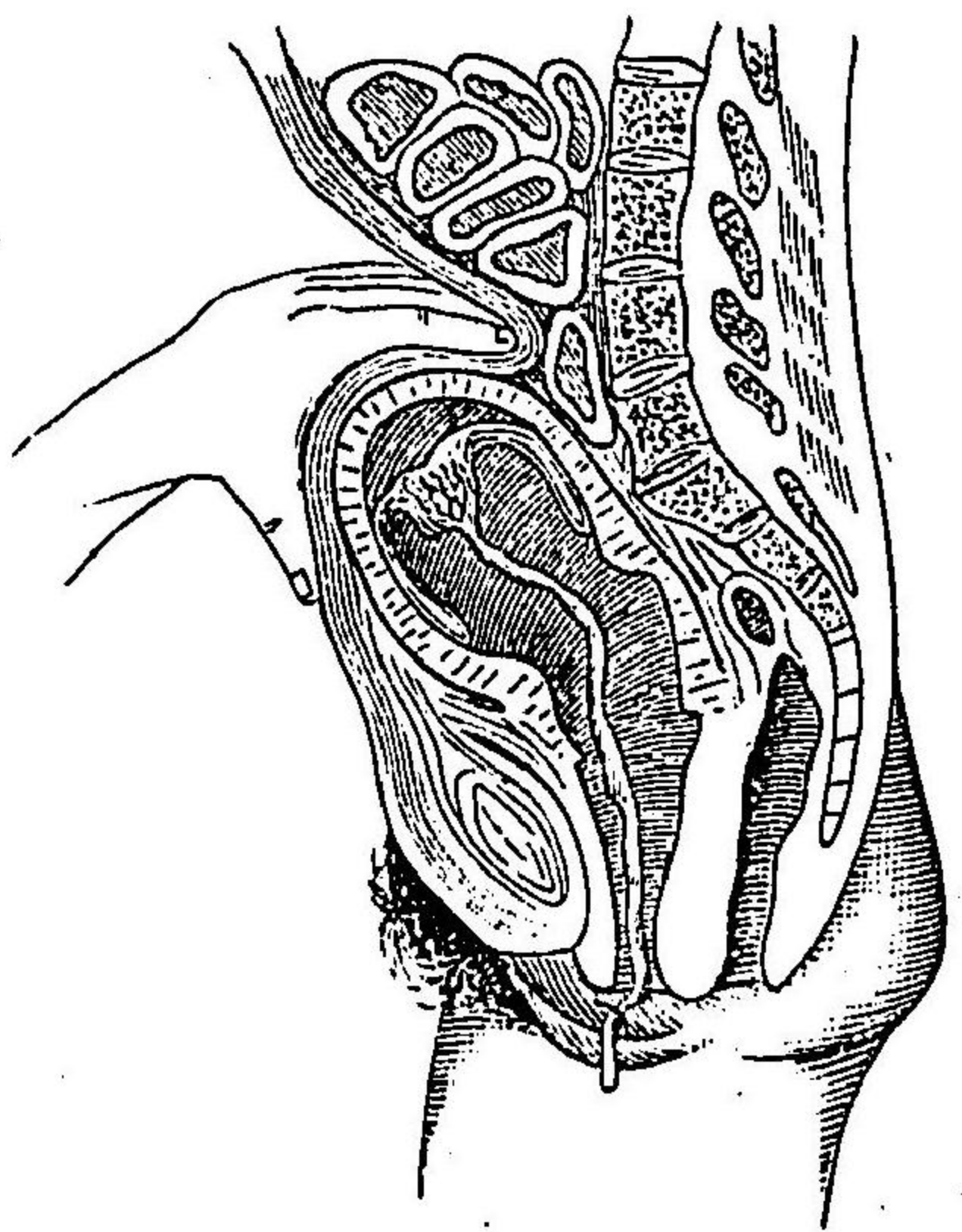
子宮ハ變小シ硬固トナリ胎盤ハ漸次ニ下  
降シ從テ臍帯モ亦進出スルモノナルガ故ニ善ク之レニ注意ス可シ即チ  
前項ノ末文ニ述ブルガ如ク手ヲ腹上ニ貼シテ子宮ノ状態ヲ檢シ且ツ臍  
帯ヲ徐カニ引キテ其何レノ部マテ出テ居ルヤヲ記憶シ以テ爾後ノ比較

胎盤壓出法及  
ノクレイデ氏  
胎盤壓出法

ニ供ス可シ而ノ他ニ異常ナキハ子宮ヲ摩擦シ若クハ胎盤ヲ牽出スル  
等ノ事ヲ試ム可ラズ然レモ子宮柔軟トナリ變小スルコトナキハ腹上ヨ  
リ輪狀ニ摩擦シ之レヲ收縮セシムルヲ要ス其他外陰部ノ下方ニハ布片  
ヲ抵テ以テ出血ノ多少ヲ檢ス可シ子宮善ク收縮スルノ際出血アルキハ  
産道ノ損傷ニ基クモノナリ  
此ノ如クニシテ二時間ヲ經過スルモ尙ホ胎盤ノ下降セザルキハ茲ニ初  
メテ胎盤壓出法ヲ行ヒ以テ其娩出ヲ助ク可シ

**胎盤壓出法及ビノクレイデ氏ノ胎盤壓出法** 先ツ子宮ヲ腹  
上ヨリ輪狀ニ摩擦シ陣痛ノ起ルニ乘テ産婦ヲシテ努責セシム而シテ尙ホ  
娩出セサルキハ陣痛中ニ一手ノ拇指ヲ子宮ノ前壁ニ抵テ四指ヲ後壁ニ  
送りテ子宮底ヲ把握シ以テ子宮ヲ骨盤内ニ壓ス之レヲノクレイデ氏胎  
盤壓出法ト云フルカ若クハ一手ノ小指側ヲ臍ト恥骨縫隙トノ中間ニ抵  
テ薦骨岬ニ向テ壓迫ス可シ就中ノクレイデ氏法ハ最モ効アルモノニシテ  
之ヲ施コスコ五分乃至十分ナルキハ後産ヲ娩出セシムルヲ常トス只此

第七十九圖  
ノクレイ  
デ氏胎  
盤壓出  
法ノ圖



法ヲ施コスコ早キニ  
失スルキハ時トシテ  
未ダ剝離セザル後産  
片ヲ遺殘セシメ産褥  
熱子宮内膜炎等ヲ誘  
起セシムルノ害アリ  
此等ノ壓出法ヲ施コ  
スモ尙ホ後産ヲ娩出  
セシムルコト能ハサル

コアラバ次ニ挽出法ヲ行フ可シ其困難ナルモノハ速カニ醫治ヲ求ムル  
ヲ要ス

胎盤挽出法

胎盤挽出法

臍帶ヲ執リテ強劇ノ力ヲ加フルコト先ツ下方ニ挽  
キ次ニ前方ニ向ハシメ胎盤ノ一部外陰部ニ露ハルヲ見ハ新タニ防腐  
セル手指ヲ以テ之レヲ握キリ徐カニ轉振シ傍ラ之レヲ挽出ス可シ然ル

キハ卵膜索狀ヲナシ多クハ破裂ヲ生スルコトナシ此ノ如クニシテ後産ヲ  
娩出セシムルキハ盪等ノ如キモノニ載セ委シク胎盤卵膜ノ各部ヲ檢シ  
其一部破裂シテ子宮内ニ遺存セルコトナキヤヲ視ル可シ——後産娩出ノ  
際卵膜ノ一片裂ケテ産道内ニ遺存セシトスルモノハ臍帶結紮ヲ以テ  
之レヲ固結シ以テ胎盤部ヨリ切離シ消毒法ヲ嚴ニシテ之レヲ放置ス可  
シ十二乃至二十四時、後容易ク抽出シ得ルモノナリ

出血若クハ胎  
盤ノ娩出セザ  
ル場合

出血若クハ胎盤ノ娩出セザル場合 小兒娩出後二時間ヲ經  
ルモ胎盤下降セザルカ若クハ甚ダシク出血スルキハ速カニ醫師ノ來診  
ヲ請フ可シ而シテ醫治ヲ求ムルニハ必ズ事情ヲ記シテ報告スルヲ要ス

### 第六十八章 新タニ分娩ヲ終レル産婦ノ處置

陰部及ビ子宮  
ノ處置并ニ小  
兒ノ入浴

陰部及ビ子宮ノ處置并ニ小兒ノ入浴 後産全ク娩出スルキ  
ハ陰部ニ損傷ヲ生セシコトナキヤヲ檢ス可シ即チ産婦ヲ仰臥セシメ兩脚  
ヲ屈シ兩膝ヲ開キ防腐セル一手ノ拇指及ビ示指ヲ以テ陰唇ヲ開張シ之  
レヲ檢査スルヲ要ス此際多量ノ出血アラハ子宮ノ弛緩ニヨルカ外陰部

後産ノ檢査

又ハ子宮口ノ損傷ニヨルカ若クハ單ニ子宮内ノ溜血ニ基ツクカヲ檢知  
ス可シ——此ノ如クニシテ外陰部ハ二%石炭酸水若クハ二%硼酸水ヲ  
以テ洗滌シ若シ大ニシテ一仙迷以上ニ達スル會陰裂傷アラハ其狀ヲ記  
シテ醫ノ來診ヲ請フ可シ小ナル者ハ收テ之レヲ要セズ單ニ上記ノ防腐  
液ヲ瓦設ニ浸シテ貼用シ其上ニ乾燥セル綿花若クハ布片ヲ抵テ兩脚ヲ  
收閉シ安臥セシメ次ニ一手ヲ腹上ニ抵テ子宮ヲ輪狀ニ摩擦シ以テ陣痛  
ヲ催起セシメ陣痛發スルトキハ其手ヲ安靜ニ腹上ニ置キ此ノ如クニシ  
テ數回反復シ子宮ノ再ビ弛緩シ増大セザルニ至ル而シテ後ヲ始メテ小  
兒ニ入浴セシム可シ其間胎盤産出後凡ソ十五分時ナリトス——小兒ヲ  
浴セシムル間モ亦屢子宮ヲ觸診シ及ビ陰部ノ布片ニ注意シ且ツ出血ア  
ラハ産婦ヲ直チニ告ケシム可シ

後産ノ檢査 以上ノ處置ヲ終ラバ後産ヲ檢査セザル可ラズ即チ之  
レヲ洗ヒ胎盤及ビ卵膜ニ断裂シ欠損セル所ナキヤ否ヤヲ視ル可シ若シ  
其欠損セル所アラハ醫師ヲ招カンコトヲ要ス又後産ハ時トシテ醫ノ檢

新産婦分娩後ノ處置

查ヲ要スルコトアルニヨリ凡テ異常アルモノハ之レヲ保存シ加之、正規ナルモノト雖モ其排出後二時間ヲ經ルニアラザレバ之レヲ棄テ去ル可ラズ時トシテハ胎盤完全ニ産出スルモ副胎盤アリテ遺存スルコトアリ

**新産婦分娩後ノ處置** 分娩後二三時間ヲ經、以上記スル所ノ必要ナル處置ヲ終ルノ後、著シキ出血ナク子宮ハ善ク收縮シテ硬固トナリ、手拳大ノ圓球形ヲナシテ恥骨縫際上ニ觸知セラル、ニ至ラハ尙ホ一タヒ二%ノ石炭酸水ヲ浸セル綿花若クハ瓦設片ヲ以テ外陰部ヲ拂拭シ而シテ同シク石炭酸水ヲ浸セル布片ヲ陰部ニ貼シ其上ニ乾燥セル綿花ヲ加ヘ丁字縲帶ヲ以テ之レヲ固定ス可シ又敷布モ新シク温暖ナルモノト交換シ且ツ腹帶ヲ施コサソト要ス此際新産婦眠ヲ催スト雖トモ他ニ異常ナキモノハ之レヲ妨ク可ラズ次ニ更ニ小兒ノ臍帶ヲ檢シ出血ノ存スルコトナキヤチ見ル可シ此ノ如ク總テノ處置ヲ終リ産婦及ヒ小兒ノ共ニ安全ナルヲ見ハ始メテ産家ヲ去ルヲ得ベシ

腹帶

**腹帶** ハ腹壁ノ弛緩ヲ防キ子宮ノ收縮ヲ催進スルノ益アリ腹帶ノ最

腔内ノ洗滌

モ簡便ナルモノハ長サ一迷ノ布片ヲ取り中央凡ソ三分ノ一ヲ殘シテ兩端ヲ各四片ニ裂キ産婦ノ腹上ニハ綿花ヲ置キ腹帶ヲ背ヨリ廻ラシメ其兩端ノ各片ヲ綿花ノ上ニ結合スルニ在リ

**腔内ノ洗滌** 腔内ハ分娩輕易ナルモノニアリテハ必スシモ之レヲ洗フコトヲ要セズ若シ洗滌ヲ要スルモノハ必ス醫師ノ命ヲ請フ可シ而シテ洗滌ヲ施コスノ際ハ挿入セルイルリガードルノ嘴管ヲ以テ會陰ヲ壓シ善ク洗滌液ヲ流出セシメ且ツ瓦設片ヲ以テ拭ヒ去ル可シ

第六十九章 正規ニアラサル分娩ノ論

以下第六十九章乃至第八十三章ニ於テ記述スル所ハ屢醫治ヲ要シ若クハ每常醫師ノ治療ヲ請ハサル可ラザルモノナルニヨリ産婆學ニ於テハ之レヲ異常ニ屬セシム可キモノナリ然レトモ其説明ト講習ト共ニ便利ナルニヨリ共ニ之レヲ此篇中ニ論ス可シ

**異常分娩ニ於ケル産婆ノ任務** 既ニ序論中ニ論述セルガ如ク産婆ハ自ラ主トシテ異常ノ分娩ヲ處置ス可キモノニアラズト雖モ若シ

異常分娩ニ於ケル産婆ノ任務

異常ナル場合ニ於テハ早ク之レヲ認識シ以テ産科醫ノ治療ヲ求メ醫ノ未ダ到ザルノ間ハ必要ノ處置ヲ施コシ且ツ危急ノ場合ニ於テハ産婆學ニ於テ許ス所ノ治方ヲ行ヒ以テ母體若クハ兒體ノ生命ヲ救フ可キモノトス産婆若シ此本務ヲ越エ擅マ、ニ異常ノ分娩ヲ處置シ醫治ヲ請ハサルトキハ分娩ノ經過ヲ不良ナラシメ遂ニ母兒兩體ニ危害ヲ加フルニ至ル可シ是レ其罪ヲ免ル可ラサル所ナリ

産婆若シ醫治ヲ緊要ナリトセバ猶豫ナク之レヲ求ム可シ但シ丁寧ニ之レヲ家人ニ告ケテ注意セシムルヲ要ス而シテ醫師ニハ必ス其要旨ヲ記セル書狀ヲ以テ來診ヲ請フ可シ

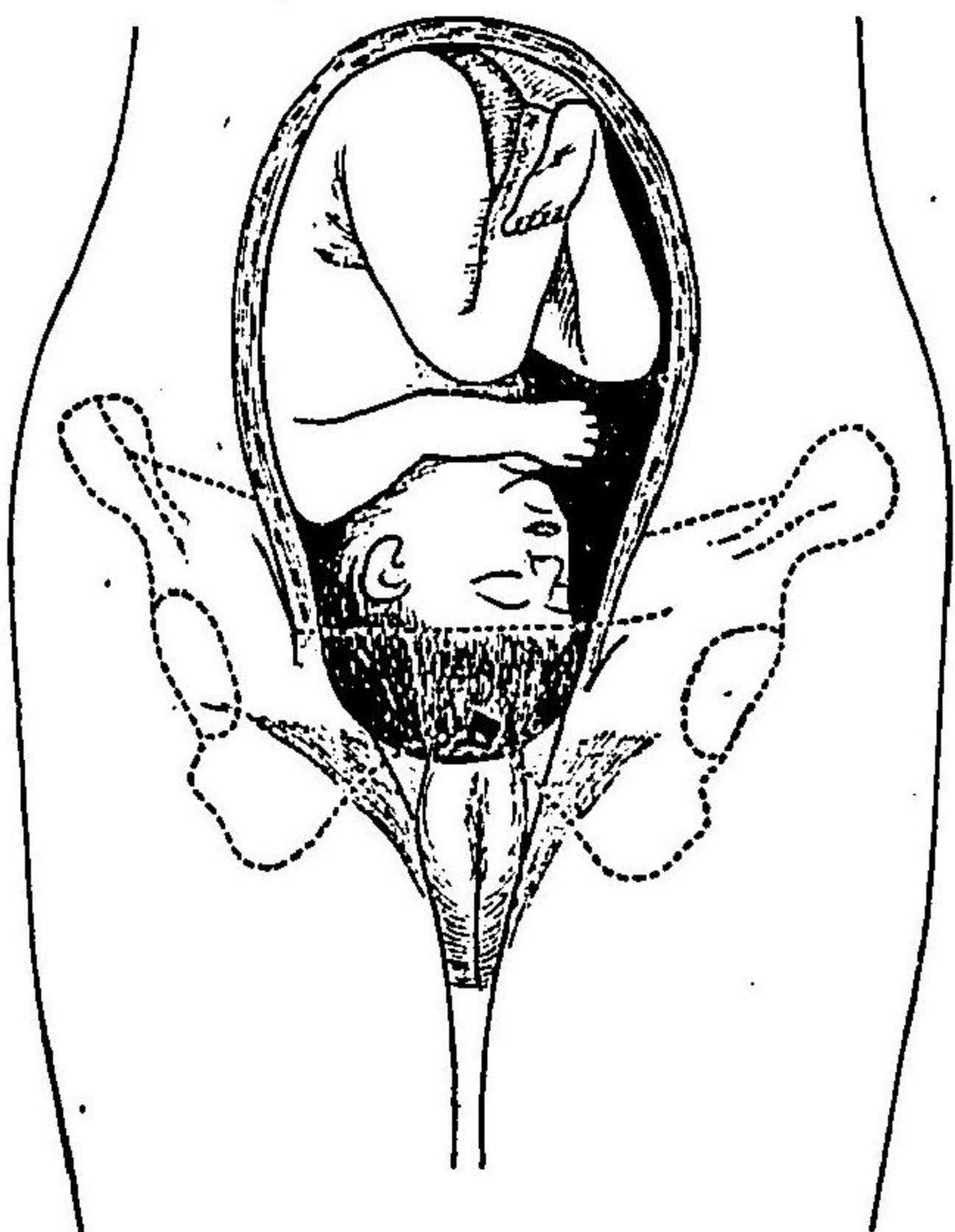
第七十章 第三及び第四頭蓋位前頭頂位若クハ前頭位ノ分娩

第三及び第四頭蓋位

第三及び第四頭蓋位 此位置ハ既ニ第五十七章ニ於テ説述セルガ如ク兒ノ後頭右後方ニ向ヒ或ハ左後方ニ對シ骨盤内ニ進入スルモノニシテ前頭頂部ノ前部初メニ産出スルガ故ニ前頭位又ハ前頭頂

内外検査

第八(第三頭蓋位)ノ前頭位



位ト名ク此位置ハ小ナル胎兒圓形ナル兒頭廣潤ナル骨盤ニ之レヲ見ルコト多シ而シテ兒頭骨盤内ヲ通過スルノ際頭蓋ノ周圍徑大ナルガ故ニ後頭位(第一頭蓋位)及ビ第二頭蓋位ヲ云ニ比

スレバ分娩困難ニシテ小兒ノ死ヲ致スコト稍多シ——又第三及び第四頭蓋位ハ其前頭前方ニ位スト雖トモ時トシテハ骨盤内ヲ通過スルニ當リ全ク回轉シテ前頭ハ後方ニ後頭ハ前方ニ向ヒ變シテ後頭位トナルコトアリ

内外検査 外検査ニ就キ第三頭蓋位ハ第二頭蓋位ニ同シク第四頭蓋



器械的作用

位ハ第一頭蓋ト異ナルコトナシ尙ホ第五十四乃至五十六章ヲ參看ス可シ(第五十二圖ハ第三頭蓋位第五十一圖ハ第四頭蓋位ヲ示ス併セ見ル可シ)内檢査ニ在リテハ第三頭蓋位ノ大顛門ハ左前方ニ小顛門ハ右後方ニ位シ第四頭蓋位ノ大顛門ハ右前方ニ小顛門ハ右後方ニ存ス

器械的作用 兒ノ前頭即チ大顛門ノ部最モ低ク降り其顔面ハ左右クハ右ヨリ前方ニ廻リ前頭結節ノ部位恥骨弓下ニ止マリ後頭ハ會陰部ヨリ産出ス

處置

處置 敢テ特別ノ方ヲ施コスヲ要セズ只第一及ビ第二頭蓋位ニ比スレバ會陰破裂ヲ生シ易キニヨリ之レニ注意ス可シ若シ分娩甚ダシク遲延スルトキハ醫治ヲ求ムルヲ要ス

第七十一章 前顛頂骨位及後顛頂骨位ノ分娩

前顛頂骨位ノ分娩

前顛頂骨位 二在リテハ矢狀縫合骨盤ノ横徑ニ位シ著シク薦骨岬ニ密接シテ存シ後顛頂骨位トハ矢狀縫合同シク骨盤ノ横徑ヲ占メ

前顛頂骨位

後顛頂骨位

且ツ甚ダシク恥骨ニ近接セルモノナリ此ノ兩位置ハ通例狹窄骨盤ニ基  
因セルモノニシテ速カニ醫治ヲ求ム可キモノトス

第七十二章 頭蓋位深在横位ノ分娩

兒頭骨盤内ヲ下降スルニ當リ第二回轉ヲ營マス爲ニ骨盤腔内ニ至ルモ其矢狀縫合依然トシテ横徑ニ位シ時トシテハ骨盤出口ニ達スルコトアリ之レヲ頭蓋位深在横位ト云フ此ノ如クナルトキハ兒頭兩坐骨間ニ嵌入シ産機全ク停止ス可シ此變狀ハ兒頭圓形ナルカ若クハ扁平骨盤ナルニヨリテ發スルモノナリ

處置

處置 産婆ハ産婦ヲ兒ノ後頭ノ位セル側方ニ臥セシメ以テ兒頭ノ回轉ヲ促ガサンコトヲ要ス若シ兒頭回轉セズ分娩遲延スルトキハ速カニ産科醫ヲ招聘センコトヲ要ス

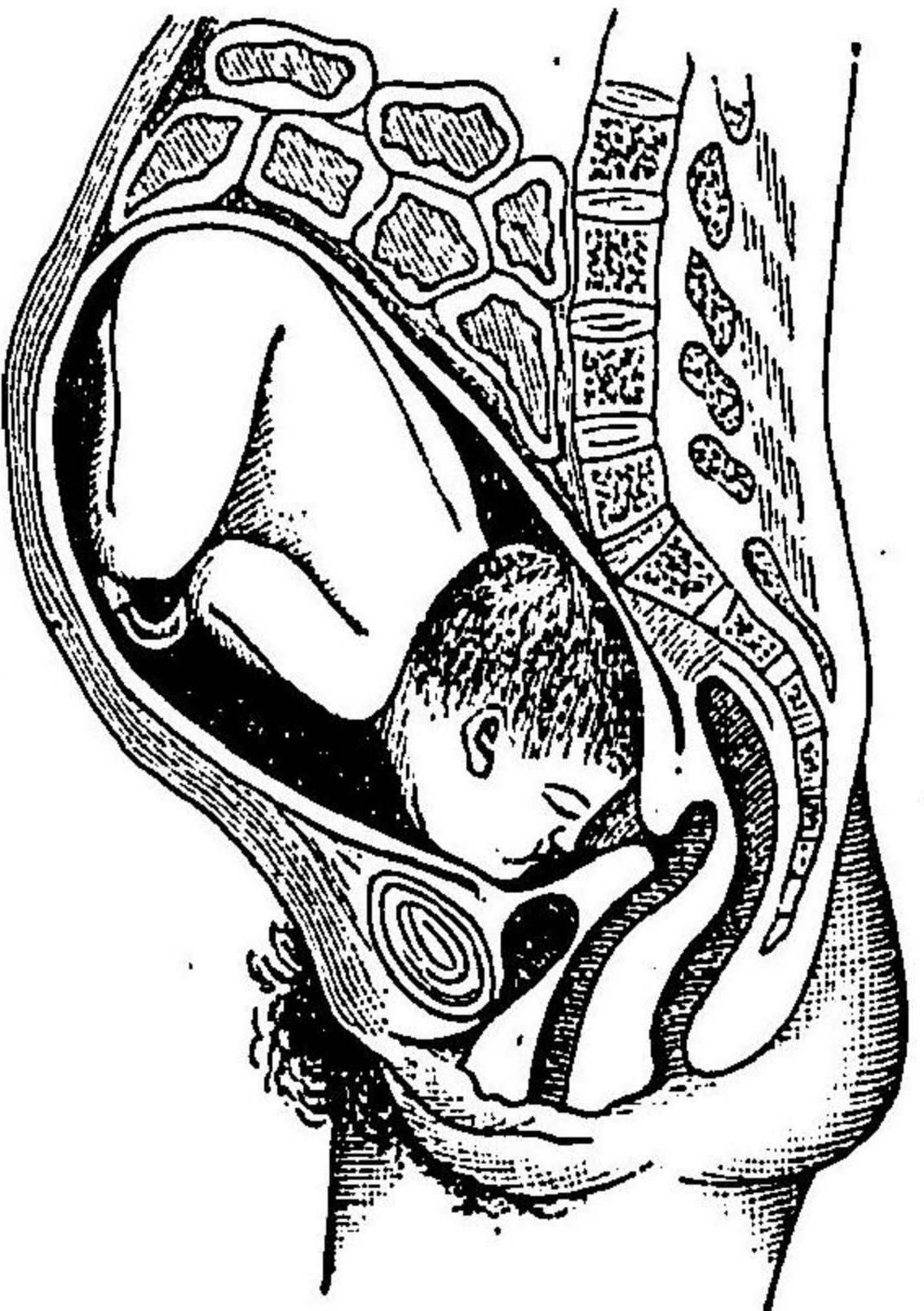
第七十三章 顔面位ノ分娩

顔面位 トハ前頸ヲ伸張シ胸ヲ突出シ後頭ハ背ニ密着シ顔面初メニ骨盤内ニ進入スルモノナリ此位置ハ稀レニシテ凡ソ二百回ノ分娩中一

顔面位

顔面位ノ區別

第八十圖  
第一顔面位ノ區別



回アリトス

顔面位ノ區別

顔面位ニ二種アリ第一顔面位及び第二顔面位ト云フ(甲)第一顔面位ハ其背及び前額母體ノ左側ニ向フモノ(乙)第二顔面位トハ

外検査法

母體ノ右側ニ於テ兒背及び前額ノ位セルモノ是レナリ  
外検査法 第一顔面位ニ於テハ其胸母體ノ右側ニ於テ廣キ面ヲナシテ觸知シ茲ニ心音ヲ聽クベシ臀部ハ足部ト共ニ子宮底ノ左側若クハ中央ニ位シ骨盤入口上ニハ兒頭ヲ觸知ス可ク殊ニ後頭ハ左方ニ於テ兒ノ背面ヨリ著シク突隆セルヲ知ル可シ第二顔面位ニ在リテハ此等ノ部分左右全ク相反セルヲ檢知ス可シ但シ外検査法ニヨリ明カニ第一及び

第一顔面位ノ内検査法

第二顔面位ヲ識別スルコト能ハズシテ或ハ第一位ヲ第二位トナシ或ハ之レニ反シ第二位ヲ第一位ト誤認スルコトナキニアラズ之レヲ詳ラカニ識別センニハ内検査法ニヨルヲ要ス

第一顔面位ノ内検査法

内検査ヲ施コストキハ顔面ヲ觸知セラ  
ル此際注意シテ顔面殊ニ眼ヲ損傷セシム可ラズ但シ兒頭尙ホ高ク位シ  
胎胞存在スルトキハ顔面ヲ識別スルヲ得ザルコトモ亦之レアリ一而  
シテ觸診ノ際第一顔面位ニ於テハ骨盤入口内ニ横ニ位セル鼻梁ヲ觸ル  
可ク鼻梁ニ沿ヒ左方ニ到ルトキハ前頭縫合ニ達シ右方ニ於テハ口及び  
頤ヲ觸知セラル凡ソ顔面位ニ於テハ前頭縫合ヨリ鼻梁ヲ通り頤ノ中央  
ニ達スル線路ヲ顔面線ト云フ前ニ記セル所ハ此顔面線骨盤入口ニ於テ  
其横徑ニ位セルモノナリ又右側(母體ノ)ニ位セル顔面ノ半部即チ頤部ハ  
爾後最モ深ク位シ産出ニ際シ先進部ヲナスモノトス

第一顔面位ノ器械的作用

第一顔面位ノ器械的作用 前項記スル所ノ位置ヲ取り顔面骨盤内ニ進入スルトキハ先進セル頤部前方ニ廻リ骨盤腔内ニ於テ顔面線

難易  
顔面位分娩ノ

産瘤

第二顔面位

ハ第二斜徑線ト一致ス次ニ骨盤下口ニ至レバ顔面益回轉シ其顔面線ハ  
 遂ニ骨盤ノ直徑線ニ合シ爾後右頸部及び右口角部最初ニ陰裂間ニ露出  
 シ頤部ハ恥骨弓下ニ抵止シ茲ニ於テ初メニ顔面次ニ前額頤頂ヨリ終ニ  
 後頭ニ至ルマテ會陰部ヨリ産出ス兒頭既ニ産出スレバ顔面ハ右ニ向ヒ  
 肩胛ハ左斜徑即チ第二斜徑ヨリ骨盤内ニ入り骨盤出口ニ至レバ右肩ハ  
 恥骨弓下ニ出デ左肩ハ會陰部ヨリ産出シ兒體モ亦直チニ娩出スルコト  
 第一頭蓋位ニ異ナルコトナシ

第一一顔面位 於テハ内檢査ヲ施コスニ前額右方ニ頤部左方ニ向  
 ヒ顔面骨盤内ニ進入スルトキハ頤部前方ニ廻リ恥骨縫際下ニ出デ第一  
 顔面位ノ如ク産出シ其顔面左腿ニ向ヒ次ニ肩胛ハ第一斜徑線ヨリ骨盤  
 内ニ入り左肩恥骨縫際下ニ出デ右肩ハ會陰部ヨリ産出ス

産瘤 ハ第一顔面位ニ於テハ顔ノ右側ニ生シ第二顔面位ニ在リテハ  
 左側ニ現ハル且ツ顔面ハ横ニ壓縮セラレ甚ク醜形ヲ呈ス

顔面位分娩ノ難易 顔面位ニ於テハ先進部ノ周徑大ナルカ故ニ

難易  
顔面位分娩ノ  
處置

分娩頗ル困難ナリ且ツ小兒ノ死亡數ハ八%ノ多キニ至ル此ノ如ク死亡  
 數ノ多キ所以ハ分娩困難ニシテ時間ヲ費ヤスノ外小兒ノ伸展セル頸部  
 ハ産道ノ壓迫ヲ蒙リ爲メニ血行不良トナリ腦ノ靜血ヲ起スニヨル(靜血  
 トハ血液ノ還リ流ル、コト不良ニシテ靜脈血ノ鬱滯スルヲ云フ又充血  
 ト名クル)アリ血液ノ流入スルコト多量ニシテ動脈血ノ充積スルヲ云  
 フ)又初産婦ニ於テハ顔面位ノ分娩著シク困難ナリトス——若シ顔面位  
 ニシテ頤部先方ニ廻轉セズ却テ後方ニ向フトキハ甚ク不良ニシテ  
 到底自ラ分娩スルコト能ハザルモノトス

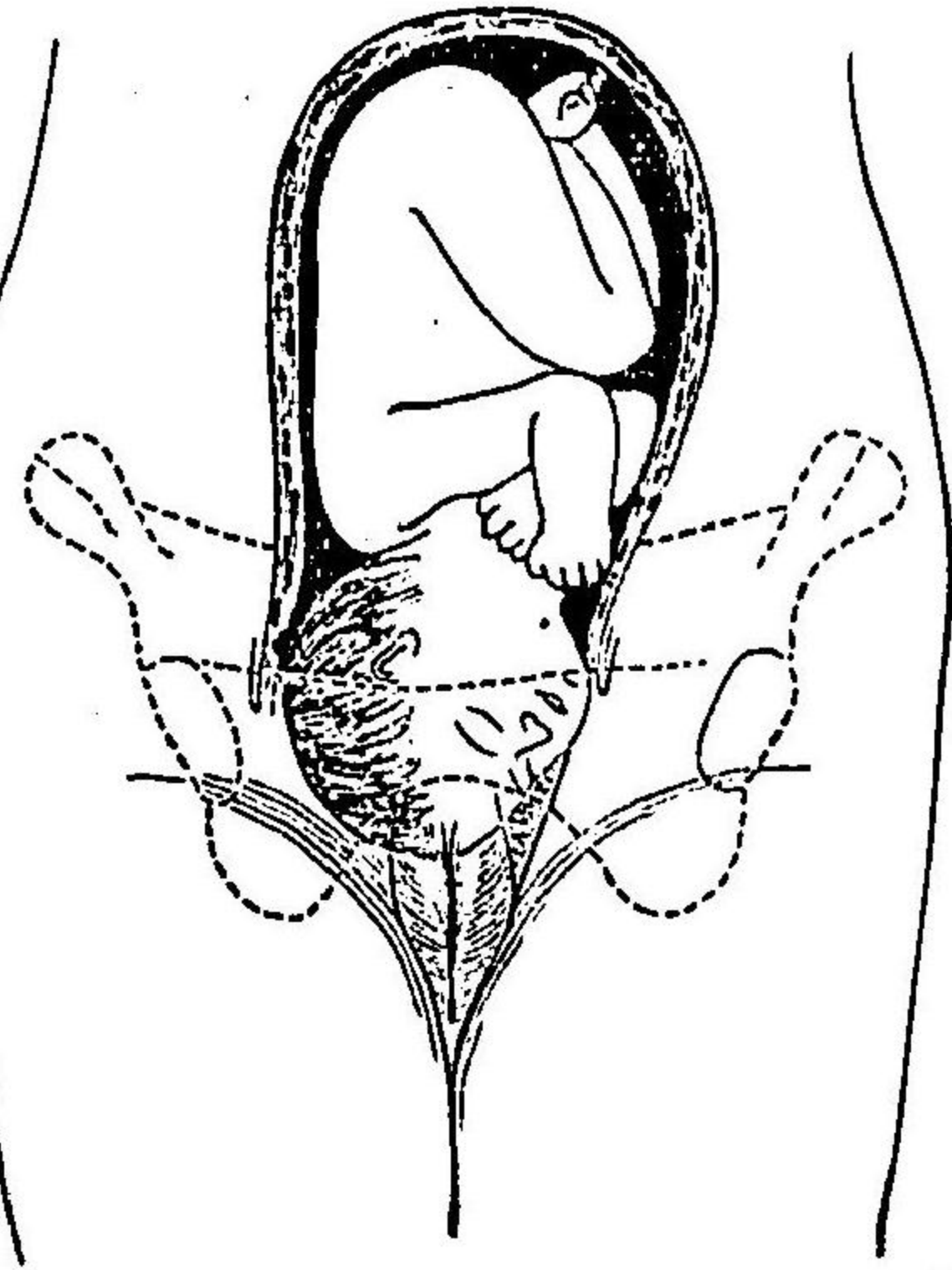
顔面位分娩ノ處置 顔面位ハ多クハ自ラ分娩ヲ營ミ得ルガ故ニ  
 必ズシモ醫治ヲ求ムルヲ要セザレトモ若シ分娩時間ヲ費ヤシ頤部前方  
 ニ回轉セズ又ハ却テ後方ニ向フモノハ速カニ醫師ノ處置ヲ求ムルヲ要  
 ス而シテ産婆自ラ之レヲ處置スルニハ骨盤端位ニ於ケルガ如ク早期ノ  
 努責ヲ禁シ内診ヲ慎重ニシ務メテ胎胞ヲ長ク保存セシムルヲ要ス而シ  
 テ産婦ノ臥位ハ兒頭ノ向ヘル側方ニ就カシメ胎胞既ニ破ル、ノ後ハ殊

●注●意●シ●テ●内●診●ヲ●施●コ●シ●小●兒●ノ●眼●ヲ●損●傷●セ●シ●ム●可●ラ●ズ●會●陰●防●護●法●ハ●側●  
 臥●ノ●位●置●ニ●於●テ●之●レ●ヲ●行●フ●可●シ●妄●リ●コ●シ●壓●迫●ス●ル●ト●キ●ハ●兒●ノ●頸●部●ヲ●恥●骨●  
 ニ●押●壓●シ●其●血●行●ヲ●妨●グ●死●ニ●至●ラ●シ●ム●ル●コ●ト●ア●リ●兒●頭●既●ニ●娩●出●ス●ル●ト●キ●  
 ハ●其●他●ノ●處●置●ハ●頭●蓋●位●ト●異●ナル●コ●ト●ナ●シ●只●小●兒●ノ●醜●キ●顔●貌●ハ●直●チ●之●  
 レ●ヲ●産●婦●ニ●見●セ●シ●ム●可●ラ●ズ●

第七十四章 額位ノ分娩

額位

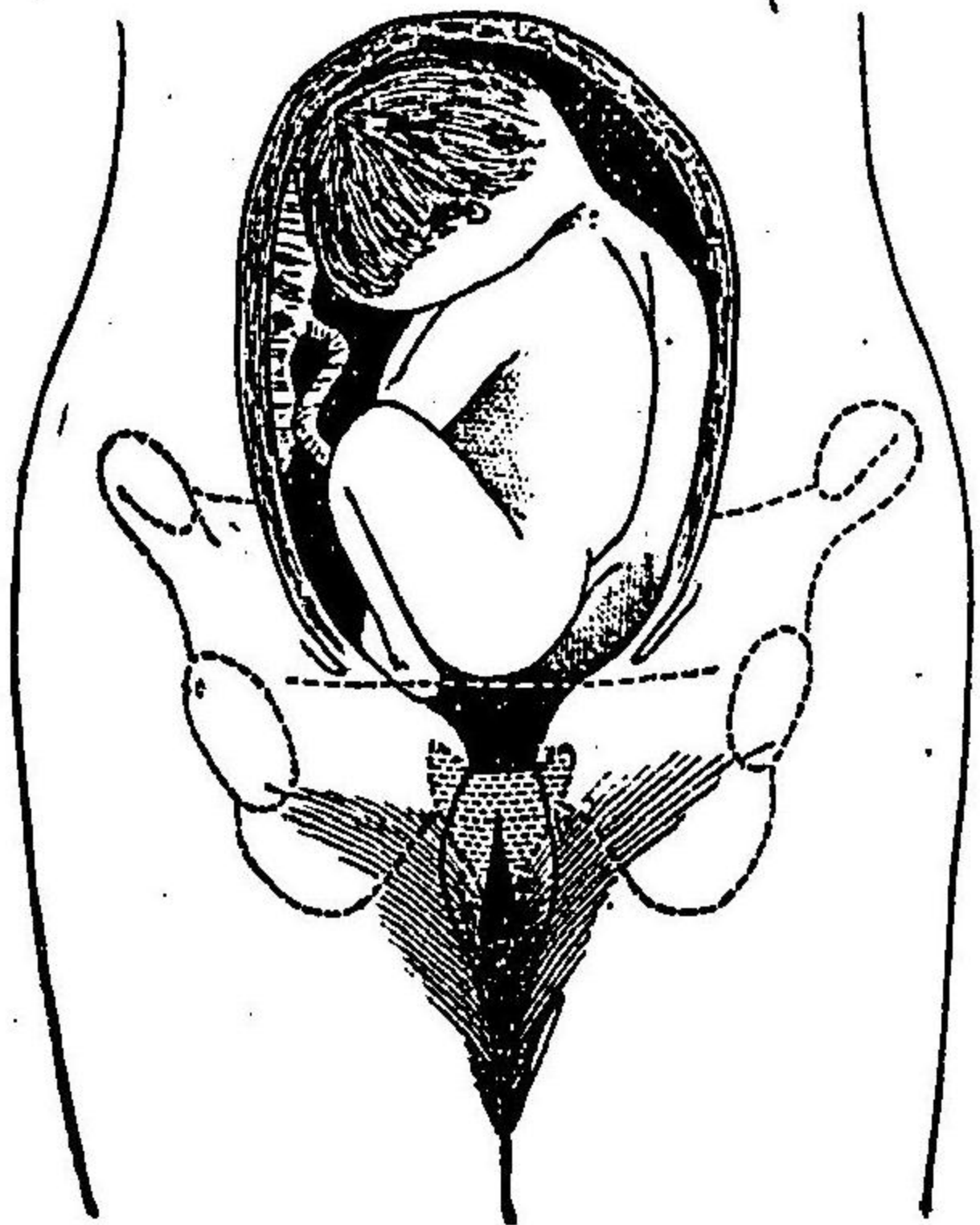
第二十八圖 額位第一額位ノ圖



額位 トハ前額部  
 ヨリ始メニ産出スル  
 モノニシテ極メテ稀  
 レナリ内診スルニ骨  
 盤入口ノ中央ニ前額  
 ヲ觸レ一側ニハ大額  
 門他側ニハ鼻梁ノ存  
 スルヲ知ル可シ此位

骨盤端位

第三十八圖 骨盤端位第一額位ノ圖



置ヲ取ルトキハ兒頭ノ周徑最モ大ナルガ故ニ頭位中最モ困難ナル分娩  
 ニ屬ス是レヲ以テ速カニ醫師ヲ聘ス可シ而シテ其來診スルニ至ルマテ  
 ハ産婦ヲ兒ノ顔面ノ存セル側方ニ臥セシメ以テ顔面位ニ變セシメメソコ  
 トヲ求ムルヲ長トス

第七十五章 骨盤端位

骨盤端位 トハ小  
 兒骨盤部ノ骨盤入口  
 ニ位スルモノヲ云フ  
 而シテ前章既ニ述ブ  
 ルガ如ク其先進部ノ  
 臀部ナルト膝部ナル  
 ト若クハ足部ナルト  
 ニヨリ之レヲ臀位膝  
 位及ビ足位トナシ足

位中更ニ全足位及ビ不全足位ノ二者ヲ區別ス就中最モ多數ナルヲ臀位トナス——又骨盤端位ハ多産婦狹窄骨盤及ビ流産兒若シハ早産兒ニ於テ屢之レアルモノナリ

各骨盤端位ノ區別

各骨盤端位ノ區別 臀位其他ノ各骨盤端位ニ於テハ顔面位等ニ於ケルガ如ク第一及ビ第二位ト區別ス今臀位ニ就テ之レヲ云ヘハ其兒背ノ左ニ向フヲ第一臀位ト名ケ右ニ對スルヲ第二臀位ト稱ス其他膝位及ビ足位モ亦之レニ異ナルコトナシ

### 第七十六章 臀位ノ分娩

臀位

臀位 ニ於テ兒背左ニ向フトキハ第一臀位右ニ對スルトキハ第二臀位ト名クルコト既ニ前章ニ述ブルガ如シ

外検査

外検査 ナ施コストキハ子宮底ノ中部若シハ側部ニ於テ圓形硬固ナル兒頭ヲ觸知シ恥骨縫際ノ上方ニ稍柔軟ナル臀部ヲ見ル可シ心音ハ臍部ノ高サ若シハ其上方ニ在リテ第一臀位ナルトキハ左側第二臀位ナルトキハ右側ニ聽取ス可シ小體部ハ深ク下腹内ニ位シ時トシテハ全ク觸

内検査

知シ難キコトアリ  
内検査 ナ行フトキハ腔穹窿部ヲ隔テ柔軟ニシテ不正圓形ナル臀部ヲ觸ル可シ而シテ臀部ノ一側ニハ尖リタル尾骶骨ト其上方ニ在リテ背面不平等ナル薦骨ヲ探知ス可シ又臀部ノ前方ニハ小ニシテ移動ス可キ足部アリ指ヲ以テ之レヲ觸ルトキハ容易ク逃去スルモノナリ子宮口開大スルトキハ卵膜尙ホ存スト雖トモ指ヲ以テ詳カニ臀部ノ周圍ヲ觸知ス可シ

### 第七十七章 第一臀位分娩ノ器械的作用

第一臀位

第一臀位 ニ在リテハ胎兒腰部ノ廣徑骨盤入口内ニ於テ多クハ第二斜徑ニ位シ稀レハ横徑ニ最モ稀レニハ第一斜徑ニ位スルコトアリ第一斜徑ニ在ルトキハ背面左後方ニ向フ骨盤内ニ於テハ常ニ第二斜徑ヲ取リ骨盤出口ニ至レバ左ノ臀部右前方ヨリ恥骨縫際下ニ至リテ止マリ右臀部ハ會陰部ヨリ出テ臀部全ク産出シ腹面ハ母體ノ右腿ニ向フ足ハ高ク舉上シ胸部ト共ニ露ハレ若シハ膝ヲ屈シ臀部ニ沿ヒテ位シ之レト

共ニ産出ス可シ次テ肩胛ハ第二斜徑ニ就キテ骨盤内ヲ下リ下口ニ至ルニ從ヒ臀部ノ産出スルガ如ク左肩ハ先ツ恥骨縫際下ニ至リテ停止シ右肩ハ會陰部ヨリ出テ遂ニ兩肩胛全ク産出ス此際兩上肢ハ胸前面ニ於テ交叉シ共ニ外陰部ニ露ハル爾後兒頭ハ屈伏セル位置ヲ取り頤部胸上ニ接着シ兒頭ノ直徑骨盤入口ノ横徑若クハ第一斜徑ト一致シテ其腔内ニ進入シ漸次ニ回轉シテ後頭ハ恥骨縫際下ニ至リ頤部ハ初メニ會陰部ヨリ産出シ顔面頤頂部之レニ次ギ遂ニ全ク娩出スルニ至ル——産瘕ハ先進臀部即チ左臀ニ位シ生殖器ニ至ルマデ蔓延ス可シ

第七十八章 第二胎位分娩ノ器械的作用

此位置ニ在リテハ

此位置ニ在リテハ 兒背右ニ對シ腰部ノ廣徑ハ第一斜徑若クハ横徑稀レニハ第二斜徑ニ就キテ骨盤内ニ進ミ回轉シテ右臀部恥骨弓下ニ來リ左臀部初メニ會陰部ヨリ出テ兒ノ腹面ハ母體ノ左腿ニ對向シ肩胛ハ第一斜徑ヨリ同ク骨盤内ニ入り右肩胛恥骨弓下ニ來リ左肩胛初メニ會陰部ヨリ露ハレ兒頭ハ頤部ヲ胸上ニ接着シ其直徑ハ骨盤ノ横徑

若クハ第二斜徑ニ就キテ骨盤内ニ進ミ回轉シテ其後頭恥骨弓下ニ止マリ頤部初メニ會陰部ヨリ出テ遂ニ全ク産出ス可シ手及ビ足ノ産出ハ第一位臀ト異ナルコトナシ——産瘕ハ右臀ニ位シ陰部ニ波及ス

第七十九章 臀位ノ異常ナル分娩

時トシテハ臀位ニシテ兒背後方ニ向ヒ臀部若クハ肩胛ノ産出セル後チ回轉シテ前方ニ向フコトアリ若シ終ニ此回轉チナサマルトキハ兒頭骨盤内ヲ通過スルノ際其顔面前方ニ向ヒ後頭ハ會陰部ニ對シ其分娩困難ナルモノトス

第八十章 足位ノ分娩

足位ニ全足位及ビ不全足位ノ二種アリ且ツ各足位ニ第一足位及ビ第二足位アルハ既ニ之レヲ記述セリ

内外検査

内外検査 外検査ニヨルニ足位ハ臀位ト區別スルコト能ハズ内検査ヲ施コストキハ足ヲ觸知ス可ク而シテ胎胞尙ホ存スト雖トモ足ノ形状ニヨリ手ト區別シ得可シ即チ足趾ハ長クシテ一方ニ踵ヲ有シ趾ハ短

器械的作用

クシテ運動スルコト少ク踵趾ハ手ノ拇指ノ如ク他ノ趾ヨリ離開セシムルコト難キモノナリトス  
器械的作用 ハ第一足位ハ第一臀位ト同シク第二足位ハ第二臀位ト異ナルコトナキモ軀幹及ビ頭部ノ娩出スルコト稍容易ナラザルモノナリ是レ先進部ノ小ニシテ産道ノ開大スルコト不十分ナルニヨル

第八十一章 膝位ノ分娩

膝位

膝位 ハ子宮口内ニ膝ノ先進シ來レルモノニシテ外検査器械的作用及ビ分娩ノ處置ハ概ニ不足位ト異ナルコトナシ且ツ大腿ニ至ルマデ産出スレハ足位ニ變ズ可シ但シ内検査ヨリ横位ニ於ケル手ノ肘部ト區別シ難キコトアリ此場合ニ於テハ速カニ醫治ニ委ヌ可キモノトス

第八十二章 骨盤端位分娩ノ利害

骨盤端位分娩ノ害ナキ場合

骨盤端位分娩ノ害ナキ場合 陣痛強盛ニシテ骨盤廣ク小兒過大ナラズ軟部産道善ク延張シ得ルトキハ毫モ母兒兩體ニ害ナクシテ自ラ分娩ヲ遂クルコトヲ得可シ若シ之レニ反シ陣痛其他ノ事項上ニ述フ

各骨盤端位分娩ノ利害

ル所ト相反スルトキハ多少害ナキコト能ハズ

各骨盤端位分娩ノ利害 骨盤端位ニシテ就中佳良ナルハ臀位ナリ不全足位之レニ次キ全足位最モ不良ナリ是レ全足位ナルトキハ産道ヲ開大スルコト最モ不十分ナルガ故ニ肩胛及ビ頭部ノ産出スルニ際シ甚ダシク支障多キニ因ル加之全足位ニ於テハ産道ヲ壓開スルコト少ナキニヨリ産婦ハ有益ナル腹壓ヲ營ムコト少ナシ且ツ忘リニ不法ノ牽引ヲ試ラレ易ク然ルトキハ爲メニ小兒ノ頤ハ胸上ヲ離レ上肢ハ容易ク擧揚シ大ニ娩出ノ害ヲ醸ス可シ又小兒ヲシテ甚ダ死ニ陥リ易カラシム

小兒死亡ノ易キ理由

小兒死亡シ易キ理由 ハ凡ソ三アリ(一)臍帶ノ壓迫(二)胎盤ノ剝離(三)胎水早期ノ流泄トナス之レヲ次ニ説述ス可シ

臍帶ノ壓迫

(一)臍帶ノ壓迫 骨盤端位ニ於テハ臍部マテ産出スルモ産道ノ開

クコト尙ホ小ニシテ肩胛及ビ頭部ハ頗ル大キク爲メニ臍帶ヲ壓迫ス可ク且ツ分娩ハ時ヲ費ヤスコト多シ而シテ臍帶ノ壓迫セラレコト五分間以上ナルトキハ小兒ヲシテ死ニ至ラシム又臀部ハ小ニシテ骨盤入口ヲ

胎盤ノ剝離

充塞セザルニヨリ臍帶脱ヲ發スルコトアリ然ルトキハ更ニ早ク臍帶ノ壓迫ヲ生ズ可シ

(二)胎盤ノ剝離 骨盤端位ニ於テハ兒頭未ダ産出セザルニ當リ子宮ノ變小スルガ爲メニ胎盤ノ剝離ヲ生シ易ク以テ小兒ヲ死ニ至ラシムルコトアリ

胎水ノ早期流泄

(三)胎水ノ早期流泄 骨盤端位ニ在リテハ頭蓋位ト異ニシテ其先進部小サク産道ヲ充塞セザルガ爲メニ胎水ノ全部直ニ胎胞ノ上ニ押

壓シ來ルモノトス此故ニ産婦ノ努力若クハ粗暴ナル検査ニヨリテ容易ニ胎胞破裂シ胎水ノ早期流泄ヲ致ス可シ而シテ胎水早ク流出スルトキハ子宮縮小貧血シ胎盤ノ物質交換不良トナリ加之胎胞ノ欠クルニヨリテ子宮口ノ開クコト遅ク分娩時ヲ費ヤシ爲メニ胎兒ヲ死ニ陥ラシムルコトアリトス

母體ニ於ケル害

母體ニ於テハ手術ヲ要スルコト多キニヨリ容易ニ傳染症ヲ發スルノ危険アリ又初産婦ニ在リテハ頭蓋位ニ比スルニ

大ナル會陰破裂ヲ生ス可シ是レ小兒ノ危害アルガ爲メニ善ク會陰防護法ヲ行フ能ハサルコト多キニヨルモノトス

### 第八十三章 骨盤端位分娩ノ處置

醫師ヲ招ク可キ

醫師ヲ招ク可キ一 産婆ハ骨盤端位ノ分娩ニ於テハ可及的速カニ醫師ヲ招聘セザル可ラス且ツ醫ヲ招カントスルニハ必ス書狀ヲ以テシ其分娩ノ狀況ヲ記載ス可キモノトス然レトモ若シ其胎兒生存シ能ハサルカ又ハ既ニ死亡セルコトヲ確知セハ必スシモ醫治ヲ求ムルヲ要セズ蓋シ骨盤端位ニ於テハ人工ノ補助ヲ用ヰザレバ分娩シ能ハザルニアラズト雖トモ若シ其臀部ニ至ルマテ産出シ臍帶壓迫ニヨリ小兒ノ危険ニ迫レルニ當リ産婆ハ必シモ迅速且ツ確實ニ緊要ノ補助ヲ與ヘ得可シト云フコト能ハス是レヲ以テ醫師ヲ招クヲ法トナス而シテ産婦若シ之レガ爲メニ懼レテ懷クトキハ醫師ヲ聘スルハ小兒ニ注意セシガ爲メニシテ決シテ目前ノ危急アラニアラザルコトヲ告グ其心ヲ安ンゼシム可シ



醫師來着以前ノ準備

醫師來着以前ノ準備 醫師來着以前ノ準備トシテ種々ノ要器ヲ具フルヲ要ス即チ臂下ニ挿ム可キ枕子施術時ニ下肢ヲ覆フ可キ被衣臍帶結紮紐及ビ剪刀小兒ノ回生術ニ用ユルカテーテル數個ノ壓抵巾並ニ温水及ビ冷水ノ適量ヲ用意ス可シ若シ寢臺ヲ用フ横床位ヲ造ルトキハ之レニ要スル三個ノ椅子ヲ備フルヲ要ス次ニ横床位及ヒ半横床位ノ方式ヲ記ス可シ

横床位

横床位 寢臺ヲ用フテ横床位ヲ取ラシムルトキハ陰部ニ對スルコト便ニシテ且ツ兒ヲ牽引スルコト容易ナルノ益アリ即チ産婦ノ上腿ハ布片ヲ纏ヒ安全針ヲ以テ之レヲ固定シ襪ヲ穿タシメ産婦ヲ床上ニ横ニ臥セシメ臂部ヲ床端ニ置キ臂下ニハ清淨ナル布片ヲ以テ被覆セル枕子ヲ挿致ス而シテ寢臺ニ沿フテ二個ノ椅子ヲ對向セシメ産婦ノ各脚ヲ之レニ載セ若シハ二人ノ介者其椅子ニ就キ産婦ノ各脚ヲ其腿上ニ置キテ之レヲ固定シ術者ハ其中間ニ坐チ占メ得可ラシム

半横床位

半横床位 ハ横床位ヨリモ産婦ノ頭チ一方ニ偏シ斜メニ臺上ニ臥

胸部産出前ノ要件

セシメ一足ハ横床位ノ如ク椅子ニ載セ若クハ介者ニ保タシメ他足ハ床上ニ止ムルモノナリ此位置ニ於テハ術者ノ坐位狹隘ナルヲ以テ横床位ニ劣レリトス

胸部産出前ノ要件

胸部産出ニ至ルマテハ醫師ニ在リテモ施術

スルノ要ナシ殊ニ胎胞破裂前ナルトキハ可及的胎胞ヲ保護シテ長ク存セシムルコト必要ナルニヨリ必ズ無用ノ検査ヲ避ケ努責ヲ禁シ産婦チ兒背ノ向フ所ノ側方ニ臥セシム可シ便通ノ際ニハ決シテ躊躇セシムルコトナク必ズ差込ノ便器ヲ用ユルヲ要ス

胎胞破開セル時

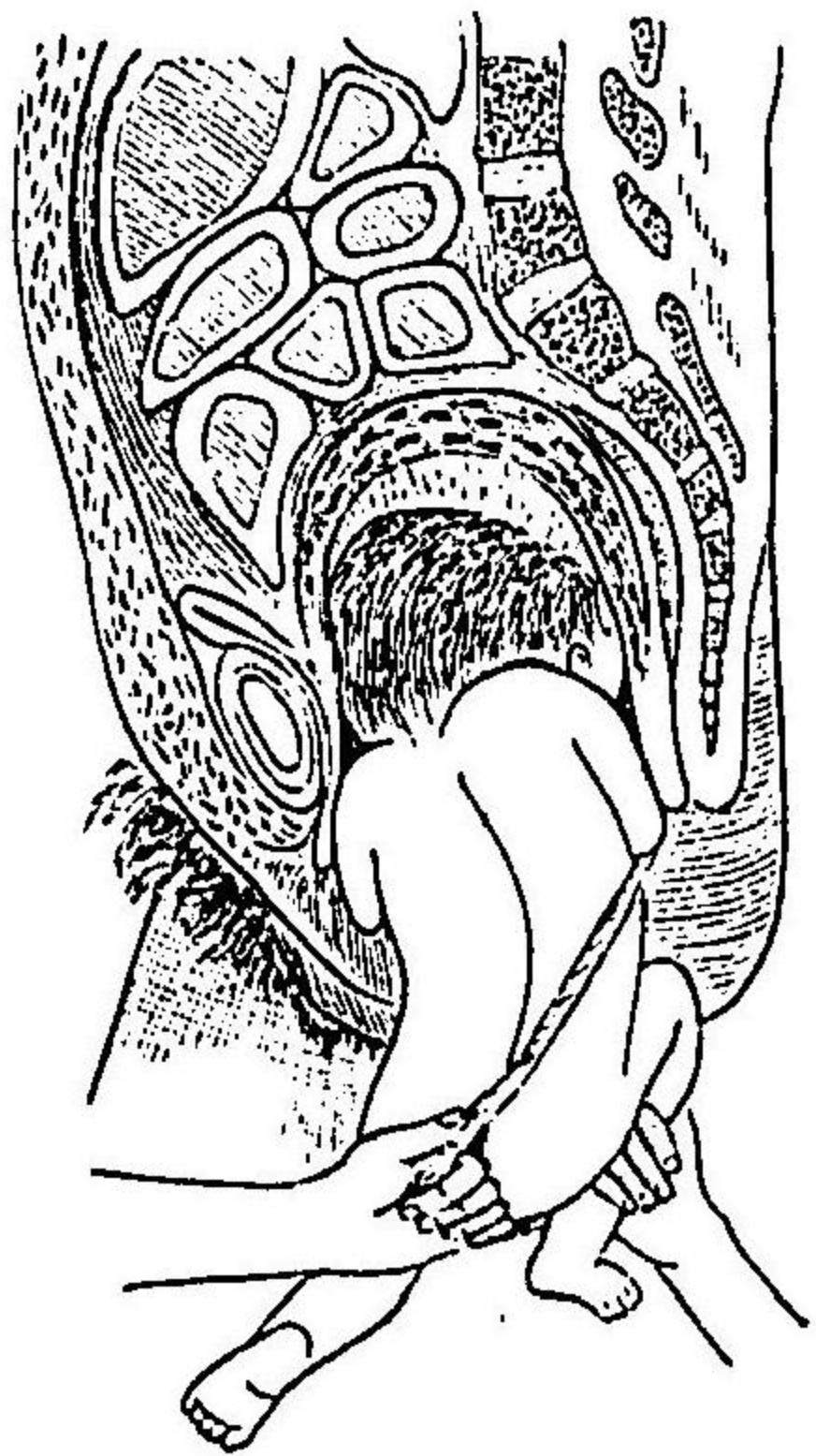
胎胞破開セルトキハ 防腐法ニヨリテ子宮口開大ノ程度並ニ臂部果シテ先進セルヤ否ヤ腰部廣徑ノ方向及ヒ臍帶脫ノ存セザルヤ否ヤヲ檢知ス可シ而シテ胎胞破裂スト雖トモ産婦ニ努責スルヲ禁シ其力ヲ蓄エテ臂部露出ノ後ニ至リ大ニ努責ヲ營マシムルヲ要ス 産科醫若シ適當ノ時期ニ來着セバ産婆ハ小兒分娩後ニ至ルマデ一モ自ラ主トシテ行フ可キモノナク唯醫ノ命ニ從テ之レヲ補助ス可キモノト

然レ胎若シ適  
當ノ時期ニ來  
着セザルキハ

然レ胎醫若シ適當ノ時期ニ來着セザルキハ 産婦ニ適當  
ノ臥位臀部ヲ高クシテ仰臥セシメ若クハ横床位ヲ與ヘ初産婦ニ於テハ  
小兒ノ臀部既ニ陰裂間ニ産出スルノ際經産婦ナルトキハ臀部少シク露  
ハル、キ見バ豫シメ其手ヲ防腐シ一手ヲ以テ會陰ヲ防護シ他手ニ兒ノ  
臀部ヲ支持シ稍之レヲ舉上ス可シ之レニヨリテ兒體ヲ前方ニ彎曲セシ  
メ大ニ娩出シ易カラシムルモノナリ次ニ臍帶ヲ檢シ若シ強キ緊張ヲ現  
ハサバ緩和ニ其胎盤端ヲ牽キ之レヲ寬クセンコトヲ務ム可シ若シ又小

第八十四圖

小兒ノ  
跨レル  
臍帶ヲ  
解除ス  
ル圖



寛ヤカニ臍帶  
ノ胎盤端ヲ牽  
キ兒ノ右脚ヲ  
超エテ脱セシ  
ムルヲ示ス

既ニ胸部ニ至  
ルマデ産出セ

骨盤端位挽出  
法

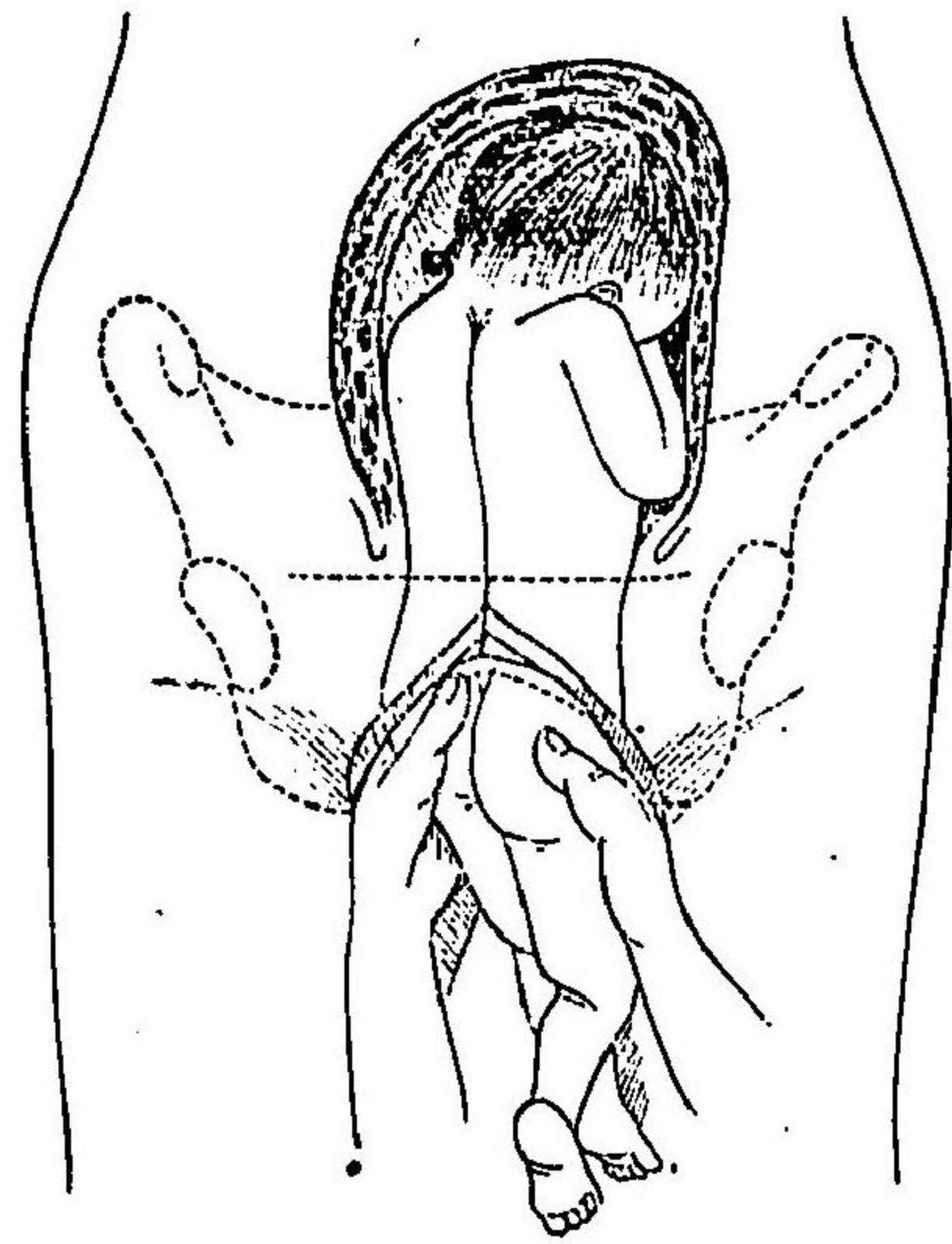
兒臍帶ニ跨リ居ラバ背側ノ一端ヲ牽キテ之レヲ緩メ後ヲ後方ノ足ヲ除  
エテ脱セシムルヲ法トス

既ニ胸部ニ至ルマデ産出セバ 若シ介者アルトキハ子宮ヲ輪  
狀ニ摩擦シ陣痛ヲ催起セシム而シテ後ヲ子宮ヲ骨盤内ニ壓セシム又産  
婦ニハ陣痛ノ起ルニ乘シ強ク努責ヲ命シ次ニ小兒ノ肩胛會陰部ニ來ラ  
ハ胸部ヲ舉上シテ會陰ノ裂傷ヲ防キ次ニ肩胛部ヲ把持シ注意シテ舉上  
シ頭部ノ産出ヲ助ク可シ此ノ如クスルモ尙ホ産出セズ且ツ隣ノ到ラザ  
ルキハ即チ挽出術ヲ行ハザル可ラズ即チ次章ニ於テ之レヲ述フ可シ

### 第八十四章 骨盤端位挽出法

骨盤端位挽出法 此挽出法ヲ行フニハ豫シメ坐側ニ二%石炭酸水  
ヲ備ヘ之レヲ以テ更ニ其手ヲ洗滌シ兒體ハ同シク石炭酸水中ニ浸漬セ  
ル布片ヲ以テ包被シ兩手ノ拇指ヲ薦骨上ニ貼シ以テ骨盤部ヲ把持シ同  
時ニ介者ヲシテ腹上ヨリ子宮ヲ骨盤内ニ壓セシメ以テ牽引ヲ施コシ傍  
ラ兒體ヲ廻旋シ肩胛骨ノ下角マデ挽出セバ肩胛ノ廣徑ト骨盤下口ノ直

骨盤端位挽出法中臀部ヲ把握スルヲ示ス圖



實際ハ布片ヲ兒體ニ纏フテ其上ヨリ把握ス可シ圖中之レヲ省ク

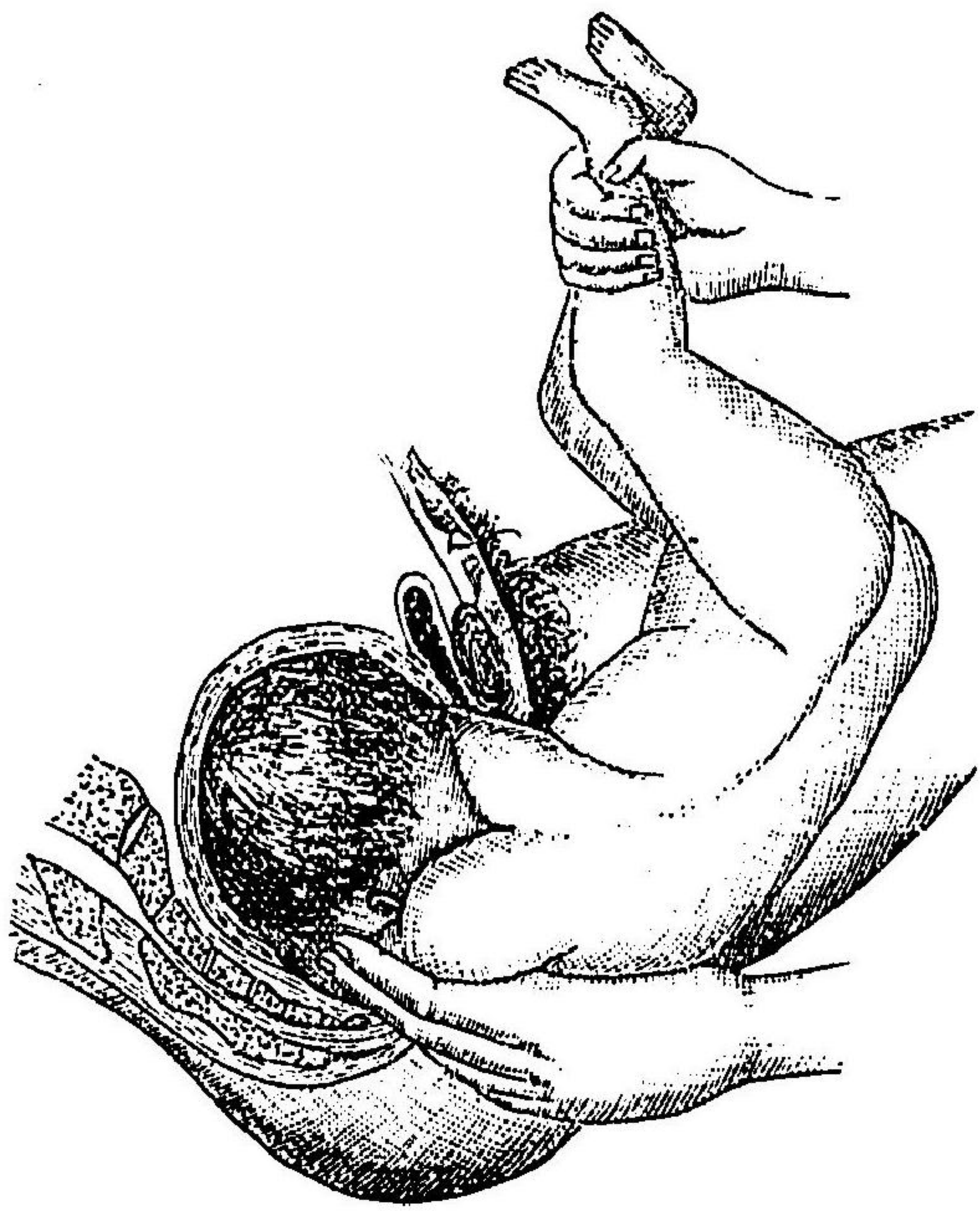
ラズ——挽出ノ間兒背後方ニ向フカ若クハ向ハントセハ前方ノ腕部ヲ頗ル強ク牽引シ且ツ兒體ヲ廻旋シテ其背ヲ前方ニ對向セシメノコトヲ要ス兒背若シ後方ニ向フトキハ上肢ハ恥骨縫際ニ抗止セラレ之レヲ牽

徑線ト相一致スルニ至ラシム此時期ニ至レバ上方ニ舉上セル兒足ハ自ラ脱下スルモノナリ次ヲ手ヲ胸部ニ進メ兩拇指ヲ脊椎ノ兩側ニ貼シテ胸廓ヲ把持シ牽引ス可シ腹部ハ内臓ヲ損傷スルノ恐アルニヨリ必ズ之レヲ把握ス可

出スルコト難ク頭部ノ挽出モ亦容易ナラサルモノナリ——此ノ如クニシテ胸部ヲ挽出シ肩胛ヲ前後ニ向ハシムルトキハ則チ上肢ヲ牽下セザル可ラズ而シテ之レニ三個ノ緊要ナル規則アリ

第十八圖

後方ノ上肢ヲ牽下スルヲ示ス圖

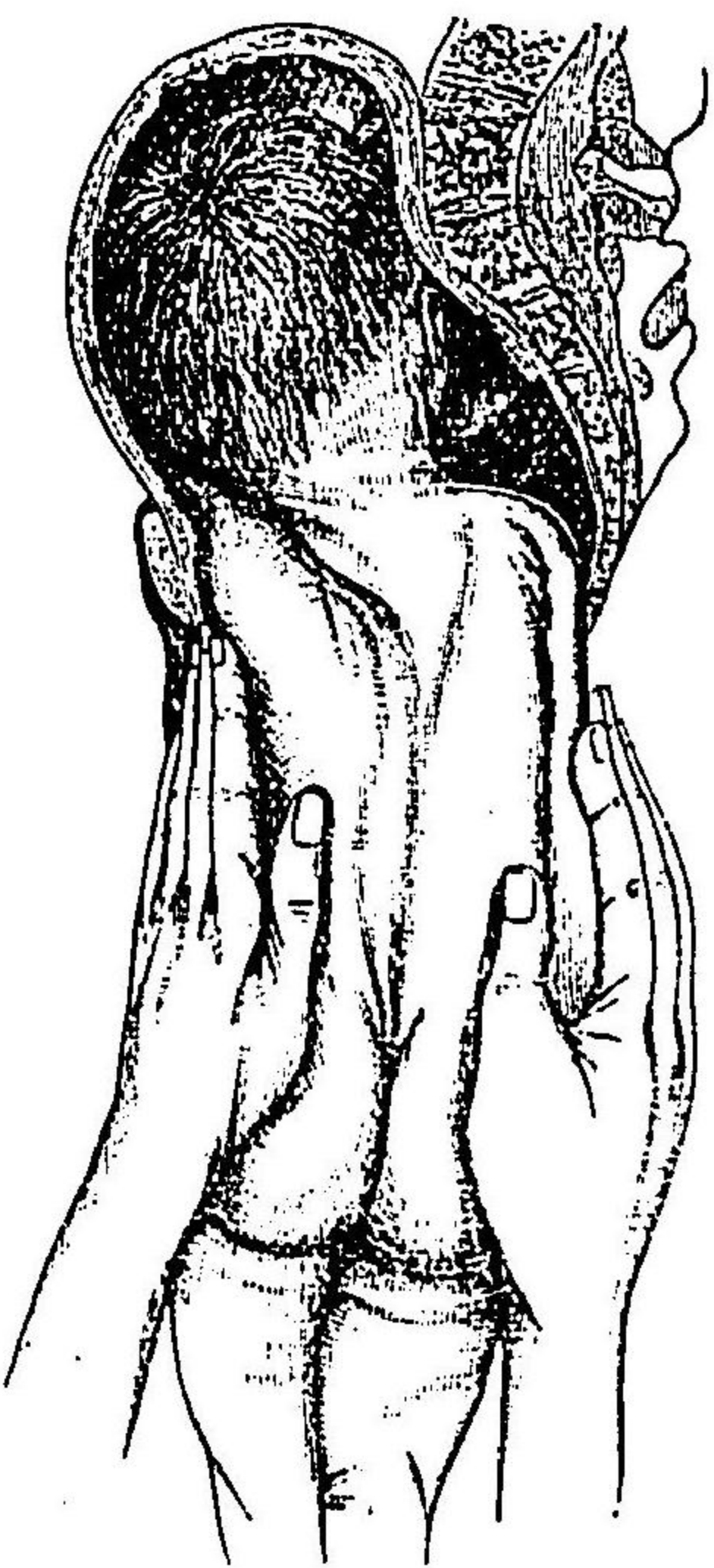


前圖ニ同ツク足部ニハ布片ヲ纏フテ之レヲ把握ス可シ圖中之レヲ省ク

- (一)各上肢ハ常ニ同名手ヲ用ヰ即チ兒ノ右手ハ産婆ノ右手ヲ用ヰ兒ノ左手ハ産婆ノ左手ヲ用ヰテ牽下スルコト
- (二)薦骨側ニ位セル上肢ヲ最初ニ牽下スルコト
- (三)前方ニ位セル上肢ハ先ツ後方ニ回送シ而シテ後チ之レヲ牽下スルコト是レナリ

第八十七圖

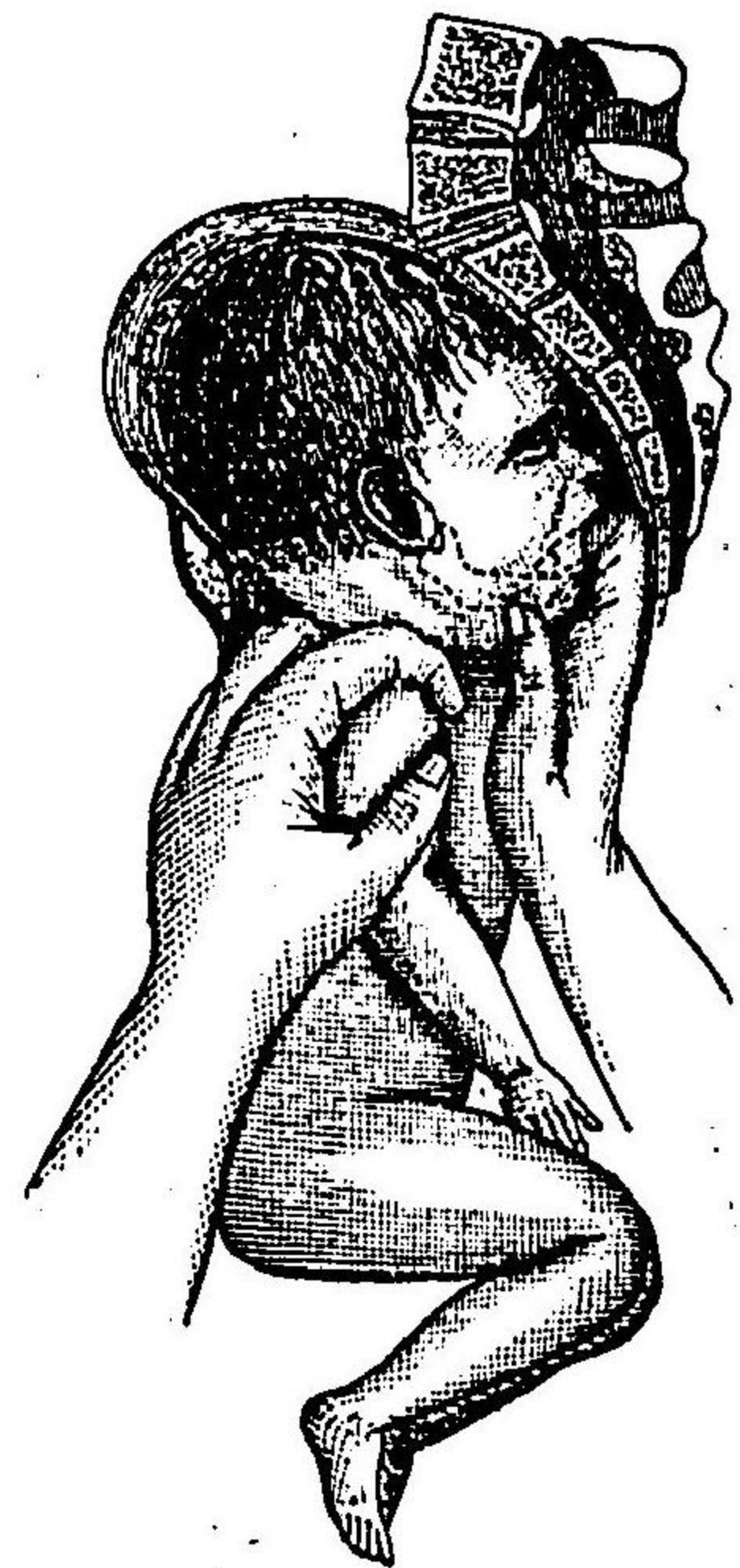
前方ノ上肢ヲ  
牽下センカ爲  
メニ兒體ヲ後  
方ニ廻旋セン  
トスルヲ示ス



例之第一臂位ニ施術スルトキハ先ツ左手ヲ以テ兒ノ臂部ヲ握リ之レヲ

舉上シ且ツ強ク右側ニ(母體ノ)送り而シテ術者ハ右手ノ四指ヲ伸展シ産道ノ後側ニ沿ヒ其手ヲ兒ノ腕關節又ハ前膊ノ中央ニ送ル可シ此ノ如クニシテ兒ノ上肢ハ其顔面ヲ摩スルカ如クニシテ右下方(母體ノ)ニ壓下シ同時ニ兒ノ臂部ヲ強ク母體ノ左側ニ來シ上肢ヲシテ肘關節ヲ屈シ脛ノ前側ニ出テシム次ニ前方ノ上肢ヲ牽下センコトハ右手ヲ以テ腕部ヲ握リ左手ヲ前在上肢ト兒頭トノ間ニ深ク送入シ兩手ヲ併セテ兒體ヲ廻旋シ其背ヲ全ク右方ニ對向セシメ而シテ後チ術者ノ左手ヲ以テ前記ノ方法ニヨリ上肢ヲ牽下セン此ノ如クニシテ上肢ヲ牽下シ終ラハ術者ハ直チニ左手ノ示指及ビ中指ヲ兒ノ口内ニ送り其下顎縁上ニ置キ自餘ノ諸指ヲ以テ胸部ヲ把握シ同時ニ他手ノ示指及ビ中指ヲ以テ背側ヨリ頸部ヲ狭ミテ兒ノ肩胛ニ掛ケ以テ兒頭ヲ廻旋シ後頭ヲ正シク恥骨弓下ニ來シ次チ兒頭ヲ前上方ニ牽引シ顔面ヲ會陰外ニ脱出セシム此際注意シテ會陰ヲ破裂セザラシムルコトヲ務ム可シ其他妄リニ胎兒ニ強力ヲ加フ可ラズ否ラサレハ上肢鎖骨等ノ骨折ヲ致スコトアリ

第十八八圖 兒頭ヲ挽出スルヲ示ス



異常ナル手及ビ頭ノ挽出法 後方ニ位セル兒ノ一手ハ時トシテ初メニ牽下シ難キコトアリ殊ニ其手兒ノ項下ニ存スル時チ然リトス此ノ如キ場合ニ於テハ先ツ兒體ト共ニ前方ノ手チ後方ニ廻旋シテ之レチ牽下シ而シテ尙ホ前方ニ來レル手チ牽下シ能ハザルトキハ更ニ復タ兒體ト共ニ之レチ後方ニ廻ラシメ以テ之レチ牽出ス可シ 又兒ノ後頭前方ニ向ハスシテ後方ニ廻轉シ之レチ正シスルコト能ハザルトキハ

挽出甚ダ困難ナル場合

挽出後

足位分娩ノ處置

骨盤端位ニ於テ母兒兩體ニ危險ナルモノ

先ツ兒體チ強ク舉上シ以テ後頭チ會陰部ヨリ挽出センコトヲ要ス 挽出甚ダ困難ナル場合 挽出困難ニシテ上記ノ法チ施コスモ上肢又ハ頭チ挽出スルコト能ハズ以テ五分間以上チ經過セバ小兒ハ此間既ニ死ニ陥ルモノナルガ故ニ母體チ損傷セザランガ爲メニ挽出法チ停止シ醫師ノ到ルチ待ツ可シ 挽出後 ハ産婦チ通常ノ如ク臥セシメ且ツ正規分娩後産期ノ處置ニ從テ處置ス可シ 足位分娩ノ處置 足位分娩ニ在リテハ其處置全ク臀位ト異ナルニトナシ殊ニ足チ執リテ牽引チ試ムルコトナシ臀部ノ産出スルニ至ラハ臀位ト同一ニ處置センコトヲ要ス 骨盤端位ニ於テ母兒兩體ニ危險ナルモノノ處置 小兒ノ危險ナル徴候ハ陣痛休憩時ニ於テ心音緩徐凡ソ九十搏ニシテ不規則トナリ若クハ疾數凡ソ百八十搏トナリ臍帶ノ搏動モ亦緩慢若クハ幽微トナルチ見ル可シ但シ胎尿ノ漏泄ハ臀位ニ於テハ危險ノ徴候トナスコト

ト能ハス——此ノ如ク胎兒危險ノ徴ヲ現ハスカ又ハ母體ノ危險アリテ速カニ娩出セシム可キトキハ臀部ノ産出ヲ待タズ直チニ娩出セザル可ラズ而シテ臀位ニ在リテハ一手ノ示指ヲ鈎狀トナシ前方ニ位セル股ノ屈曲部ニ掛ケ下方ニ向テ牽出シ以テ臀部ヲ把握シ得可カラシム足位ナルトキハ兩手ヲ以テ先進セル一足ヲ把持シ娩出法ヲ施コス可シ兒體ヲ娩出スルノ法ハ前項既ニ述ブル所ノ如シ

### 第八十五章 双胎ノ分娩

双胎 ハ八十回ノ分娩中ニ凡ソ一回之レアリ三胎モ亦之レアリト雖トモ甚ダ少ナク四胎ニ至リテハ極メテ少ナシ五胎及ビ六胎ハ古來極メテ稀レニ之レ有リシヲ聞クノミ——雙胎ノ胎兒ハ成熟スルモ單胎々兒ヨリ小ニシテ分娩モ亦一二週早ク發スルヲ常トス但シ雙胎ノ分娩ハ他ニ異常ナキトキハ敢テ不良ノ經過ヲ取ルモノニアラズ

#### 双胎ノ檢定法

ハ既ニ第二篇第四十一章ニ説述セリ

#### 双胎々兒ノ位置

雙胎ニ在リテハ兩兒共ニ頭蓋位ヲ取ルモノ凡

一卵性及ビ二卵性ノ双胎

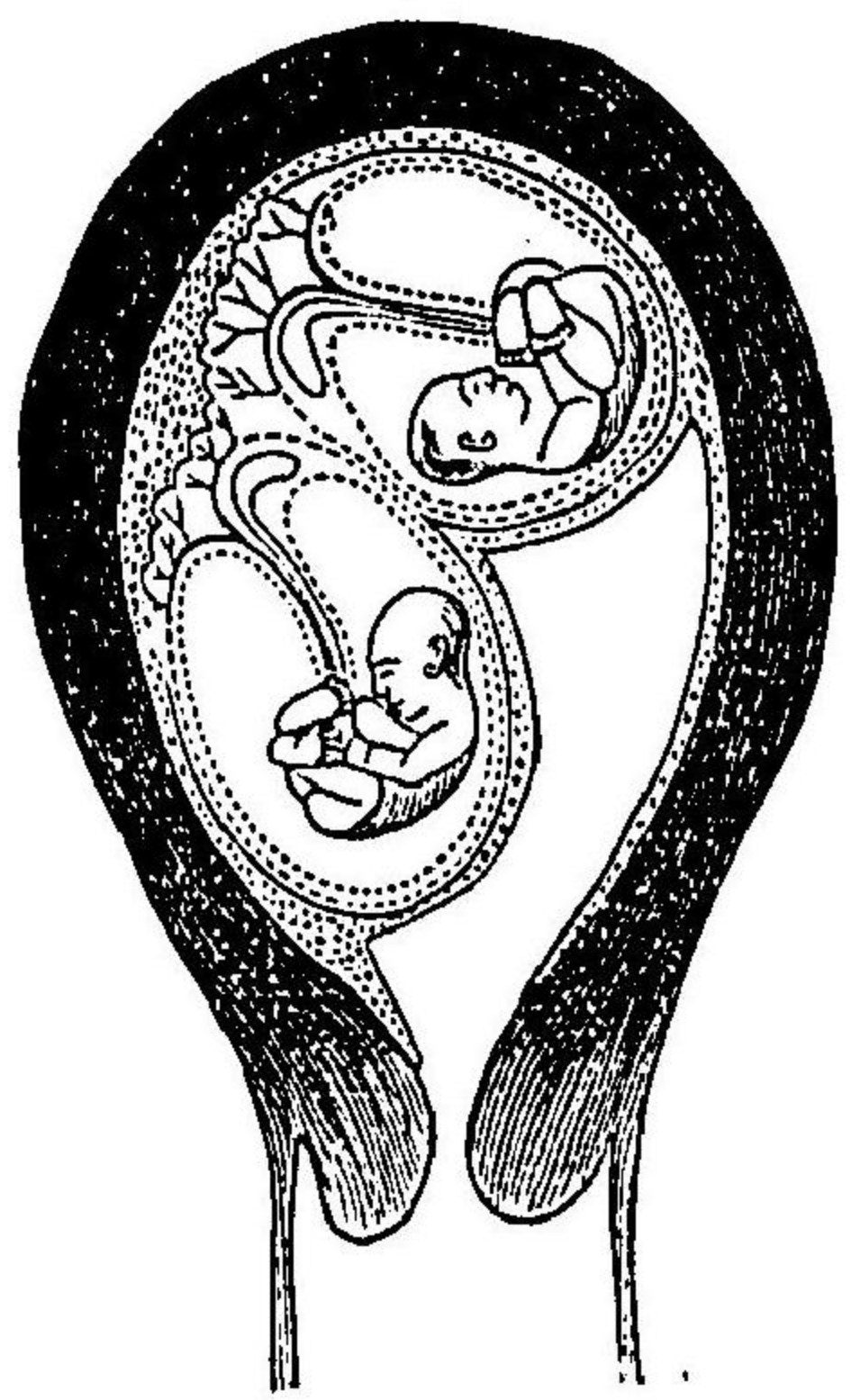
双胎分娩ノ狀況

ソ半數ヲ占メ一兒頭位ニシテ一兒臀位ナルモノ之レニ次キ時トシテハ一兒横位ニシテ他ハ縦位ナルモノモ亦之レアリ

一卵性及ビ二卵性ノ双胎

一卵性ノ雙胎ハ同性ニシテ羊膜ハ各別ニ有スト雖トモ各一ノ絨毛膜中ニ存ス二個ノ卵ヨリ生ゼルモノ即チ二卵性ノ雙胎ハ時トシテ其性ヲ異ニシ羊膜絨毛膜ハ共ニ各別ナリ胎盤

第九十八圖 二卵性雙胎ノ圖



各一ノ絨毛膜ヲ有シ胎盤懸着セルヲ示ス

ハ分離シテ存シ若クハ癒合ス可シ脱落膜ハ何レノ雙胎ニ於テモ單一ナルモノトス

#### 双胎分娩ノ狀況

分娩ノ際ニハ初メニ第一兒ノ胎胞ヲ現ハシ通常ノ如ク産出シ次キニ第二兒ノ胎胞出デ、同シク分娩ヲ終ヘ後チ胎盤

チ出テ可シ稀レニハ第一兒ニ次キテ其胎盤產出スルコトアリ——兩兒  
 分娩ノ間時ハ時トシテ甚々短カキコトアリト雖トモ十五分乃至三十分  
 ナルチ常トス稀レニハ十二時若クハ二十四時間ニ亘ルコトアリ而シテ  
 極メテ稀レニハ第一兒ノ分娩後第二兒ハ尙ホ數月間子宮内ニ止マルコ  
 トナキニアラズ全分娩ノ時間ハ單胎ヨリ短カキチ常トス是レ胎兒ノ發  
 育不良ニシテ小ナルニヨルモノトス

第八十六章 双胎分娩ノ處置

双胎ニ在リテ  
 ハ母體

双胎ニ在リテハ母體ハ過度ナル腹部ノ膨大ニヨリテ呼吸又ハ  
 消化チ妨ケラレ種々ノ疾病チ生ズ可シ小兒ハ發育不良ナルガ爲メニ死  
 ニ至ルコト甚々多シ此分娩ハ處置ニ就キテハ固ヨリ醫師ニ托センコト  
 チ要ス

第一兒分娩セ

第一兒分娩セハ其臍帶ノ胎盤端ハ殊ニ緊シク結紮ス可シ是レ  
 兩兒一胎盤チ有スルトキハ臍帶ノ胎盤端ヨリ出血マテ第二兒ノ血液チ  
 失ハシムルコトアルチ以テナリ而シテ胎盤早期剝離ノ爲メニ第二兒チ

危険ナラシムルコトアルガ故ニ注意シテ心音チ聽診ス可シ

産出セル小兒ハ發育不良ナルガ故ニ殊ニ注意シテ温カナラシム可シ否  
 ラサレハ容易ク死スルモノナリ  
 此他三胎以上ノ分娩ト雖トモ敢テ雙胎ト異ナルコトナシ只其分娩ノ益  
 々困難チ見ルノミ  
 雙胎分娩ニ在リテハ第一兒ト第二兒トハ適宜ノ目標チ付シテ之レチ區  
 別ス可シ是レ兄弟又ハ姉妹ノ順序チ定ムルニ必要ナルモノナリ即チ其  
 目標ハ小細帶チ手若クハ足ノ關節ニ纏結シ若クハ臍帶結紮絲チ以テ之  
 レチ作ルチ便ナリトス

第八十七章 分娩中胎兒ノ生活  
 及ビ死亡ノ徵候

分娩中胎兒死亡スト雖トモ毫モ分娩ノ作用ニ障害ナシ而シテ實際上ニ  
 ハ胎兒ノ生死チ知ルコト甚々緊要ナリト雖トモ時トシテハ之レチ知了  
 スルコト最モ難シ或ハ全ク之レチ判定スルコト能ハザルモノアリ

分娩中胎児生活スルキハ

分娩中胎児生活スルキハ (一)心音ヲ聴取スルヲ得(二)胎動ヲ觸知ス可ク(三)分娩遅延スルトキハ産瘤増大シ(四)若シ臍帶脱アルトキハ直チニ其搏動ヲ觸レ得可シ但シ此等ノ徴候ハ兒背ノ方向胎動ノ停休其他種々ノ事情ニヨリ之レヲ認知シ難キコト屢々之レアリ

分娩中胎児死亡セルモノ

既ニ妊娠中ニ於テ死亡セルトキハ第四十章中ニ記セル死亡ノ徴ヲ現ハス可シ分娩時ニ於ケル徴候ハ(一)漏泄セル胎水綠色ヲナシテ一様ニ混濁シ胎児ノ生活セル際ニ混ズル胎尿ノ綠色性小片ヲナセルモノト異レリ(二)頭部先進スルトキハ頭蓋骨ノ縫合弛緩シ甚ダシク動搖シ臀位ナレバ肛門哆開セルヲ見ル(三)先進部ノ上皮殊ニ手足ノ上皮ハ片狀ヲナシテ剝離ス但シ梅毒ニ於テハ生兒ト雖トモ此ノ如キ上皮ノ剝離ヲ現ハスコトアリ  
死亡セル胎児ニシテ特ニ胎水漏泄後長時ヲ經ルモノニ在リテハ子宮内ニ於テ腐敗ヲ起シ母體ニ傳染症ヲ發スルノ危険アルヲ以テ速カニ醫治ヲ求ム可シ

初生兒

### 第八十八章 初生兒ノ徴候

初生兒 ハ數日間次ノ徴ヲ有ス(一)臍帶ノ斷端又ハ其離脱セル痕ヲ有ス(二)胎尿ヲ泄ス(三)時トシテハ尙ホ皮垢又ハ産瘤ノ痕ヲ現ハスコト是レナリ故ニ一小兒アリテ右ノ徴候アルヲ見バ初生兒ナルヲ判知ス可シ



### 第四編 正規産褥及ヒ其取扱法

#### 第八十九章 誘導篇

此篇ニ於テハ産褥トハ如何ナルモノナルカ褥婦ノ生殖器及ヒ全身體中ニハ如何ナル變狀ヲ現ハスカ褥婦及ヒ小兒ノ看護法ハ如何ニス可キカ小兒ノ人工營養法ハ如何ナル方法ヲ施コス可キモノナルカヲ説キ終リニ實際ノ必要アルガ爲メニ褥婦ノ營養法ヲ附説ス可シ

#### 第九十章 産褥

産褥トハ 全ク分娩ヲ終レル時ヨリ生殖器及ヒ全身ノ變狀回復シ概テ妊娠前ト同一ナルニ至ルノ間ニシテ凡ソ七週日間トナス而シテ授乳セザルモノニ在リテハ産褥ノ終期ニ至リ再ビ月經ヲ現ハスモノナリ但授乳セル婦人ニ在リテハ凡ソ第九ヶ月ニ至ルマテ月經閉止ス可シ

#### 第九十一章 産褥婦ノ生殖器ニ現ハル、狀況

此章ニ説ク可キモノハ子宮ノ状態悪露ノ性質産道ノ變化後陣痛乳汁ノ

産褥トハ

子宮ノ状態

分泌等トナス

#### 子宮ノ状態

子宮ハ分娩ヲ終レバ其底恥骨縫際ノ上方四五指横徑ニ位スト雖トモ爾後筋質ノ減小ト萎縮トニヨリ漸次ニ縮小シ凡ソ十日(早キハ八九日)ニ至レバ小骨盤内ニ入り之レヲ觸ルコト能ハザルニ至ルモノナリ此ノ如ク子宮ノ縮小スルハ妊娠中ニ變大増殖セル筋質ノ著シク收縮シ且ツ其數ヲ減スルニ基クモノトス——又子宮ノ收縮ニヨリ胎盤部血管ノ斷口大ニ縮小シ且ツ凝血ヲ生ズルニヨリテ全ク閉塞シ止血スルニ至ル

子宮頸ハ分娩直後自由ニ一手ヲ通過セシム可キモ四五日ヲ經レバ僅カニ一指ヲ通ス可ク第八日ノ後ナリ子宮内口ハ全ク手指ヲ通過セシムルコトナシ

子宮口ハ分娩ノ際多クノ裂傷ヲ生ズルガ故ニ産褥中ニ治療スト雖トモ爾後ハ大ナル横裂痕ヲ現ハシテ前後ノ二唇トナス各唇モ亦小裂痕ノ存スルニヨリテ突隆不平ヲ呈スルモノナリ

腫及ヒ外陰部ノ状態

腫及ヒ外陰部ノ状態 腫ハ漸次ニ収縮スト雖モ分娩前ニ比スレハ頗ル潤シ處女膜根ハ断裂缺損シテミルナ状肉阜トナリ陰唇繫帶後連合ハ破裂ヲ止ムルヲ常トス

惡露

惡露 ハ主モ子宮ノ内面ニ於ケル脱落膜及ヒ胎盤ノ剝離セル創面ヨリ生ズル分泌物ニシテ脱落膜ノ細片ヲ含ム最初二日間ハ純血様ニシテ流動性ナリ凝血ヲ雜ユルハ異常ニ屬ス第三日ヨリ血漿狀ヲナシ第六日乃至第八日ニ至レバ子宮内ノ膿様分泌物ニヨリテ帶黃白色ヲナシ第三週ニ至レバ其量甚ク減少シ第五週ノ頃ニ及ヒ全ク盡クルモノナリ惡露ハ通常子宮内ニ於テハ毒性ナキモ此ヨリ以下ニ至レバ多クノ微菌ヲ混シ創面ニ附着スレバ化膿ヲ生ゼシムルノ性アリ

後陣痛

後陣痛 トハ産後二三日間中ニ發スル弱キ陣痛ニシテ子宮ノ收縮ニヨリテ發ス此後陣痛ハ子宮腔速カニ空虚トナルトキハ之レヲ發スルノ強キモノナルガ故ニ經産婦ニ於テハ甚クシキヲ常トス又凝血卵膜片等ノ子宮内ニ存在スルキハ同シク強劇ナリ故ニ初産婦ニシテ後陣痛強キ

乳汁ノ分泌

モノハ概ネ凝血若クハ卵膜ノ殘片アルヲ推知ス可シ

乳汁ノ分泌

乳房ハ妊娠中ヨリ既ニ少シク分泌ヲ現ハスト雖トモ分娩後二日又ハ三日(稀ニハ第一日)ヨリ乳房腫脹シ知覺過敏ヲ發シ著シク乳汁分泌ヲ始ム此際三十八度以内ノ微熱ヲ發シ一二日間持續ス可シ

往時ハ之レヲ乳熱ト名ケタリ乳汁ノ始メ分泌セルモノヲ初乳ト名ケ稀薄半透明ノ液ニシテ小兒ニ飲マシムルキハ通利ヲ催サシムルノ性アリ次ヲ乳汁ハ漸次ニ濃稠白色トナリ凡ソ一週日ニシテ通常ノ乳質トナル今常乳ノ成分ヲ示セバ次ノ如シ

水

凡ソ八九〇

固形分

|    |        |
|----|--------|
| 脂肪 | 凡ソ三〇   |
| 乾酪 | 凡ソ四〇   |
| 乳糖 | 凡ソ四〇   |
| 鹽類 | 凡ソ〇・一五 |
| 凡ソ | 一一〇    |

乳汁ノ分泌ハ九乃至十ヶ月間持續スレバ著シク減少シ後ヲ漸次ニ止ム

乳汁ノ變狀ヲ呈スル場合

チ常トス然レトモ又時トシテハ三四年以上乳汁ヲ出スモノアリ  
乳汁ノ變狀ヲ呈スル場合 乳汁ハ種々ノ事情ニヨリ變狀ヲ呈  
スルモノニシテ精神ノ感動アルキハ其量ヲ減シ時トシテハ性質不良ト  
ナリ小兒ニ害ヲ及ホスコトアリ又結核梅毒等ノ毒質ハ乳汁中ニ移リ行  
クコアルガ故ニ此等患者ノ乳汁ハ之レヲ小兒ニ與フ可ラズ多クノ醫藥  
モ亦乳汁中ニ分泌セラレ善ク小兒ニ其効力ヲ現ハス可シ其母下劑ヲ用  
ユレバ小兒モ亦下痢シ母體ニ梅毒ノ藥ヲ與フレバ小兒ニモ亦藥効ヲ呈  
スルガ如キ是レナリ但シ通常量ノ藥品ヲ母體ニ投スルモ通例ハ敢テ害  
ナキモノトス——月經中時トシテ乳汁變質シ乳兒ハ不安啼泣ヲ致ス  
アリ此ノ如キコアラバ暫ク授乳セシメザルヲ良トス

第九十二章 褥婦ノ全身ニ現ハルル變狀

褥婦ノ自覺

褥婦ノ自覺 既ニ分娩ヲ終ルキハ筋運動ノ止ムト身體ノ冷却ナル  
ハトニヨリ褥婦ハ概シテ惡寒ヲ覺ユルモノナリ然レモ次デ温暖トナリ發  
汗ヲ催フニ爽快ヲ生ズルニ至ルモノトス

體温上昇

體温上昇 前項記スルガ如ク褥婦温暖ヲ感スルノ際ハ微熱ヲ發シ  
十二時ヲ經過スルキハ消退ス可シ次ニ第三日ノ頃ニ至リ乳汁ノ分泌増  
進スルキハ再ビ熱候ヲ現ハシ前章中ニ述フルガ如ク一二日ニシテ下降  
スルモノナリ此二種ノ熱候ハ孰レモ三十八度以内ナルヲ常トス若シ此  
度以上ニ昇ルモノハ是レヲ傳染症ニ屬セシム可キモノトス産科ノ未開  
ナル地ニ在リテハ産婦ノ防廢法不十分ナルガ故ニ褥婦ハ多少ノ傳染症  
ヲ患ヒ四十度ニ近キ高熱ヲ現ハスモノ甚ダ多シ但シ乳汁ノ分泌ニ就キ  
テハ熱ヲ催スモノニアラズト唱フルモノモ亦之レアリ

皮膚

皮膚 ニ於テハ汗ノ分泌増進シ最初八日間ハ甚ダシク發汗シ易キモ  
ノナリ毛髮ハ産後脱落スルヲ常トス

尿

尿 ハ産褥ノ初メ著シク増量ス可シ又腹壓ノ減スルト及ビ尿道ノ腫  
脹若シハ屈曲スルコトアルニヨリ一二日間自ラ排泄シ能ハザルコトアリ

便通

便通 モ亦腹壓ノ减小運動ノ休止ニヨリテ最初一週間ハ秘結シ易キ  
モノナリ

食事

ハ最初三日間不進ナルヲ見ルト雖トモ爾後ハ甚ダシク増進スルモノトス

第九十三章 褥婦ノ看護法

毎日ノ回訪

産褥ノ初メ八日間ハ毎日朝夕二回宛褥婦ヲ訪ヒ褥婦及ビ小兒ノ看護ニ注意ス可シ而シテ褥婦ニ就キ先ヅ之レニ必要ノ事項ヲ訊問シ後テ親シク各事項ヲ検査センコトヲ要ス

褥婦ニ就キ注意ス可キ事項

ハ(一)褥婦ノ自覺徵候發熱ノ有無(二)乳房腹部及ビ子宮ノ状態(三)惡露ノ性状ニ在リトス次ニ各事項ヲ細説ス可シ

(一)先ヅ褥婦ニ就キ睡眠佳良ナリヤ食欲善良ナリヤ渴ハ存セザルヤナ間ヒ次ニ脈ヲ診シテ其疾キカ徐カナルカヲ檢シ又胸部ノ皮膚ニ觸レ其熱ナキヤ否ヤヲ知リ後テ檢温器ニヨリ其體温ノ度ヲ測定ス可シ

(二)乳房ニ就キ先ヅ乳頭ニ裂創ノ存スルコトナキカヲ檢シ次ニ腹部ヲ按シ疼痛及ビ膨滿產褥熱若シハ便秘ノ徵ノ存スルコトナキカ及ビ子宮底

壓抵布及ヒ敷布ノ交換

ノ高サヲ知ル可シ膀胱充滿スレバ子宮ハ屢々高ク側方ニ壓推セララルコトアリ其他子宮及ビ子宮廣韌帶子宮ノ兩側部ヲ輕ク押壓シ其疼痛ヲ訴フルコトナキヤヲ察ス可シ  
(三)壓抵布及ヒ敷布ニ就キテハ出血ノ有無及ビ多少惡露ハ純血ナルカ血漿様ナルカ又ハ膿汗様ナルカヲ視且ツ其臭氣ノ有無ヲ檢センコトヲ要ス  
壓抵布及ヒ敷布ノ交換 壓抵布ハ最初屢交換ス可キモ爾後ハ一日凡ソ二回ナル可シ又壓抵布及ヒ敷布ハ發汗若クハ出血ニヨリ濕潤セラルトキハ毎回速カニ交換スルヲ要ス

精神身體ノ安靜ニ褥室

褥婦ハ精神身體ヲ安靜ナラシムルヲ以テ極メテ緊要ナリトス故ニ最初ハ精神ノ感動ヲ避ケシメ悲哀ハ勿論過劇ノ喜悅モ亦之レヲ遠ザケ他人ノ來訪ヲ停メ近親者ト雖トモ可及的褥室ニ入ラシムルコトナク且ツ各種ノ運動ヲ禁シ談話モ亦可及的之レヲ營マシム可ラズ而シテ產褥室ハ喧鬧ニ遠カリ中等大ニシテ乾燥シ善ク光線ヲ通入セシム可ク加之必要アラバ之レヲ曇暗トナシ得可ラシ

褥婦ノ就褥

ムルチ佳トス此ノ如クコソテ褥婦ヲ安眠セシムルトキハ大ニ其精力ヲ回復セシム但シ熱眠ノ間ハ顔色四肢ノ温度等ニ注意シ出血虚脱等ノ發スルコトナキヤヲ察ス可シ

**褥婦ノ就褥** 褥婦ハ最初九日間ハ必ス褥中ニ臥サシメ交番ニ左右側臥及ビ仰臥ニ居ラシムルヲ要ス若シ過早起床スルトキハ創傷ノ治癒ヲ妨ケ出血ヲ發シ又ハ子宮及ビ腔ノ脱出等ヲ生ズルノ害アリ第十日ニ至ラバ初メ一二時間褥中ヲ出デシメ日々其時間ヲ長クシ裁縫ノ如キ平易ノ業務ヲ試マシメ強健ノ婦人ニ在リテハ三週間(冬時ハ五六週間)ヲ經レバ慎重ニシテ外出ヲ許ス可シ虚弱ノ婦人ニ在リテハ適宜ニ就褥靜居ノ時日ヲ長カラシムルヲ要ス——褥婦全ク臥床ヲ離ルノ際ハ丁寧ニ内檢査ヲ施コシ子宮或ハ扁韌帶部ニ疼痛存在セザルヤ及ビ子宮口ハ既ニ指ヲ通シ得ザルヤヲ檢知ス可シ

**被衾** ハ褥婦ノ求メニヨリ之レヲ加フ可シ產褥ノ初期ニハ甚ダシク發汗ヲ催フスノ傾アルコヨリ被衾ノ厚キニ過クルハ却テ不良ナリ但シ

被衾

外陰部ノ清潔法

注意シテ感冒セシメザルヲ緊要ナリトス

**外陰部ノ清潔法** 外陰部ハ初メ毎日二回爾後ハ一回宛一%石炭酸水若クハ二%硼酸水ノ微温液ヲ用ヰテ洗滌シ創傷アラバ硼酸末又ハヨードフォルムヲ撒布シ而シテ外陰部ニハ一%石炭酸水ニ蘸セル瓦設ヲ置キ其上ニハ乾燥セル數重ノ布片ヲ壓抵シ丁字綑帶ヲ施コシ以テ惡露ヲ吸收スルノ用ニ供ス可シ又布片及ビ綑帶ハ洗滌消毒シテ再ビ使用スルヲ良トス——布片ノ單筒ナル消毒法アリ之レヲ次ニ述フ可シ即チ布片ヲ疊積スルコトナクシテ適宜ノ籠ノ中ニ容レ此籠ヲ沸湯中ニ煮沸スルコト十分時ニシテ沸湯中ヨリ出ダシ籠ヲ振搖シ可及的濕氣ヲ去リ布片ヲ收メタル儘清潔ナル布巾ヲ以テ籠ヲ被包シ久シク之レヲ温暖ナル所ニ懸ケテ乾燥セシム可シ此ノ如クスレバ微菌附着セス消毒ノ効十分ナリトス

腔内ノ洗滌

**腔内ノ洗滌** ハ順正ノ經過ヲ取レルモノニ在リテハ敢テ必要ナラズ却テ不完全ノ洗滌ヲ施コスルハ損傷又ハ傳染症ヲ生ゼシムルノ害アリ

利尿

リ故ニ醫師ノ命アルニアラザレハ之レヲ行フ可ラズ

利尿 ハ産褥初期ノ間殊ニ之レニ注意シ若シ七八時間ヲ経テ自ラ排

泄スルコトナケレバカテーテルヲ用ユ可シ其送入法ハ正規分娩處置法

中ニ詳カナリ又初メ七日間ハ便器ヲ用キテ排尿セシム可シ

便通 ハ初メ三日間休止シ後毎日一回之レアルヲ佳トス第四日ニ至

リ自ラ通利スルコトナケレバ微温ノ石鹼水(石鹼凡ソ二匁ヲ入ル)稀薄ノ葛

湯若クハ微温湯五六匁ヲ用キ灌腸ス可シ又便通ノ際最初七日間ハ毎

度便器ヲ用キ決シテ固ニ往カシム可ラズ否ラザレバ眩暈出血等ヲ發ス

可シ灌腸ヲ施コスモ便通ナキカ若クハ腹部甚ダシク膨滿スルハ速カ

ニ醫治ヲ求ムルヲ要ス

後陣痛

後陣痛 ハ強劇ナリト雖正發熱ナキハ敢テ疾病ニヨルモノニア

ラズ若シ頻回強ク發起スルハ下腹ニ氷捲法ヲ施コシ第三日以後ハ濕

布捲法ヲ以テ交換ス可シ此法ニヨリ後陣痛緩解セザルハ速カニ醫治

ヲ求ムルヲ要ス

食事

食事 ハ其食欲ニ應ジ適度ニ與ヘ飢餓若クハ飽滿セシム可ラズ而シ

テ初メ三日間ハ流動性ノ食物即チ牛乳稀粥肉羔汁半熟卵等ヲ與ヘ食欲

亢進セルモノニハ少量ノ柔軟ナル良肉ヲ與フルモ亦可ナリ第四日ヨリ

漸次ニ固形ノ食物ヲ取ラシメ二三週間ニシテ徐々ニ常食ニ復セシムル

ヲ要ス褥婦授乳セザルハ最初十日間ハ少シク食量ヲ減スルヲ良トス

又虚弱ナル婦人ニ在リテハ臥床ヲ離ルノ時期ニ至レハ良好ノ酒類ヲ

飲マシムルモ亦可ナリ其他褥婦ノ食料ニ就キ其詳細ヲ知ラント欲セバ

該篇末ニ附録トセル第九十五章褥婦ノ營養法ヲ參考ス可シ

最初ノ授乳

最初ノ授乳 褥婦及び小兒ノ一トビ安眠セルノ後即チ分娩後七八

時間ヲ経レバ第一回ノ授乳ヲナス可シ或ハ一二日間乳房ニ就カシメザ

ルガ如キハ甚ダ不可ナリ若シ此ノ如クスレバ小兒ハ衰弱シテ哺乳ノ力

ヲ減シ乳房ハ刺戟ヲ受ケザルガ故ニ分泌増進スルコトナク若シ或ハ之レ

ニ反シ緊滿スルコトアルハ爲メニ乳頭短小トナリ小兒ハ之レヲ啣ミ難

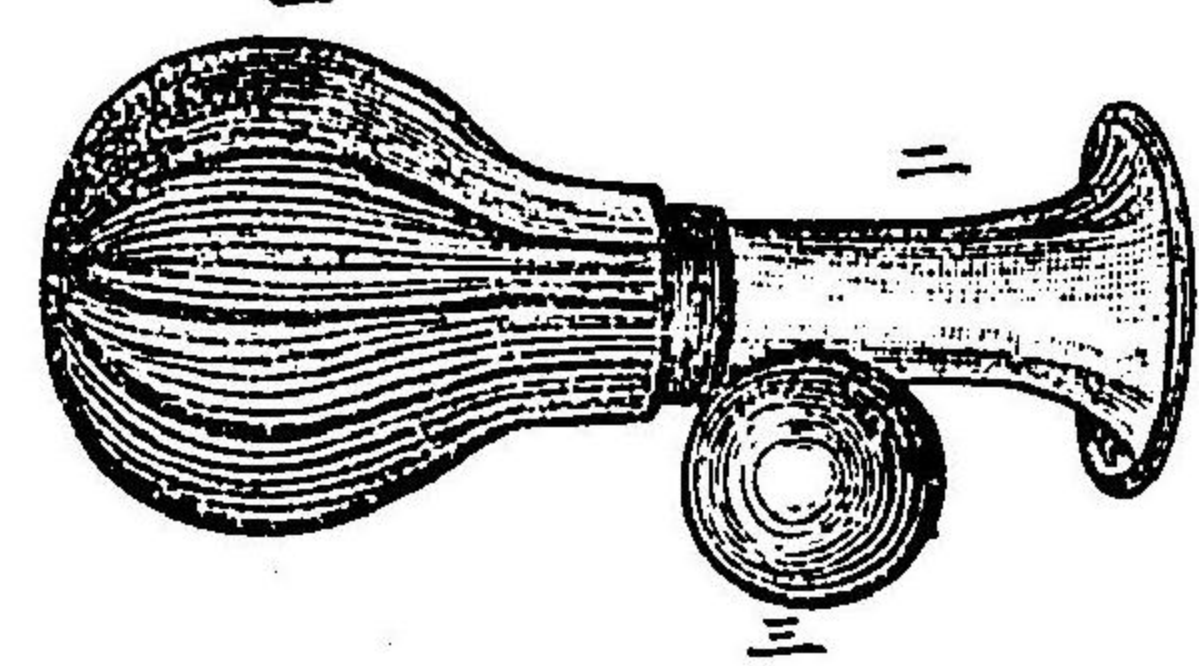
キニ至ルノ害アリ又一回ノ授乳ニハ一側ノ乳房ニ就カシムルヲ良トス

授乳ノ困難ナル場合

授乳ノ困難ナル場合

時トシテハ授乳困難ナルコトアリ殊ニ乳頭

第九十圖 吸乳器ノ圖



- 一、腫脹球
- 二、喇叭形チナセルモノニシテ硝子ヨリ成リ乳房ニ貼シ吸引セシム
- 三、同ク硝子ヨリ成リ(二)ニ附屬シ吸出セル乳汁ヲ受容スルモノ

ノ甚ダ短キモノ乳房ノ扁平ニシテ緊満シタルモノ等是レナリ此ノ如キモノニ在リテハ圖ノ如キ吸乳器ヲ用ヰテ乳頭ヲ吸出センコトヲ務ム可シ小兒乳房ニ附ザル指ヲ以テ靜カニ下顎ヲ押シ下ケ口ヲ開キテ乳頭ヲ啣マシメ温カキ砂糖水二三滴ヲ乳頭ヨリ

兒ノ舌上ニ流入セシメ以テ哺乳ヲ促ガス可シ或ハ初メ小指ヲ兒ノ口内ニ挿入シ砂糖水ヲ舌上ニ滴入セシメ之レヲ嚥下スルニ至リ乳頭ヲ啣マシムルモ亦可ナリ

授乳ノ時間 ハ一定シテ凡ソ毎二時間トナスヲ良トス此ノ如クナルハ小兒モ亦之レニ慣レ消化善良ニシテ發育宜シク且ツ甚ダ看護ニ

授乳ノ時間

授乳時乳房ノ處置

授乳時乳房ノ處置

便ナルノ益アリ又夜間ハ毎四時ニ授乳ス可シ

乳量僅少及ビ乳汁緊満ノ處置

乳量僅少及ビ乳汁緊満ノ處置

泌乳僅少ナルモ直チニ授乳ヲ

總テ授乳スルノ際ハ先ヅ清潔ナル布巾ニ清水ヲ浸シ乳頭及ビ乳量ノ部ヲ拭ヒ而シテ既ニ授乳シ終ラハ再ビ同前ノ法ヲ行ヒ後ヲ清潔ナル布巾ヲ以テ乳房ヲ被ヒ温カニ保タシメノコトヲ要ス若シ乳房ヲ不潔ナラシムルハ小兒ニ口内ノ疾患ヲ發セシメ且ツ乳頭ノ糜爛乳管ノ閉塞乳腺炎等ヲ生セシムルニ至ル

泌乳僅少ナルモ直チニ授乳ヲ廢スルコトナク牛乳等ノ滋養物ヲ進メ多量ノ飲料ヲ與フ可シ殊ニ麥酒ヲ飲マシムルヲ良トス泌乳劑ハ必ズシモ確効ナシト雖モ尙ホ之レヲ醫師ニ請フテ服セシムルヲ可トス若シ又乳量過多ニシテ緊満シ悉ク排泄シ能ハズ且ツ苦痛ヲ訴フルハ少シク食量ヲ減シ乳房ヲ提舉シ胸上ニ縛帶ヲ施コシ醫師ヨリ緩和ナル下劑ヲ請ヒ用ヰシム可シ——褥婦若シ授乳セサルニヨリテ乳汁蓄積セル際ニモ亦同様ニ處置ス可シ妄リニ搾リ出ダスハ却テ分泌ヲ増サシメ苦痛ヲ加フルモノナリ

乳管閉塞及ヒ  
乳頭損傷ノ處

乳管閉塞及ビ乳頭損傷ノ處置 乳管ハ時トシテ乾固セル乳汁  
若クハ上皮ニヨリテ閉塞シ乳汁ハ腺中ニ蓄積シ遂ニ乳頭若クハ乳腺ノ  
炎症ヲ來スコトアリ故ニ此ノ如キ場合ニ於テハ注意シテ乳頭ヲ檢シ附  
着物ヲ除キ且ツ之レヲ洗淨スルヲ要ス又乳頭赤色トナリテ糜爛ヲ呈セ  
ントスルモノハ四千倍昇汞水ヲ浸セル布片ヲ貼シ授乳ノ際ハ善ク之レ  
ヲ洗去ス可シ其他表皮剝脱糜爛裂創等ヲ發セルモノ、處置ハ異常産婦  
第六十五章中ニ於テ之レヲ説明ス可シ

其兒ニ授乳ス  
可ラザル場合

其兒ニ授乳ス可ラザル場合 母若シ重症疾患精神病癩癩肺勞  
梅毒慢性ノ皮膚病アルカ若シハ其身體甚ダ虛弱ナルトキハ醫師ノ診察  
ヲ求メ其兒ニ授乳ス可ラザルモノトス但シ慢性ノ梅毒ニ在リテハ醫師  
ノ診断ニヨリ梅毒療法ヲ施コシ其兒ニ授乳シ得ルコトアリ是レ醫藥ハ  
乳汁中ニ混シ兒體ニ奏効スルニヨル

乳腺炎ノ豫防  
法

乳腺炎ノ豫防法 乳腺炎ハ褥婦ニ屢發スル所ノ疾患ニシテ微菌  
ノ乳頭部ヨリ乳腺ニ進入スルニヨリテ發シ大ニ婦人ヲ苦マシムルモノ

第一回ノ温浴

ナリ故ニ時トシテハ之レガ豫防法ヲ必要トスルコトアリ之レヲ次ニ記  
ス可シ——新タニ分娩セル婦人ニ就キ温湯石礮及ビ刷毛ヲ用キ五分時  
間乳房ヲ洗滌シ次ニ四千倍昇汞水ヲ以テ消毒シ更ニ亞爾箇保兒ヲ以テ  
昇汞ヲ洗去シ消毒性布片ヲ以テ被覆ス可シ爾後産褥中ハ常ニ二箇ノ鉢  
ヲ備エ一箇ニハ昇汞水ヲ盛リ一個ニハ煮沸ヲ經タル清水ヲ容レ之レヲ  
傍ラニ置キ授乳終ラハ昇汞水ヲ以テ乳房ヲ洗ヒ消毒セル布片ヲ以テ之  
レヲ被ヒ授乳ノ前ニ至ラハ清水ヲ以テ善ク附着セル昇汞ヲ洗去スルヲ  
要ス或ハ此法ヲ行ヒ難キ場合ニ於テハ温湯石礮及ビ刷毛ヲ以テ乳房ヲ  
洗滌セルノ後チ二%硼酸水ヲ以テ消毒シ爾後授乳後毎回單ニ硼酸水ヲ  
以テ洗ヒ清潔ナル布片ニヨリ之レヲ被覆ス可シ總テ乳頭ヲ不潔ナラシ  
メ乾固セル乳渣ヲ附着セシムルガ如キハ乳腺炎ノ原因ヲナスモノナリ

第九十四章 初生兒ノ看護法

第一回ノ温浴 臍帶ノ切離ヲ終ラハ攝氏三十六度ノ温湯ヲ取リ初  
生兒ヲシテ第一回ノ温浴ニ入ラシメ血液粘液等ヲ洗除ス可シ眼ハ決シ

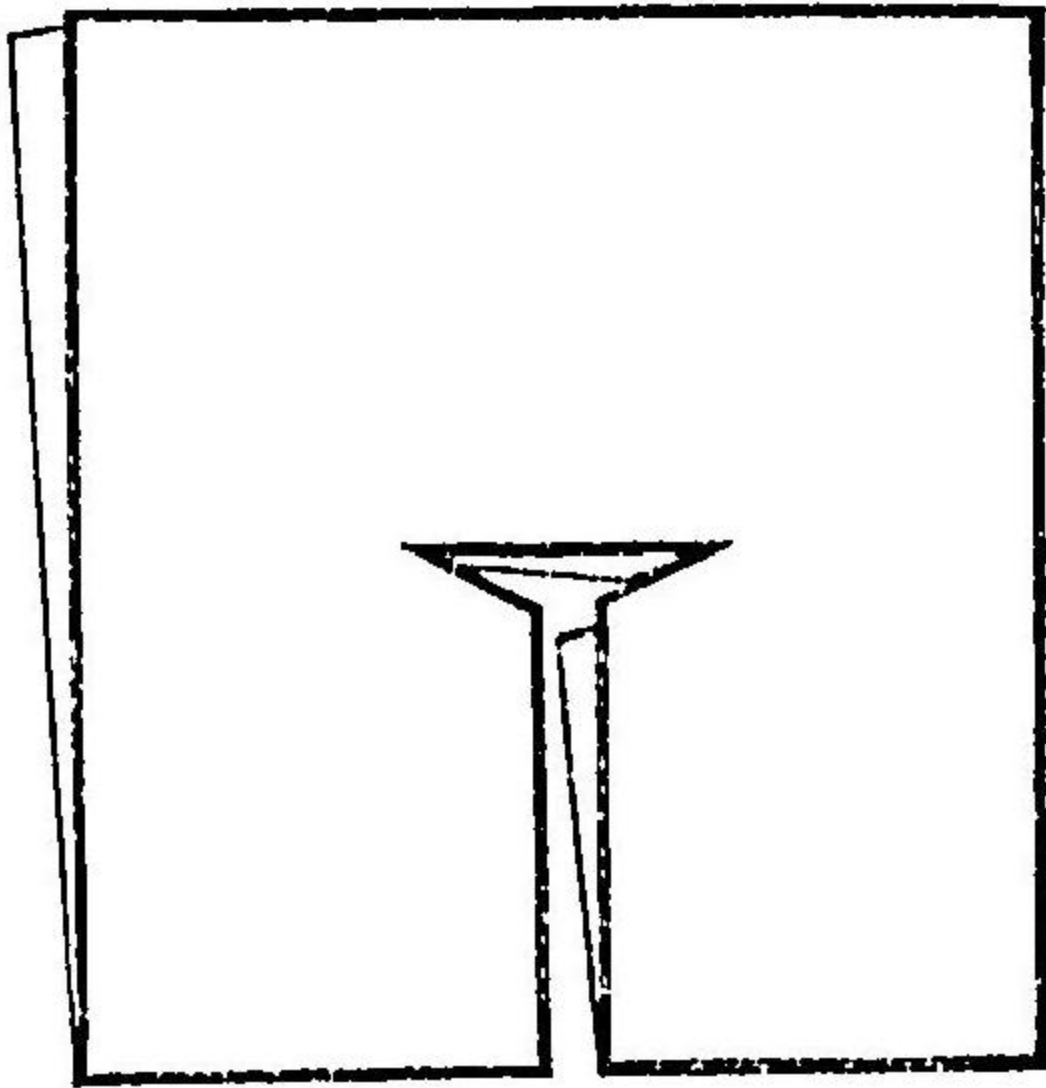


テ浴湯ニ觸レシムルナク別ニ清水ヲ器中ニ盛リ軟カキ布巾ヲ以テ之  
 レニ浸シ拭ハンコトヲ要ス胎脂ハ時トシテ硬固トナリ夥シク皮上ニ附  
 着スルコトアリ此ノ如キ場合ニ於テハ阿列布油若シハ卵黃ヲ塗布シ之  
 レヲ洗除スルヲ良トス又浴湯ノ温度ハ檢温器ヲ用ヰテ之レヲ定ムルヲ  
 佳トス否ラザレバ多クハ熱キニ失シ皮膚ニ炎症ヲ發シ臍ノ治癒ヲ妨害  
 シ又ハ神經ヲ刺戟シ甚ダシキハ痙攣ヲ發セシムルコトアリ既ニ小兒ヲ  
 浴セシメ終ラバ之レヲ柔軟ナル布巾ノ上ニ受ケテ丁寧ニ皮膚及ビ皺襞  
 間ノ濕潤ヲ去ル可シ否ラザレバ創損ヲ發スルコトアリ殊ニ早産セル小  
 兒又ハ甚ダ肥滿セルモノハ之レヲ致シ易キガ故ニ注意セザル可ラズ其  
 他浴湯ニ入ラシムルノ際ハ善ク兒體ヲ檢シ兎唇鎖肛指腫口閉鎖等ノ  
 畸形ナキヤ否ヤヲ見ル可シ若シ之レアラハ直チニ其母ニ知ラシムルコ  
 トナク之レヲ家人ニ告ケ以テ醫師ノ診察ヲ請ハシム可シ

**臍帶斷端ノ處置** 臍帶ノ斷端ヲ處置スルニハ殊ニ防腐ニ注意ス  
 可シ即チ小兒ヲ浴セシメタル後チ産婆ハ其手ヲ清潔ニシ先ヅ臍帶ノ結

臍帶斷端ノ處

第九十一圖 臍帶ヲ 包被スル瓦設片ノ圖



瓦設片ニ重  
 ニ折リ中央  
 ナ丁字形ニ  
 剪リテ造レ  
 ルモノヲ示  
 ス

紮部ヲ檢シ若シ出血アラバ更ニ緊シク結紮ヲ施コシ硼酸末若クハ沃度  
 仿チ臍帶ノ斷端ニ撒布  
 シ消毒セル瓦設片以テ  
 上圖ニ示セルガ如ク方  
 三寸ノ切片ヲ造リ之レ  
 チ包被シ(又ハ消毒綿ヲ  
 以テ之レヲ包ムモ亦可  
 ナリ)而シテ巾四指横徑ニ  
 シテ長サ凡ソ二尺チ有  
 スル臍帶ヲ取リ斷端ヲ上方ニ向ケ少シク左方ニ偏セシメ之レヲ胴部  
 ニ綑帶スベシ而シテ爾後綑帶ヲ交換スルニハ毎回必ズ其母ノ處置ヨリ  
 モ先キニスルヲ良トス否ラザレバ惡露ノ病毒ヲ臍ニ傳ヘ其癒合スルコ  
 ト遅ク或ハ糜爛ヲ呈シ遂ニ潰瘍トナリ甚ダシキハ發熱シテ壞疽ニ陥ル  
 コトアリ此ノ如キモノアルトキハ産婆ハ其罪ヲ免ルハ不能ハズ

ニ臍ノ甚ダシキ病變ハ母體ニ産褥熱アルノ際ニ發スルコト多キガ故ニ  
注意スルヲ要ス

初生児眼炎ノ豫防

母體ニ淋疾アルトキハ小兒産出ノ際其毒ヲ受ケ眼病ヲ發シ爲メニ失明ニ至ルコトアリ獨乙國ニ於テハ盲者ノ數三万七千餘アリテ其中十分ノ一ハ初生児眼炎ニ基クト云フ甚ダ恐ル可キモノナリ故ニ産婦ノ陰部ヨリ多量ノ膿性分泌物ヲ生ズルモノハ淋疾ノ疑アルガ故ニ分娩中ニハ既ニ記スルガ如ク防腐液ノ腔内灌注法ヲ施コシ其産兒ハ速カニ醫治ニ托シ眼炎ノ豫防法ヲ請ハシム可シ

毎日ノ温浴

小兒ハ清潔ニナラシムルヲ要スルガ故ニ毎日一回浴湯ニ入ラシム可シ温浴ノ際臍帶ノ斷端ハ毎回上記ノ法ニヨリ處置ス可シ

小兒ノ衣服及ビ臥床

衣服ハ少ナクモ朝夕二回交換ス可シ襟襪ハ麻布若クハ使用ヲ經タル布片ヲ用ユルヲ佳トス此等ノ物品ハ濕潤スレバ體温ヲ導キ易キガ故ニ速カニ交換スルヲ要ス敷布團ハ甚ダシク輕

坐位

軟ニシテ其身體ヲ埋沒セシムルガ如キモノハ不可ナリ而シテ布團ハ日光ニ晒ラス可シ搖籃及ビ鞦韆ハ決シテ小兒ニ用ユ可ラズ若シ之レヲ用ヰテ動搖セシムルトキハ小兒ノ體温ヲ失ハシメ甚ダシキハ眩暈ヲ來タシ嘔吐腦症等ヲ生ズルコトアリ殊ニ虛弱ナル小兒ハ温婆其他ノ器具ヲ用ヰ温暖ナラシムルヲ緊要トナス

坐位

ハ頸部尙ホ薄弱ニシテ正シク頭部ヲ支エ能ハザルノ間ハ之レヲ致サシム可ラズ

小兒ヲ愛慰シ又ハ接吻スル

小兒ヲ愛慰シ又ハ接吻スルヲ手或ハ詞ヲ以テ初生児ヲ愛慰スルモ感覺ナキヲ以テ無益ナリトス殊ニ人ヲシテ妄リニ小兒ノ唇頭ニ接吻セシムルハ甚不可ナリ是レ容易ク梅毒等ヲ感染セシムルノ恐アルニヨル高聲ヲ以テ歌ヒ又ハ小兒ヲ呼ブ可ラズ小兒ノ聽官ハ尙ホ高聲ヲ聞クニ耐エズシテ爲メニ容易ク喚驚スルモノナリ

小兒ノ啼泣

小兒ヲ健全ニ發育セシムルニハ靜居セシムルヲ以テ緊要トナス小兒若シ少シク號泣スル時ハ直チニ之レヲ抱舉シ忙シク振

小兒ノ啼泣

搖シ數々滋養物ヲ與ヘ遂ニ小兒ヲ疾病ニ陥ラシムルモノアリ更ニ愚ナルハ其小兒ヲ安靜ナラシメシメガ爲メニ砂糖其他ノ物品ヲ包メル小瓶ヲ口内ニ含マシメ或ハ茶等ノ飲料ヲ與フルニ在リ此ノ如クニシテ安靜ナラシムチ得ルモ少時ニシテ再ビ更ニ之レヲ用ヰザルチ得サルニ至ル可シ凡ソ小兒ハ飽滿シ濕潤スルコトナク佳良ニ眠リ便通適度ニシテ體量減ズルコトナキモノハ少シク號泣スト雖トモ敢テ顧慮スルコトヲ要セズ却テ體操ヲ營ムガ如ク其運動ニヨリ肺ヲ強壯ナラシムルノ効アリ只襁褓ノ濕レルトキハ啼泣スルコトアルガ故ニ之レヲ交換ス可シ其他蚤刺又ハ針等ノ刺傷ニヨリ若クハ腹痛苦惱等ニヨリテ不穩ナルコトアルガ故ニ之レニ注意センコトヲ要ス

小兒ノ吐乳

小兒ノ吐乳 小兒ハ一時ニ多量ノ乳汁ヲ飲マシムルトキハ往々ニシテ吐乳スルモノナリ是レ主トシテ小兒ノ胃ノ小ナルニヨル而シテ小兒吐乳スト雖トモ疾病ナキモノハ敢テ其成育ニ害アルモノニアラズ只其煩ラハシキガ爲メニ一時ニ過多ノ乳汁ヲ飲マシメザルヤウ注意ス可

初生兒ノ排泄物

初生兒ノ排泄物 初生兒ハ始メニ胎尿ヲ泄ラシ爾後毎日三四回黄色糜粥様ノ大便ヲ排泄シ尿利ハ十乃至十五回之レアリ而シテ最初ハ尿中ニ多量ノ尿酸ヲ含ムガ故ニ混濁シ時トシテハ尿ノ附着セル襁褓ニ乾燥セル尿酸ノ白點ヲ現ハスコトアリ

發育佳良ナル小兒

發育佳良ナル小兒 ハ善ク乳汁ヲ消化シ空腹ナルトキハ不穩若クハ啼泣スト雖トモ授乳後一二時間ハ善ク睡眠シ尿利便通共ニ宜シク四肢ハ益々豐圓トナリ全身ノ皮膚ニハ皺襞ナク漸次ニ肥滿ス可シ而シテ體量ハ初メ四ヶ月間毎日二十乃至三十瓦チ増シ四ヶ月ニシテ初生兒ノ倍量トナリ十二ヶ月ニシテ三倍ニ達ス而シテ第十二ヶ月ニ於テハ毎日ノ増量凡ソ六瓦トナス

小兒ノ離乳

小兒ノ離乳 小兒第九ヶ月ニ至レハ乳房ヨリ離レシム可シ但シ第八ヶ月ヨリ徐々ニ之レニ習慣セシムルチ要ス即チ始メハ授乳スルノ傍ラ牛乳肉羔汁稀粥鷄卵等ヲ與ヘ漸次ニ其量ヲ多クシ徐カニ習慣セシメ

初生兒ノ損傷  
疾病

後全ク乳房ヲ離レシムルヲ長トス但シ其時期夏時ニ際スルトキハ離乳  
ヲ猶豫セシム可シ——肉類ヲ食セシムルハ第一年ヲ經過シ乳齒ノ一部  
生スルノ時期ニ於テス可シ而シテ乳齒ナル者ハ全數二十箇ニシテ第六  
ケ月ヨリ發生シ第二年ノ終リニ至リ完成シ第八年以後ニ至リ漸次ニ久  
性齒ト交換スルモノナリ

初生兒ノ損傷疾病 等ニ就キテハ第七編異常ノ産褥中第六十  
九章乃至第八十八章ニ記述ス可シ

### 第九十五章 乳母ノ検査

生母若シ乳汁  
乏シキカ又ハ  
疾病アルハハ

生母若シ乳汁乏シキカ又ハ疾病アルハハ 乳母ヲ撰ビテ小  
兒ヲ養育セシム可シ而シテ乳母ヲ撰定スルハ固ヨリ醫師ノ任スル所ナ  
レトモ産婆ハ豫カシメ乳母ニ適スルヤ否ヤヲ視然ル後ニ之レヲ醫師ノ  
許ニ送ル可キモノトス即チ茲ニ産婆ノ檢知ス可キモノハ乳母ノ資質及  
ビ乳房ノ状態ノ二トナス

乳母ノ資質

乳母ノ資質 乳母ハ年齢凡ソ二十乃至三十五年ニシテ二三回分娩

乳房ノ性質

セルモノ殊ニ田舎ノ婦人ヲ佳トス又乳母ハ敢テ生母ト同時ニ分娩セル  
モノナルヲ要セズ甚ダシク時期ヲ異ニセザレバ可ナリ然レトモ乳母ノ  
分娩時ハ生母ニ比シテ一二月早キヲ以テ最モ良トス

乳房ノ性質 ニ就キテハ乳房ノ形状ヲ緊要ナリトス即チ乳房ハ脂  
肪過多ナラズシテ圓錐形ヲナシ壓搾スレバ乳汁ハ線ヲナシテ射出セザ

ル可ラズ甚ダシク肥大セル乳房ハ却テ多量ノ乳汁ヲ出サバルコト多シ  
又乳房ニ糜爛裂傷癩痕皮膚病等アルトキハ不可ナリ善良ナル乳汁ハ白  
色ニシテ少シク青色ヲ帯ビ其一滴ヲ爪上ニ取り稍速カニ動カスモ容易  
ニ散流ス可ラズ其他可及的乳母ノ産兒ヲ檢ス可シ産兒健康ナルトキハ  
其乳汁ノ性質大概善良ナルヲ推知シ得可シ

乳母ノ攝生法

乳母ノ攝生法 ハ可及的慣レタル肉類ヲ適度ニ與ヘ慣レタル業務  
ニ就ケ襪襪ノ洗濯等ヲ擔任セシメ又ハ毎日屋外ニ運動セシムルヲ佳ト

ス而シテ起臥飲食ハ必ズ規律ヲ正シクセシム可シ

### 第九十六章 小兒人工營養法

適當ナル人工  
營養品

牛乳ハ稀釋ス  
ルヲ要ス

適當ナル人工營養品 母乳又ハ乳母ヲ以テ小兒ヲ養育スルコト能ハザルトキハ牛乳ヲ以テ代用スルヲ最適當ナリトス但シ牛乳ハ固形分量多ク百分中固形分凡ツ十四分ニシテ人乳固形分十一分ニ比スレバ頗ル消化シ難キガ故ニ却テ驢馬ノ乳又ハ山羊ノ乳此二者ハ固形分量人乳ト牛乳ノ間ニアリヲ以テ勝レリトナス然レトモ此二種ノ乳汁ハ通例之レヲ得ルコト難キヲ以テ一般ニ牛乳ヲ用ユルヲ最適當ナリトス牛乳ハ稀釋スルヲ要ス 上ニ述フルガ如ク牛乳ハ濃厚ニシテ頗ル不消化ナルガ故ニ之レヲ初生兒ニ與フルニハ水ヲ和シテ稀釋ス可シ今其分量及ヒ稀釋ノ方法ヲ記スレバ次ノ如ク

牛乳稀釋表

|      |      |    |   |   |   |
|------|------|----|---|---|---|
| 第一月中 | 第一週  | 牛乳 | 一 | 水 | 四 |
|      | 第二週後 | 全  | 一 | 全 | 三 |
| 第二月後 | 全    | 一  | 全 | 二 |   |
| 第四月後 | 全    | 一  | 全 | 一 |   |

牛乳ヲ稀釋ス  
ルノ法

第六月後

純牛乳

全

〇

牛乳ヲ稀釋スルノ法

ハ各人ノ見ル所ニヨリテ多少ノ異ナル所アリ而シテ間々精細ノ稀釋法ヲ示スモノアリト雖トモ精細ナルトキハ之ヲ記憶スルコト能ハズシテ實地ニ當リ混雜ヲ免レズ且ツ小兒ニ在リテモ其稟賦ノ強弱ニ從ヒ既ニ初月ヨリ強壯ナルアリ數月ノ後ニ至ルモ却テ之レニ劣レルモノアリ爲メニ實地上ニ於テハ月數ニヨリ固ク稀釋法ヲ守ルコト能ハズ故ニ上ノ表ニ示スガ如ク牛乳一ニ對シ第一月中第一週ニハ水四第二週以後第二月マデハ水三第二月以後第四月マデハ水二第四月以後第六月マデハ水一ヲ加ニ第六月以後ハ純粹ノ牛乳ヲ用ユ可シト定ムルヲ以テ最良トナス——然レトモ小兒ノ状態ニヨリ時トシテ多ク稀釋ス可キコトアリ即チ小兒ノ便中ニ白色ナル不消化性ノ乾酪小片ヲ多ク混スルカ又ハ綠色ノ便ヲ下痢スルトキハ更ニ幾分ノ水ヲ增加ス可キモノトス

牛乳ヲ用ユル  
ニハ

先ツ乳商ヨリ得タル牛乳ニハ上記ノ牛乳稀

正規養育及ヒ其取扱法 小兒人工營養法

釋表ニ從テ水ヲ混シ其混和シ得タル乳汁液二〇〇〇ニ就キ砂糖又ハ乳

糖六〇ヲ加フルカ(水  
 ナ和スルガ爲メニ其  
 甘味ヲ失フニヨリ)或  
 ハ又二十倍ノ砂糖水  
 ナ作り前記ノ表ニ從  
 ビ牛乳ニ混和スルナ  
 頁トス其他乳汁ノ凝  
 固ヲ防カンガ爲メニ  
 炭酸曹達又ハ石灰水  
 ノ少量ヲ加フルコト  
 アリ此ノ如クニシテ

甲、丙ニハ水ヲ  
 盛ル一二  
 寸ニシテ  
 ナ挿メル  
 ナ容レ火  
 ニ煮沸ス  
 モノ  
 乙、洗淨セル  
 ナ倒ニシ  
 ル蓋ニシ  
 引出中ニ  
 吸子等ノ  
 品ヲ納ム  
 乳汁水等  
 計ルニ用  
 授乳時ニ  
 鐵葉ノ  
 丁、

圖二十九第  
 氏養乳  
 装置ノ  
 圖

調製セル乳汁ヲ凡ソ一回ノ哺乳量ヲ容ル可キ數箇ノ乳壺ニ分テ容レ各  
 壺ニハ綿花ヲ挿入シテ栓子トナシ此各壺ヲ少許ノ湯ヲ盛リタル釜中ニ



小兒ノ飲用ス  
可キ乳量

樹テ四十分間煮沸ス可シ(或ハ壺ヲ直チニ炭火上ニテ沸騰セシムルモ亦  
 可ナリ)若シ圖ニ示スガ如キソキスレツト氏ノ養乳器ヲ用ユルモ最  
 モ佳ナリトス——總テ牛乳ハ一回煮沸セルモノニアラザレバ之レヲ用  
 ユ可ラズ然ラサレバ時トシテハ母牛ニ結核病アルカ又ハ運般ノ際ニ種  
 々ノ微菌ヲ混スルニヨリ恐ル可キ疾病ヲ生ズルコトアリ——此ノ如ク  
 準備セル後之レヲ小兒ニ與フルニハ綿花栓子ヲ施コセル儘之レヲ火上  
 ニ温メ體溫度ニ至ラシメ直チニ吸子ヲ壺中ニ挿ミ哺啜セシム可シ但シ  
 其溫度ハ乳壺ヲ類上ニ抵テ、之レヲ試ミ以テ適當ナラシムルヲ良トス  
 小兒ノ飲用ス可キ乳量 今健充ニシテ強壯ナル小兒ノ哺乳量ヲ  
 舉クレバ大約次ノ如シ

- |            |           |    |
|------------|-----------|----|
| 第一日        | 五瓦宛       | 六回 |
| 第二日        | 十五瓦宛      | 八回 |
| 第三乃至八日、毎日  | 二十五乃至六十瓦宛 | 八回 |
| 第九乃至二十日、毎日 | 六十乃至九十瓦宛  | 八回 |

牛乳ノ良否

第四週中、毎日 百瓦宛 七回  
 第二月中、毎日 百十瓦宛 六回  
 第三月中、毎日 百四十五瓦宛 六回  
 第四乃至九月、毎日 百六十乃至二百四十瓦宛六回

小兒ハ概ネ上記ノ如ク哺乳スルモノナルガ故ニ哺乳ノ前及ビ後ニ於テ其體量ヲ秤量スルトキハ直チニ充分ノ乳汁ヲ取レルヤ否ヤヲ知ル可シ又母乳若クハ乳母ニ就ケルモノト雖モ此法ヲ施コストキハ其乳量ノ多寡ヲ確證スルコトヲ得

牛乳ノ良否

牛乳ノ良否 牛乳ハ枯草ヲ以テ飼養セルモノナリトス青草ヲ用ユルトキハ小兒ヲシテ下痢及ビ腹痛ヲ發セシム又一牛ノ乳成分ハ時ニ隨テ其量不同アルガ故ニ數牛ノ乳汁ヲ混和スルヲ佳トス乳商ハ盛大ニシテ正直ナルモノヲ擇ヒ之レヲ購求ス可シ否ラザレバ稀薄シ又ハ不良ノ乳汁ヲ與ヘラル、コトアリ

コンデンスミルク ハ牛乳ニ砂糖ヲ加ヘ蒸發セジメテ製セルモ

米粥又ハ各種ノ小兒粉

ノニシテ凡ソ八十分ノ固形分ヲ含ミ其中砂糖及ビ乳糖ハ合シテ凡ソ四十一分概ネ固形分ノ半量ヲ占ムニ達ス此ノ如ク糖分多量ナルガ故ニコレヲ用ユルトキハ消化器中ニ甚ダシク酸敗ヲ生ズルノ害アリ但シコンデンスミルク ハ牛乳ヲ得ル能ハザル地方ニ於テ或ハ止ムヲ得ズ之レヲ用非ザル可ラズ然ルトキハ大約次ノ法ニヨリ稀釋スルヲ良トス

コンデンスミルク稀釋表

|     |          |   |     |
|-----|----------|---|-----|
| 第一月 | コンデンスミルク | 一 | 水二五 |
| 第二月 | 〃        | 一 | 水二〇 |
| 第四月 | 〃        | 一 | 水一五 |
| 第六月 | 〃        | 一 | 水一〇 |

米粥又ハ各種ノ小兒粉 ハ第三月以後ニアラサレバ之レヲ與フ可ラズ而シテ之レヲ與フルニハ必ズ醫師ノ命ヲ請フ可シ但シ此等ノ物品ヲ以テ乳兒ヲ養育セシムルハ甚ダ有害ナルヲ以テ寧ロ全ク廢棄ス

ルヲ良トス

附録(参考用トナス)

第九十七章 褥婦ノ營養法

産褥婦ノ食物ニ注意ス可キ理由

産褥婦ノ食物ニ注意ス可キ理由 褥婦ハ身體中ニ頗ル甚ダシキ變状ヲ有スルニヨリ事物ノ害ヲ被リ易ク僅カノ感動又ハ便秘等ニヨリテモ直チニ熱度ノ上昇ヲ致スコトアルモノナリ原ト産褥ハ疾病ナラズト雖トモ時トシテ褥婦ハ病者ヨリモ害ヲ發シ易キコトアリ故ニ其營養法ニ至リテハ最モ注意シ食物ハ甚ダ消化シ易キモノヲ與フルヲ緊要ナリトス

又食物ハ各種ノ營養物ヲ具フルコト緊要ナリ而シテ其營養物トハ水食鹽蛋白質脂肪澱粉及ビ砂糖之レナリ

水 清潔ナル井水又ハ泉水ヲ良トス河水ハ不潔物殊ニ微菌ヲ含ムガ故ニ一タビ煮沸シテ與フ可シ但シ之レヲ煮ルトキハ炭酸氣ヲ失ヒ良味

産褥飲料ノ必要

鶏卵ノ調理法

鶏卵ヲ肉蒸汁中ニ加フルルハ

ヲ損スルガ故ニ少許ノ炭酸水(ラムネ)ヲ加フレバ大ニ佳ナリ純粹ノ炭酸水ヲ與フルトキハ嘔吐又ハ放屁ニ苦シムコトアルガ故ニ之レヲ用ユ可ラズ其他麥湯ヲ造リ飲用セシムルモ亦佳ナリ

産褥飲料ノ必要 褥婦若シ飲料ヲ欲セザルトキハ甚ダシク食物ノ鹹味ヲ強カラシメ若クハ食鹽塊ヲ與ヘテ之レヲ甜メシムルヲ良トス凡ソ飲料少ナキトキハ乳量ヲ減ズルモノナリ

鶏卵ノ調理法 蛋白質ノ緊要ナルモノハ鶏卵及ビ肉類ナリ鶏卵ハ生卵又ハ軟カク煮タルモノヲ與フ鶏卵ヲ煮ルニハ直チニ沸湯中ニ入ル可ラズ若シ然ルトキハ卵殼破裂スルモノナリ依テ水ノ沸騰セザルニ先ダナテ鶏卵ヲ入ル可シ而シテ後チ煮沸スルコト三分間ナルトキハ軟カニ煮ヘ四分間ナルトキハ稍緊ク蠟ノ如ク五分間ナレバ甚ダ堅キニ至ル然レトモ更ニ長ク煮ルコト十分間ナルトキハ脆クシテ容易ニ破碎スルニ至ルモノナリ

鶏卵ヲ肉蒸汁中ニ加フルルハ 大ニ滋養ノ力ヲ増ス之レニ二



法アリ一ハ肉煮汁ヲ熱シ卵黄ヲ其中ニ落シ卵黄外圍ノ凝固スルニヨリ  
圓形ヲ保テシムルモノ一ハ又肉煮汁ヲ温クメ卵黄及び蛋白質共ニ攪和  
スルモノ是レナリ

肉ノ良否

肉ハ筋肉ト稱シ筋纖維ト名クル赤色柔軟ナル細線ノ集  
合スルニヨリナレモノニシテ人ノ食物トシテ緊要ナル蛋白質ナリ又  
筋纖維ノ間ニハ結締織ト名クルモノアリテ老獸ノ肉ニ於テハ甚ダ多ク  
且ツ強クシテ大ニ消化ヲ妨クルモノナリ故ニ肉類ハ結締織ノ柔軟ナル  
幼獸ノ肉ヲ最良トス又獸類ノ種類ニヨリテモ相違アリ豚肉ハ其齡若キ  
モ結締織多シ其他鴨雁ノ如キハ筋纖維間ニ多量ノ脂肪アリテ消化宜シ  
カラザルガ故ニ産褥婦ノ食料ニ適セズ

諸肉類消化ノ難易

諸肉類消化ノ難易 今肉類ニ就キ消化シ易キモノヨリ始メ其難  
キモノヲ漸次ニ數フレバ次ノ如シ(右端ハ最モ消化シ易キモノ左端ハ最  
モ難キモノトス)

犢牛ノ脾臟

牝鶏肉及び鳩肉

野獸ノ肉

羊肉

柔軟ナル牛肉及び鱈鯛比目魚等ノ魚肉

豚肉

但シ各種ノ肉類ハ調理法ニヨリテモ大ニ消化ノ難易ヲ生ズルモノニシ  
テ老ユ且ツ韌キ肉ト雖トモ打テ若クハ揉ルカ或ハ酢又ハ重炭酸曹達ヲ  
加ヘ結締織ヲ軟化セシムルトキハ大ニ柔軟ニシテ消化シ易キニ至ル可  
シ其他肉類ヲ煮ルトキハ結締織柔軟トナルト雖トモ生肉ハ尙ホ韌ク醜  
肉ニ至リテハ甚ダ硬キガ故ニ産褥ニ食セシム可ラズ

肉煮汁ノ製法

肉煮汁ノ製法 凡テ肉ヲ煮ルノ法ハ肉煮汁ヲ得ントスルモノト肉  
質ヲ目的トナスニヨリテ異ナリ若シ良肉煮汁ヲ製セント欲セバ肉凡ソ  
五十匁ヲ五百瓦ノ冷水中ニ浸ス一乃至二時間ニシテ後テ徐々ニ煮沸  
セシメ肉ノ柔軟トナルニ至ル煮沸ノ際早芹菜若クハ塘蒿ノ一束ヲ直チ

正規産物及び其取扱法

肉類ノ養法

ニ肉羔汁中ニ容レ置シトキハ其液汁ヲ清澄ナラシムルノ益アリ此ノ如クスレバ肉羔汁凡ソ五百瓦ヲ得肉モ亦大ニ滋養力ニ富ムモノナリ肉中ニ在ル骨ハ横斷スルコトナク長徑ニ截割ス可キモノトス

肉羔汁ノ味ヲ佳良ナラシメニハ

肉羔汁ノ味ヲ佳良ナラシメニハ 米若クハ麥ヲ浸漬シ後チ少時間煮沸ス可シ又牛肉羔汁ハ便通ヲ促カスノ性ヲ有シ羊肉羔汁ハ之レニ反シ便秘セシムルノ傾アルガ故ニ各相當ノ場合ニ撰用スルチ佳トス凡テ肉羔汁ハ營養ノ力ヲ有セズ興奮ノ作用アルモノトス

若シ肉質ヲ目的トナスルハ

若シ肉質ヲ目的トナスルハ 直チニ之レヲ煮沸セル湯中ニ入ル可シ然ルトキハ肉ノ表面ニ凝固物ノ薄層ヲ生シ質内ノ肉汁ヲ漏出シ能ハサラシム而シテ煮熟セル後ハ肉ヲ其液中ヨリ取り去ルコトナク之レヲ調理ニ用ユルニ至ルマテハ其中ニ蓄フ可シ然ルトキハ頗ル肉汁ニ富ムモノナリ

焦肉ヲ製セント欲セバ

新鮮ノ乳脂凡ソ三十瓦ニ食匙ヲ強熱シ之レニ肉五百瓦(百二十五瓦)ヲ加フ可シ然ルトキハ直チニ肉ノ表面ニ

不良ナル脂肪性及ビ良好ナル魚類

食用ニ供ス可キ脂肪

焦皮ヲ生シ肉汁ヲ漏出セザラシメ且ツ佳香ヲ發スルモノナリ又肉片ハ可及的大ニシテ比較的ニ少量ノ脂肪ヲ以テ足ラシムルチ佳トス其他初メ肉片ニ穀粉ヲ撒布スルトキハ迅速且ツ確實ニ焦皮ヲ生ズルモノナリ  
不良ナル脂肪性及ビ良好ナル魚類 脂肪ニ富メル鳥肉及ビ魚肉即チ家鴨雁鰓鱒等ノ如キハ消化不良ナルガ故ニ之レヲ褥婦ニ與フ可ラズ之レニ反シ鱈比目魚鰻等脂肪少ナキ魚肉ノ煮熟セルモノハ大ニ佳良ナリ特ニ我邦ニ於テ普ク行ハル、鯉若クハ鱒ノ味噌汁ハ可及的其脂肪ヲ除去シテ食用セシムルトキハ兼テ乳汁ノ分泌ヲ進ムルノ良効アリ但シ總テノ魚肉ハ獸肉ニ比スルニ水分多量ナルモノトス  
食用ニ供ス可キ脂肪 脂肪ハ新鮮ノ乳脂若クハ阿列布油ヲ佳トス陳腐ナルハ腸胃加答兒ヲ起スノ恐アルガ故ニ用ユ可ラズ又肉質ノ脂肪組織ハ甚ダ消化シ難キヲ以テ之レヲ褥婦ニ與フルコトナク肉類ト雖トモ綿密ニ脂肪組織ヲ除去シテ之レヲ食セシム可シ

澱粉質類

澱粉質類ノ中米粥ヲ以テ最モ消化シ易シトス之レヲ製

ズルニハ米ヲ冷水中ニ入レ徐々ニ加熱シ煮沸スルヲ半乃至一時間ヲ費  
ヤシ柔軟ニシテ平等ナル粥汁ヲ得ルニ至ル又麵包ナルトキハ白色ニシ  
テ細微ノ粉末ヲ以テ製セル輕疎ノ品ヲ撰フ可シ但シ新製ノ麵包ハ咀嚼  
スルトキハ粘合シテ餅狀ヲナシ輕疎ノ質ヲ失フガ故ニ少シク之レヲ炮  
ブルトキハ粘合スルコトナシ消化液ノ滲潤宜シキモノナリ

良好ナル野菜

赤根菜胡蘿蔔等ノ柔軟ニ調理セルモノヲ用ヰシムルヲ得

リモナーデ

リモナーデ 熱アルモノニハ飲料トシテ リモナーデ ヲ用ヰシ  
ムルヲ良トス之レヲ橙實ヨリ製スルニハ皮ヲ去レルニ箇ノ橙實ヲ取リ  
縦ニ其各片ヲ割リ水五合砂糖二小盃ヲ加ヘ之レヲ密蓋アル桶ニ入レ且  
ツ其香氣ヲ佳良ナラシメンガ爲メニ橙皮片小許ヲ混シ半時間ヲ經布片  
ヲ以テ之レヲ濾過シ毎時一小盃ヲ飲用セシム可シ

茶其他ノ飲料ノ良否

茶其他ノ飲料ノ良否 通例ノ茶及ビ咖啡ハ飲用セシム可ラズ若  
シ之レヲ用ユルトキハ心臓ノ悸動ヲ増シ子宮出血ヲ發シ且ツ腸胃病ヲ

生ズルコトアリ但シ煎餘ノ粗劣ナル茶ナルトキハ害アルコトナシ又上  
項説述セル麥湯ノ如キハ頗ル佳ナリ  
重症アル褥婦ニ赤酒ヲ與ヘント欲セバ小量ノ桂皮丁幾及ビ砂糖ヲ加エ  
少時煮沸シ濾過シテ用ヰシム可シ  
以上ハ褥婦一般ノ食料ヲ論セルモノナリ次ニハ稍詳シク各種ノ褥婦ニ  
必要ナルモノヲ説ク可シ

食物ヨリスル褥婦ノ區別

食物ニ就キ褥婦ヲ大別シテ二種ト  
ナズ授乳スルモノ及ビ授乳セサルモノ是レナリ授乳スル者ハ乳汁ノ分  
泌ヲ多カラシメンガ爲メニ可及的多量ノ飲料ヲ與ヘ其量一日三四千瓦  
ニ至ラシム之レニ反シ授乳セザルモノハ飲料多クレバ乳汁ノ分泌ヲ増  
シテ乳房ノ腫張疼痛ヲ起シ尿利發汗ヲ夥多ナラシメ大ニ褥婦ヲ困難ナ  
ラシムルガ故ニ可及的飲料ヲ制限シ一日凡ソ一千瓦ヲ超エシメザルヲ  
佳トス

授乳スル褥婦

授乳スル褥婦 モ亦分ケテ(甲)多血強壯ナルモノ及ビ(乙)貧血虛弱ナ

第一類多血強壯ナル褥婦

ルモノ、二類トナス

(甲)第一類多血強壯ナル褥婦 ハ最初三日間液状ノ食飼即チ稀粥牛乳ヲ與ヘ全ク固形食物ヲ禁シ第四日ニハ鶏卵肉羔汁又ハ魚肉ノ味増汁ヲ添ヘテ食セシメ第五日ニ至リ柔軟ノ米飯肉類ヲ取ラシム可シ此ノ如ク最初三日間固形食ヲ禁スル所以ハ褥婦ノ腸胃未ダ静臥ニ慣レズ爲メニ腸胃ノ運動弱ク消化液ノ分泌モ亦稀少ナルガ故ニ固形食ヲ與フルキハ容易ニ腸管内ニ推積シ發熱若クハ腸加答兒ヲ惹起スルヲアリ且ツ分娩前幾何カ腸管内ニ存スル食飼モ亦産褥初期ノ便秘ニヨリテ滞積シ居ル可キニヨル斯ノ如ク分娩前ヨリ滞積セル糞便ハ時トシテ甚ダ多量ニ達シ爲メニ産褥ノ第一日ニ灌腸ヲ施コサマル可ラザルヲアリ

(乙)第二類貧血虛弱ナル褥婦 ハ之レト異ニシテ若シ飢餓ヲ感セシムルトキハ身體ノ虛弱ヲ増シ乳汁ノ分泌ヲ減少セシム且ツ此種ノ婦人ハ幾分カ静臥ニ慣ルガ故ニ既ニ第二日ニハ米粥ノ外肉羔汁鶏卵又ハ魚肉ノ味増汁ヲ與ヘ第三日ニ至リ若シ食欲ノ佳良ナルモノニハ二

第二類貧血虛弱ナル褥婦

三箇ノ鶏卵肉類ヲ食セシムルヲ良トス通例健亢ナル褥婦ハ最初二日間食欲佳良ナルヲ以テ食欲ヲ節セシムルヲ甚ダ困難ナリ故ニ此ノ如キモノハ可及的過度ニ至ラシムルヲナキヲ務ム可シ第三日以後ハ食欲自ラ減却ス可シ第五日以後ハ肉類魚肉蔬菜等上記ノ方法ニヨリ食用セシメ第二週以後第三週ニ至ルノ間漸次ニ通常ノ食飼ニ復セシム但シ辛辣ナルモノ及ビ腹内ノ膨滿ヲ起ス可キモノハ食セシム可ラス

今褥婦ニ許容ス可キモノト禁忌ス可キモノヲ擧グレバ次ノ如シ

(天)許容ス可キモノ

- 一、菜實 煮タル菜物 酸味ナキ熟シタル菜物
- 二、魚肉 鮎 鱈 白魚 比目魚 鯛 鱈
- 三、蔬菜 煮タル豌豆 菠薐菜 大根 百合
- 四、穀類 總テノ穀粉 麵包
- 五、肉類 兔 牝雞 犢牛肉 牛肉 羊肉

(地)禁忌ス可キモノ

正規産後及び其取扱法 褥婦ノ營養法

一、菓實 新鮮ノ林檎 梨子 杏  
 二、魚肉 鰻 牡蛎 蟹 星比目魚 鮭 鯖 鱈  
 三、總テノ香料 芥子 胡椒等  
 四、蔬菜 青菜 苜蓿 早芹菜 剝皮セザル莢豆 大根  
 五、肉類 燒肉 豚 鴨 雁 醃肉

以上ノ外凡テ婦婦ハ可及的平常習慣セル食料ヲ與フルヲ良トス之レニヨリテ乳汁ヲ出スヲ最モ多キモノナリ唯過食スルヲ戒ム可シ ホップヲ加ヘザル麥酒ヲ飲マシムルハ乳汁ノ分泌ヲ增加ス可シ若シ麥酒中ニ ホップ ナ含ムキハ却テ乳汁ヲ減シ且ツ小兒ノ腹部ヲ膨滿セシム

### 第五編 異常ノ妊娠及び其取扱法

#### 第九十八章 誘導編

此編ニ於テハ初メニ妊娠生理的徵候ノ増劇セルモノ即チ妊娠性嘔吐便秘靜脈瘤等ヲ論シ次ニ妊娠中ニ併發スル諸種ノ白帶下出血若クハ胎及ヒ子宮ノ異狀ヲ述ベ胎兒ニ屬スル疾患即チ葡萄狀胎羊膜水腫流產早産等ヲ記シ終リニ異常部位ノ妊娠即チ子宮外妊娠ヲ説カント欲ス

#### 第九十九章 妊娠性嘔吐

妊娠ノ凡ソ五%ハ其第一月ヨリ慢性嘔吐ヲ發ス可シ此嘔吐ハ空腹時殊ニ早朝ニ發スルヲ特異ナリトス而シテ多クハ第三ケ月ノ終リ若クハ其以前ニ於テ止ム可シト雖トモ時トシテハ更ニ長ク持續シ妊娠ノ後半期ニ至ルモ治スルコトナク或ハ總テノ飲食物ヲ吐出シ空腹時ニ於テモ烈シキ乾嘔ヲ發シ甚クシテ衰弱シ或ハ流產シ或ハ死ニ歸スルコトアリ此ノ如ク重症ニシテ容易ニ鎮靖ス可ラサル所ノ嘔吐ヲ惡阻ト稱ス

妊娠性嘔吐

處置

處置 此嘔吐ノ輕度ナルモノニシテ食機營養共ニ佳良ナルモノハ敢テ治チ施コスコトヲ要セザルモノアリ若シ嘔吐頗ル甚ダシキモノハ柔軟ニシテ消化シ易キ食物ヲ與ヘ食後ハ身體ヲ安靜ニシ一時ニ多量ノ食飼ヲ取ラシムルコトナク數回食事ニ就カシメ且ツ其時間ヲ一定ス可シ又早朝ノ嘔吐ニ苦ムモノニハ褥中ニ在リテ牛乳肉羔汁鶏卵等ノ滋養物ヲ取ラシメ後チ一時間ヲ經テ起キ出テシムルヲ良トス其他清氣中ノ運動ヲ命シ便秘アラハ灌腸ヲ施コス可シ若シ此ノ如クスルモ尙ホ治シ難キモノ又ハ初ヨリ強劇ナルモノハ速ニ醫治ニ托スルヲ要ス

便秘

第百章 便秘

妊娠ノ始メ二三ヶ月間子宮ノ小骨盤内ニ在リテ増育セルノ際ニハ直腸ヲ壓迫スルガ故ニ甚ダ便秘ヲ發シ易シ此便秘アルトキハ腸内ニ風氣ヲ讓シテ鼓脹ヲ發シ血液ハ骨盤内ニ鬱積シ痔結節逆上睡眠不安等ノ症ヲ致ス可シ

處置

處置 ハ第四十二章妊娠攝生法中ニ示セル處置ヲ施コシ尙ホ効ナキ

尿利ノ困難

第百一章 尿利ノ困難

モノハ醫治ヲ求メシム可シ  
妊娠中増大セル子宮ニヨリ膀胱及ビ尿道ノ壓迫ヲ蒙リ爲メニ尿意頻數トナリ通利ノ際疼痛ヲ起シ或ハ尿閉シテ全ク尿ヲ利スル能ハサルコトアリ又尿失禁ト稱フルモノアリ此症ハ嘻笑咳嗽噴嚏等ニヨリ腹壓増劇スルトキハ尿ハ不隨意ニ射出スルモノヲ云フ

處置

處置 尿利困難アルカ又ハ尿閉アルトキハ可及的早ク醫治ヲ求ム可シ而シテ醫師ノ來診スルニ至ルマデハ尿意頻數ナルモノニハ安靜ナル位置ヲ命シ温ナル牛乳葛湯等ノ飲料ヲ與エ下腹ニ温毯布ヲ貼ス可シ若シ又尿閉シタルトキニハカテールヲ用キ尿失禁アルトキハ冷水ヲ以テ屢陰部ヲ洗滌セシム可シ其他ノ處置ハ總テ醫師ノ命ヲ待ツ可キモノトス

浮腫

浮腫 ハ妊娠セル子宮ノ骨盤管内ヲ壓スルニヨリ生ズルモノヲ多シ

第百二章 浮腫

處置

トス然レトモ時トシテハ腎臟病貧血症ノ徵候トナリテ來ルコトアリ其ノ腫張セル部位ハ白色トナリ光澤ヲ呈シ指ヲ以テ壓スレバ暫時ノ間淺キ窩ヲ留ム可シ浮腫ノ腰部以下ニ存スルハ血管壓迫ノ徵ナレトモ上肢顔面等ニ現ハルハ多クハ腎臟病又ハ貧血症ニ基クモノトス

處置 下肢ノ少シク浮腫アルモノハ可及的起立ヲ誡メ莫大小ノ股引及ヒ足袋ヲ着ケシムルヲ佳トス然レトモ下肢陰部等ニ甚ダシク浮腫シ歩行ヲ妨グルニ至ラハ常ニ下肢ヲ伸バシテ臥セシメ且ツ足ノ末端ヨリ大腿ニ至ルマテ フランネル 綑帶ヲ施コスカ若クハ莫大小ノ股引ヲ着ケシメ陰唇ノ浮腫ハ温水ヲ以テ捲法ヲ施コス可シ又全身ニ著シキ浮腫ヲ發シ頭痛ヲ起スモノハ即チ全身ノ痙攣症(子痙)ヲ來スノ恐アルカ故ニ必ズ醫師ノ診察ヲ受ケシム可シ

第百三章 靜脈瘤

靜脈瘤

靜脈瘤 ハ靜脈管ノ甚ダシク擴張シタルモノニシテ皮下ニ蟻々タル青色ノ索狀若クハ連續セル結節ヲナシ上腿足踝腓腸部膝膕陰唇等ニ之

處置

レテ現ハス之レニ觸ルレバ軟カニシテ壓ニ應ズルカ又ハ時トシテ固キコトアリ此靜脈瘤ハ身體ノ運動若クハ努力ニヨリテ緊脹ノ感覺若クハ疼痛ヲ發シ時トシテハ甚ダシク増大シ其外皮菲薄トナリ摩擦衝突若クハ努力ニヨリテ破開シ危險ノ大出血ヲ來スコトアリ

處置 靜脈瘤アルトキハ久シク起立シ又ハ脚ヲ下垂スルコトヲ禁シ莫大小ノ股引ヲ穿カケシメ若シ其大ニシテ障害アルモノハ綿花ヲ貼テテ フランネル ノ如キ弾力性ヲ具フル綑帶ヲ施コシ以テ其増大破裂等ノ危險ヲ防止ス可シ若シ又赤色ヲ呈シ疼痛スルコトアラバ安臥ヲ命ジ冷水捲法ヲ行ヒ且ツ醫治ヲ求ムルヲ要ス若シ又突然破裂セルモノハ直ニ壓抵止血セシメ次テ綿花若クハ瓦設ニ石炭酸水ヲ浸シテ貼シ綑帶ヲ施コシ速カニ醫治ヲ請フ可シ

第百四章 白帶下

白帶下トハ

白帶下トハ 腔内ヨリ白色又ハ水様若クハ膿様液ノ漏泄セルモノ、總稱ニシテ子宮頸癌腫子宮內膜炎淋毒性腔加答兒葡萄狀胎等種々ノ

單性分泌過多

疾病ニヨリテ此症ヲ發スト雖トモ亦妊娠中ハ疾病ニアラザル分泌増進即チ單性分泌過多ニヨリテ之レヲ現ハスコトアリ

(一)單性分泌過多

ハ單ニ清淨ナル温湯若クハ一%微温石炭酸水ヲ以テ屢洗淨ス可シ疑ハシキモノアラバ醫治ニ托スルヲ要ス

子宮頸癌腫

(二)子宮頸癌腫

癌腫ハ最モ恐ル可キ疾病ナリ此病ニ罹リ適當ノ治療ヲ施コスコト能ハザルトキハ數月若クハ一二年ノ後必ズ死ニ至ルモノナリ而シテ此病ヲ發スルキハ腔内ヨリ初メハ粘液水樣液後ニハ臭氣アル膿液及ヒ多量ノ血液ヲ漏ラシ其病變子宮ノ周圍ニ蔓延スルトキハ劇シキ腰痛尿意緊急等ヲ發ス

此癌腫ハ子宮口ノ周圍ニ潰瘍ヲ造リ若クハ腔部一般ニ増大シ凹凸不平ヲ呈シ後チ中部ヨリ漸次ニ破壞シテ同シク潰瘍トナリ此潰瘍ヨリ血液膿液等ヲ夥シク漏泄セシム又癌腫ハ漸次ニ子宮ノ周圍ニ蔓延シ硬結ヲ造リ膀胱直腸ニ及ビ遂ニ茲ニ破壞穿孔シ尿及ビ糞便ハ共ニ腔内ヨリ出ヅルニ至リ衰弱ニヨリ斃レ或ハ此間一時ニ多量ノ出血ヲ發スルキハ忽

處置

ナ急性貧血ニヨリテ死ニ至ル可シ又分娩時ニ於テハ患部硬結チナシ延長シ難キニヨリ子宮口狹窄ノ症狀ヲ發ス

子宮内膜炎

處置 癌腫ノ疑アルモノハ速カニ醫治ヲ求メシムルヲ要ス

(三)子宮内膜炎

子宮口及ヒ腔内ニハ異常チ呈セズト雖トモ妊娠中時々透明ノ水樣液ヲ流出セシメ或ハ子宮口ノ糜爛ヲ伴フコトアリ此症ハ最モ多ク流産ヲ發シ又ハ前置胎盤ノ如キ異常ヲ致スコトアリ

淋毒性腔加答兒

(四)淋毒性腔加答兒

ニ在リテハ帶黃綠色ノ膿樣液ヲ漏ラシ其液ノ附着セル部ニハ糜爛ヲ發セシム可ク又此レヲ自己ノ眼若クハ初生兒ニ眼ニ觸レシムルトキハ膿性ノ眼炎ヲ發シ甚ダシキハ失明セシムルニ至ル此症ニ在リテハ腔粘膜ニ觸レ試ロムルニ砂粒ヲ撒布セルガ如キヲ知ル可シ

處置

處置 速カニ醫治ニ就カシメ其分泌物ハ自己若クハ他人ノ眼内ニ入レシム可ラズ分娩時ニ至ラバ五十倍石炭酸水ヲ以テ屢腔内ニ灌注シ初



葡萄胎胎

生兒眼炎ノ豫防法(第九十四章)ヲ施コスヲ要ス  
(五)葡萄胎胎 第九十九章ニ別論ス可シ

第五百五章 妊娠中生殖器ノ出血

妊娠中ニ血液腔内ヨリ漏出スルハ屢之アル所ニシテ癌腫 ポリープ 葡萄胎胎腔内靜脈瘤ノ破裂子宮内膜炎流産胎盤ノ早期剝離前置胎盤及ビ月經ニヨリテ之レヲ來ス就中癌腫及ビポリープハ妊娠ノ初期ト末期トニ係ラズ絶エズ出血ヲ呈ス可ク内膜炎ハ時々出血シ月經ハ稀レニ妊娠ノ初メニ潮來スルコトアリ葡萄胎胎ノ出血ハ第三四ケ月以後ニ現ハレ前置胎盤ハ妊娠ノ終末二三ケ月ニ於テ出血ヲ現ハシ流産胎盤ノ早期剝離靜脈瘤ノ破裂ハ時々定メズ之レヲ致ス可シ而シテ之レガ詳細ノ説明ヲナスニ就キ癌腫及ビ子宮内膜炎ハ前章中既ニ之レヲ説キ葡萄胎胎流産ハ第九十九章及ビ第一百十三章ニ詳述ス可シ又胎盤ノ早期剝離及ビ前置胎盤ノ出血ハ共ニ分娩ヲ誘起シ若クハ分娩時ニ至ルマテ其出血持續スルコトアルニヨリ之レヲ第六編異常分娩第四百四十三章及ビ第百

ポリープ

四十四章中ニ論述スルヲ適當ナリトス

(一)ポリープ トハ莖ヲ有スル梨子狀ノ腫物ニシテ子宮口ヨリ垂下シ或ハ大ニシテ稍硬キモノアリ或ハ小ニシテ柔カク同時ニ數箇ヲ現ハスモノアリ各著シク出血スルノ性ヲ有ス

癌腫

處置 醫療ニヨリ之レヲ切除ス可キモノナリ

腔内靜脈瘤ノ破裂

(二)腔内靜脈瘤ノ破裂 突然トシテ多量ノ出血ヲ現ハス可シ處置

ハ綿花ヲ石炭酸水ニ浸シ固ク栓塞法第四百四十四章及第四百四十六章ヲ見ヨチ施コシ且ツ速カニ醫治ヲ請フ可シ

月經

(三)月經 ハ妊娠中閉止スルヲ常トスレトモ極メテ稀レニハ之レヲ現ハスコトアリトス但シ此ノ如キモノハ月經ニアラスト云フモノモ亦之レアリ

第百六章 子宮脱及ビ腔脱

(一)子宮脱トハ 子宮下垂シテ其腔部陰唇間ニ現ハルハモノヲ云フ而シテ更ニ甚クシク脱出スルモノモ亦多ク之レアリ原因ハ妊娠中ニ劇シ

子宮脱トハ

ノ努力スルニヨリテ新タニ發スルコトアレトモ既ニ前回ノ分娩後安靜  
 ナ守ラザルヨリ生セルチ多シトス此症ハ妊娠第四ヶ月ニ至レバ通例自  
 然ニ癒ユルモノナリ是レ子宮ノ増大シ小骨盤ヨリ大骨盤ニ移行スルガ  
 故ナリ然レトモ時トシテハ妊娠セル所ノ子宮深ク沈降シテ所謂嵌頓症  
 ナ來シ甚クシヤ苦惱ヲ訴エ尿ノ通利ヲ妨ケ子宮ノ瘀衝ヲ發シ終ニ流産  
 ナ來スニ至ルコトアリ

處置

處置 妊娠ノ前半期ニ於テ子宮脱出ヲ發生セルトキハ妊娠ヲシテ先  
 ツ兩便ヲ排泄セシメ其臀部ヲ高クシテ平臥又ハ側臥ヲ與エ消毒セル手  
 指ヲ以テ徐カニ平常ノ位置ニ復納セシメ以テ醫師ヲ招聘ス可シ醫師ハ  
 ペッサリウムヲ挿入シテ子宮ノ再ヒ脱出スルヲ防クコトアリ

産脱

(二)産脱 ハ産壁ノ繚轉シテ産口ヨリ挺出スルモノニシテ甚クシキハ  
 歩行ノ際殊ニ困難ヲ起スモノナリ此症モ亦醫師ハ ペッサリウムニヨ  
 リテ其脱出ヲ支持スヘシ

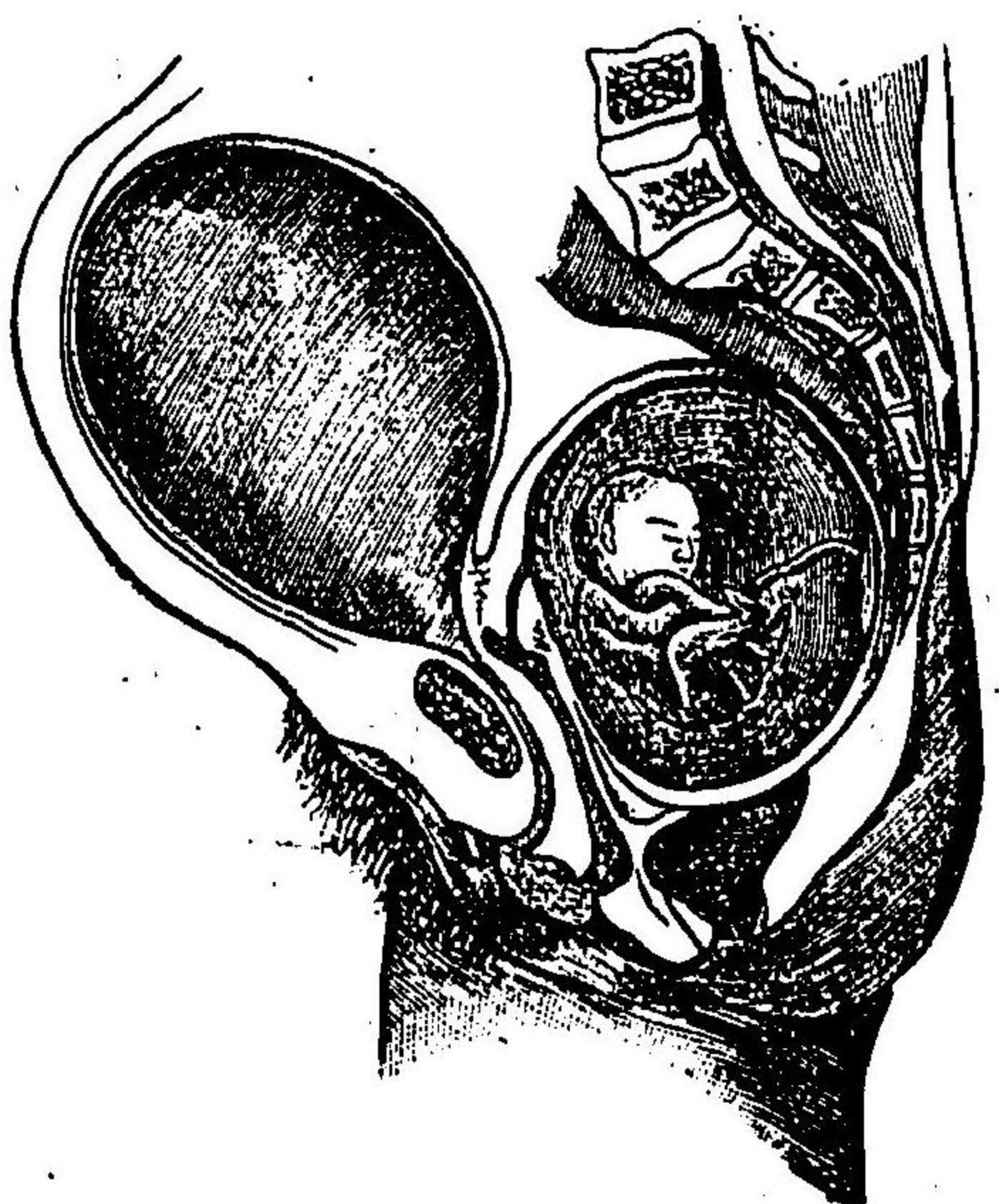
第一百七七章 妊娠子宮後屈症

子宮後屈症ニ在リテハ

子宮體ハ子宮頸ヨリ後方薦骨ニ向フテ

後屈子宮妊娠ノ圖

嵌頓ニヨリ膀胱甚クシク充盈セルヲ示ス



圖三十九第

原因

屈曲シ(正規ノ子宮體  
 ハ稍前方ニ屈曲ス)子  
 宮底ハ薦骨窩内ニ沈  
 降シ子宮頸ト子宮口  
 トハ骨盤前壁ニ沿ヒ  
 テ上昇ス故ニ最高度  
 ノ後屈症ニ於テ後方  
 ニアル子宮底ハ前方  
 ニアル子宮口ヨリモ  
 下方ニ位スルモノナ  
 リ

原因 此症ハ妊娠

前ヨリ已ニ子宮後屈セルニヨリ又ハ妊娠第三四ヶ月ノ間子宮ノ小骨盤

異常ノ妊娠及ビ其取扱法 妊娠子宮後屈症

症狀

ヨリ大骨盤ニ昇ルノ際薦骨岬ニ支障セラレ之ヲ發スルコトアリ其他重キ物ヲ舉ゲ或ハ甚クシク努力ヲ營ミテ便通スルカ如キ總テ腹壓ヲ強ムルコト又ハ手ヲ高所ニ達セシメソカ爲メ強テ身體ヲ伸張セシメ或ハ後方ニ轉倒シ或ハ排尿ヲ停止シテ甚クシク膀胱ヲ充滿セシムルガ如キコト等ニヨリテ此後屈症ヲ致ス可シ

**症狀** 子宮後屈症ヲ發シ子宮漸次ニ増大シ小骨盤内ヲ充塞スルハ所謂嵌頓症狀ヲ發ス即チ子宮頸ハ前方ニ在リテ強ク膀胱及ヒ尿道ヲ壓スルガ故ニ尿意頻數ヲ發シ毎回僅量ノ尿ヲ排泄シ後全ク尿閉ヲ致シ又子宮體ハ後方ニ位シ直腸ヲ壓迫スルカ故ニ頑固ノ便秘ヲ現ハシ爲メニ骨盤内ニ甚クシク痛苦ヲ訴フルニ至ルモノトス外検査ヲ施コスニ當リ下腹ニ觸知ス可キモノハ子宮ニアラズシテ膨滿セル膀胱ナリ其大サ時トシテ臍部ニ達スルコトアリ内検査ニヨルニ子宮腔部ハ高ク骨盤ノ前方ニ位シ之ニ達スルコト困難ナルノミナラズ後屈ノ度甚クシキモノハ時トシテハ非常ニ高ク恥骨ノ上ニ位シ爲メニ之レヲ檢知シ難キコトアリ

處置

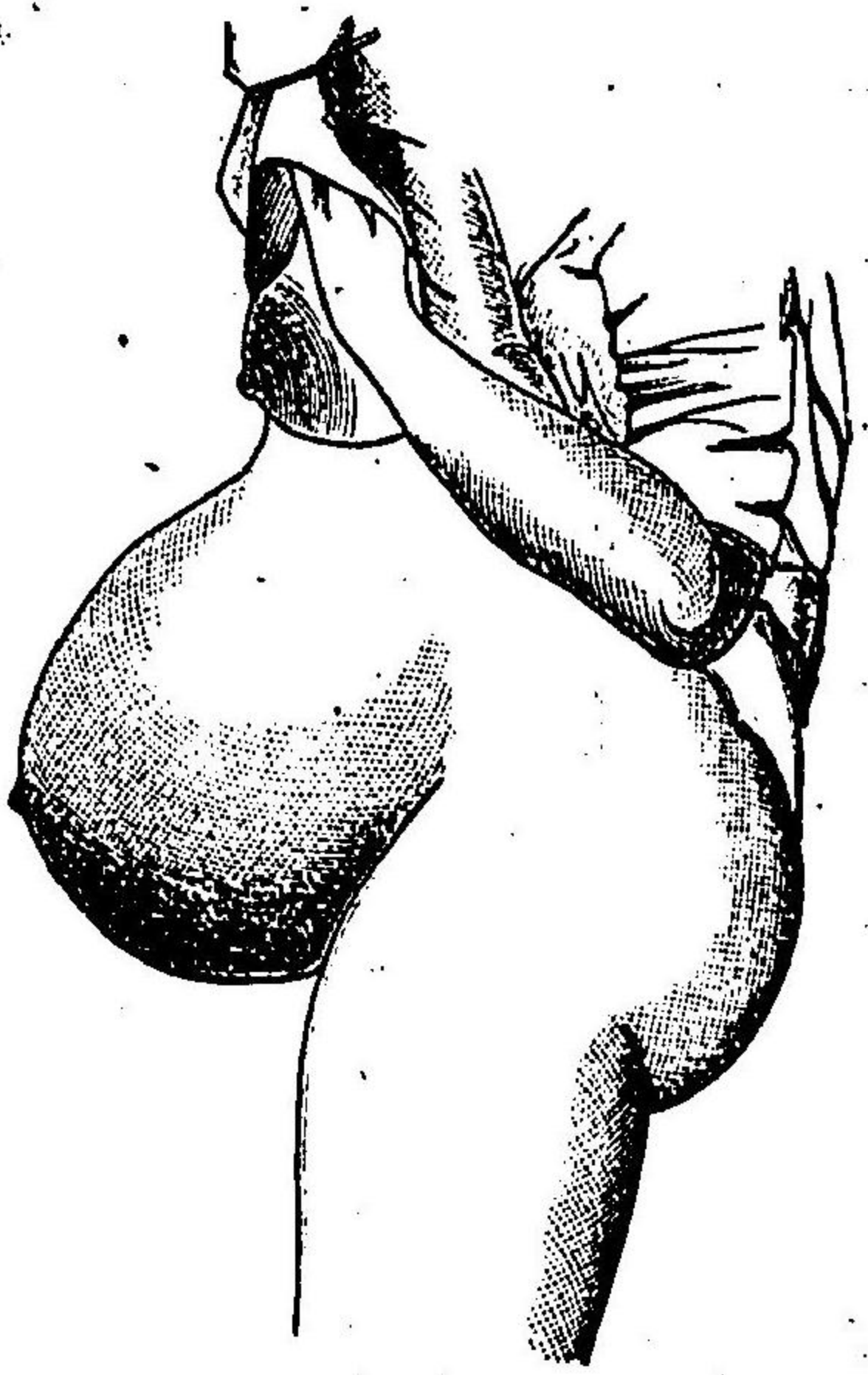
リ此症ハ屢流産ヲ發シ又ハ尿閉ニヨリテ生命ノ危害ヲ生スルコトアリ

**處置** 妊娠セル子宮ノ嵌頓シタルモノヲ認知セバ直チニ産科醫ヲ招ク可シ然レトモ其未ダ來タラサルノ間ハ妊婦尿閉ニ由リテ起ル苦痛アラバ其蓄積セル尿ヲ排泄セシムルコトヲ試ム可シ即チ妊婦ヲ膝位又ハ側位トナシ而シテ示指ト中指トヲ以テ子宮頸ヲ後方ニ壓スレバ多クハ幾分カ尿ヲ漏泄ス可シ若シ之レニヨリテ目的ヲ達セサルハカテアルヲ用ユ然レモ尿道ハ壓迫セラレ其尿道口ハ上方ニ牽引セラルカ故ニ之レヲ送入スルコト甚ク困難ナリ其他灌腸ヲ施コシ便通ヲ取ラシメテ試ム可シ而シテ醫師ノ來診スルニ至ルマテハ患婦ヲシテ少シク其體ヲ屈セシメ腹臥又ハ側臥ニ就カシメ且ツ極メテ安靜ナラシム可シ

第百八章 妊娠子宮ノ前轉(懸垂腹)

腹壁弛緩シテ子宮體前方ニ傾ムキ甚クシキハ子宮底恥骨縫際ノ下方ニ降ルコトアリ之レヲ妊娠子宮ノ前轉症トス此症ハ主ニ經産婦ニシテ骨

圖四十九第 懸垂腹ノ圖



盤狹キモノニ發ス可シ又之レヲ發スルトキハ分娩ノ際産出力ハ骨盤ノ後方ニ向フガ故コ小兒ノ産出スルヲ甚困難ナリトス

處置

妊娠ノ下半

期ニ至レバ殊ニ便良

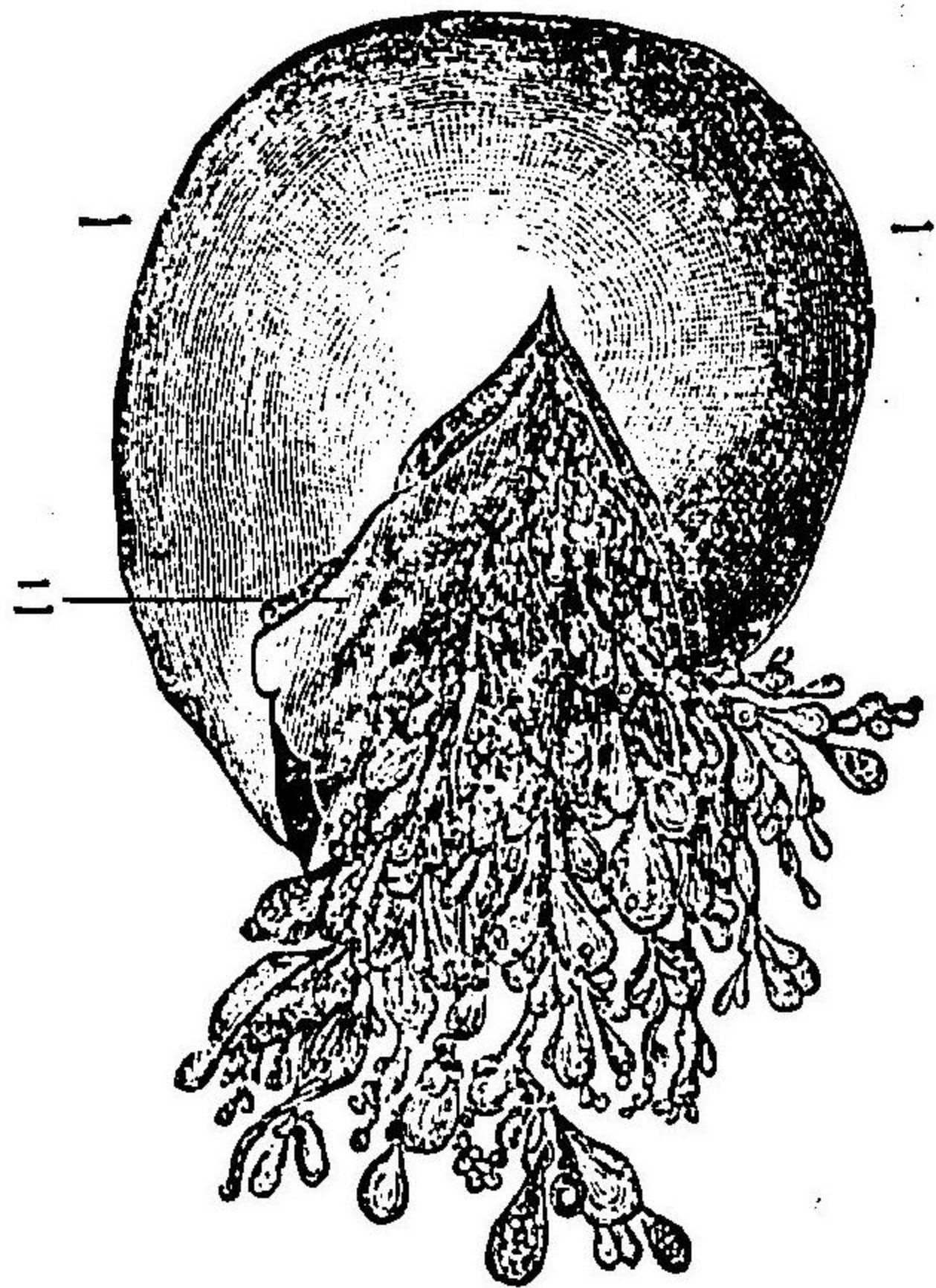
ノ腹帶ヲ施コシ子宮ノ傾斜ヲ支ヘ分娩時ニ至ラバ依然トシテ腹帶ヲ纏ヒ仰臥ノ位置ニ就カシム可シ其他ノ處置ハ通常ノ分娩ト異ナルコトナシ困難ナル者ハ速カニ醫治ヲ求ム可キモノトス

第百九章 葡萄狀胎胎胞胎又ハ胎狀鬼胎

此症ハ脫落膜ノ疾病ニヨリ絨毛肥大シ恰モ蠟子狀ノ水泡チナシ其大サ麻實大乃至蠶豆大ニシテ個々集簇シ恰モ葡萄狀チ呈ス胎兒多クハ速カ

圖五十九第

子宮壁ヲ切割シテ葡萄狀胎ヲ現ハセル圖



一、子宮  
二、卵膜

ニ死亡シ卵膜モ亦消失ニ歸ス此葡萄狀胎ハ増大スルコト甚ダ速カナルヲ以テ子宮モ亦非常ニ迅速ナル増大チナシ時トシテハ四乃至五六週ニシテ心窩ニ達スルコトアリ而シテ第三四月ニ至レバ水様液ヲ漏ラシ且ツ強度ノ出血チ呈ス(第百四及ヒ百五章ヲ參看ス可シ)此ノ如クニシテ妊娠ノ後半期ニ至ルモ胎兒ノ體部ヲ觸知スルコトナケレバ畧ボ葡萄狀胎ナルヲ推知ス可シ然レトモ内診ニヨリ之レヲ觸知スルカ若クハ此胎ノ

處置

一片ヲ得ルニアラザレバ果シテ其本病タルコトヲ確知シ能ハザルモノトス

處置 出血アラハ水瘧法及ビ腔内ノ栓塞ヲ施コシ速カニ醫治ヲ乞フ可シ而シテ葡萄狀胎ノ全部脱出セルガ如キモ時トシテハ尙ホ幾分カ遺殘シ出血ヲ呈スルコトアルガ故ニ善ク止血法ヲ施コスノ準備ヲナス可シ

### 第一百十章 羊膜水腫

此症ハ羊水ノ非常ニ多量ナルモノヲ云フ通例羊水ハ千瓦乃至千五百瓦ナリト雖トモ二千瓦以上ニ至レバ羊膜水腫トナス此症ハ稀レニハ一万瓦以上ノ多キニ達スルコトアリ而シテ腹部ハ著シク膨大シ子宮ハ圓形ヲ呈シ著シキ波動ヲ現ハシ胎兒ノ體部及ビ心音ヲ辨ズルコト難シ此ノ如ク腹部ノ膨大スルガ爲メニ妊婦ハ甚ダシク困難ヲ感シ而シテ分娩ハ數週間早ク發スルコト多シ——分娩ノ際ニハ子宮ノ過度ニ延張セラル、ガ爲メニ開口期延長シ羊水ノ漏泄スルトキハ四肢臍帶ノ脱出ヲ發シ

處置

易ク後産期ニ於テハ子宮ノ無力性出血ヲ致スコト多キモノトス  
處置 適度ニ固ク腹帶ヲ施コシ身體ヲ安靜ナラシムルトキハ妊婦ハ輕快ヲ感ズルモノナリ其他分娩時ニハ醫治ヲ乞ハザル可ラズ

### 第一百十一章 羊水過少(羊膜炎)

前症ニ反シ羊水著シク少量ナルモノアリ此症ニアリテハ羊水ノ少キガ爲メニ胎兒ト羊膜トノ離斷スルヲ妨ゲ胎兒ノ四肢頭部等ヨリ羊膜ニ連繫スル索條即チ羊膜炎ヲ現ハス又胎兒ハ兔唇其他ノ畸形ヲ呈スルヲ常トス

### 第一百十二章 妊娠中胎兒ノ死亡

胎兒死亡ノ原因

胎兒死亡ノ原因 一ハ種々アリ(一)毒物ノ母體ヨリ直チニ胎兒ニ移行スルモノニシテ梅毒又ハ毒藥ニヨルモノ(二)母體熱性病ノ體温高度ナルニヨルモノ(三)胎兒ノ營養不給ナルニヨルモノ即チ母體ノ失血又ハ窒息或ハ胎盤卵膜及ビ子宮内膜ノ疾患等ナリ(四)外傷ニシテ直チニ胎兒ヲ害シ若シハ卵膜ノ剝離ヲ生セシメ爲メニ胎兒ヲ死ニ至ラシムルモノ是

異常ノ妊娠及ビ其取扱法

羊水過少(羊膜炎)

妊娠中胎兒ノ死亡

死亡セル胎兒ノ變狀

レナリ

死亡セル胎兒ノ變狀 妊娠中胎兒死亡スルトキハ數日間稀レニハ一二ヶ月ヲ經テ娩出セラレ而シテ死亡セル胎兒ハ軟化スルヲ常トス即チ其外皮ハ變色滲潤シ水泡ヲ造リ其水泡處々ニ破開シ表皮剝離シ頭骨ハ甚ダシク動搖ス可シ臍帶ハ膨腫シ羊水ハ混濁赤色ヲ帶ブルヲ見ル可シ此等ノ變化ハ甚ダ速カニ發スルモノナルガ故ニ其變狀ヲ見テ死亡ノ期ヲ定ムルコト能ハザルヲ常トス——時トシテ死胎兒軟化セズシテ乾枯縮小シ長ク子宮内ニ止マルコトアリ之レヲ紙狀胎兒ト云フ此ノ如キモノハ雙胎中ノ死セル一兒ニ之レヲ見ルコト多シトス

母體ニ於ケル徵候 胎兒死亡スレバ母體ハ少シク不快ヲ感ズルモ敢テ害ナキモノトス其他詳細ノ徵候ハ正規妊娠篇第四十章ニ就テ見ル可シ

第一百十三章

流産(又ハ墮胎)早産ノ區別并ニ其原因

母體ニ於ケル徵候

流産及ビ早産ノ原因

流産トハ胎兒ノ未ダ子宮外ニ生活シ得ザルノ時期即チ滿七ヶ月以前ニ分娩スルヲ云ヒ早産トハ七ヶ月以後十ヶ月以前ニ娩出セララル、ヲ云フ

流産及ビ早産ノ原因 流産及ビ早産ハ共ニ同一ノ原因ヨリ之レヲ發ス而シテ其原因ニ二種アリ(一)胎兒ノ死亡ニヨルモノ(二)母體並ニ胎兒ノ疾患ニ基クモノ是ナリ其第一種胎兒ノ死亡ハ既ニ前章中ニ說述セリ就テ見ル可シ其第二種母體並ニ胎兒ノ疾患ハ更ニ之レヲ四種ニ小分ス可シ(一)母體ノ重症疾患即チ熱性病大失血等ナリ就中熱性病ハ小兒ノ死ヲ致スコトアレトモ亦死ニ至ラズシテ早期ニ産出スルヲアリ(二)子宮後屈卵巢囊腫等ニシテ子宮ノ増大ヲ障害スルモノ(三)精神感動外傷墮胎藥強劇ノ下劑過劇ノ交接冷水浴脚浴等ノ如キ障害(四)卵膜ノ異常即チ子宮内膜炎羊膜水腫雙胎等之レナリ

第一百十四章

流産ノ症狀及ビ處置

流産ハ第四ヶ月以前即チ胎盤完成前ト完成後トニヨリ症狀ニ大ナル差異アリ故ニ胎盤完成ノ前後ニヨリテ之レヲ二期ニ分ツヲ良トス即チ胎

流産第一期ノ  
症狀

盤完成前ニハ分娩時ニ著シク出血シ完成後ニ於テハ正規分娩ニ於ケル  
ガ如ク後産々出ノ際ニアラザレハ出血セザルモノトス

**流産第一期ノ症狀** 妊娠ノ初メ數週ニシテ流産スルモノ頗ル多  
シ然レトモ其狀甚ダ月經ニ似タルヲ以テ妊婦ハ之レヲ疼痛アル多量ノ  
月經トナスモノ少カラズ第二三ヶ月ノ間ニ於テハ流産ノ症狀頗ル著シ  
ク産婦ハ陣痛ヲ發シ脱落膜ハ子宮内面ヨリ剝離シ甚ダシキ出血ヲ呈ス  
此出血ハ第一期ノ流産ニ最モ固有ナルモノナリ而シテ初メ三ヶ月内ニ  
於テハ卵多クハ破ル、コトナクシテ産出シ其以後ニ在リテハ破レザル  
コト稀ナリ卵若シ破裂スルトキハ先ツ容易ク胎兒ヲ産出セシメ後産ハ  
最後ニ排出セラル而シテ此ノ如ク卵ノ破ル、トキハ後産ノ殘片多クハ  
子宮内ニ遺殘シ之レヲ抽出スルニアラザレハ産出セザルコト多ク且ツ  
若シ後産ノ殘片子宮内ニ存スルトキハ危險ノ後出血ヲ現ハシ或ハ子宮  
内ニ腐敗ヲ醸シ産褥熱ノ如キ熱症ヲ來スコトアリ

**流産ノ出血** ハ一様ナラズ或ハ初メ僅少ニシテ徐々ニ増加シ一二

流産ハ停止ス  
ルコトアリ

週ノ久シキニ亘ルモノアリ或ハ初メヨリ強度ニシテ大ニ凝血ヲ混ジ且  
ツ劇シキ腰痛若クハ陣痛ヲ伴フコトアリ而シテ其出血ノ多量ナルモノ  
ハ間々母體ヲ危フスルニ至ル

**流産ハ停止スルコトアリ** 即チ強度ノ出血疼痛ヲ發シ確カニ流  
産ノ初徴ヲ現ハセルモノト雖トモ暫クニシテ止ミ爾後其妊娠ヲ全フス  
ルコトナキニアラズ殊ニ適當ノ治方ヲ施セルモノチ然リトス

流産第一期ノ處置

**妊婦若シ少量又ハ中等量ノ出血ヲ發セバ** 安靜ニ平臥セ  
シメ飲食便通時ニモ起坐セシムルコトナク且ツ食物等ハ必ズ寒冷ナ  
ルモノチ與ヘ小兒又ハ訪問者ハ可及的之レヲ避ケシメ且ツ總テノ感動  
ヲ遠クルヲ要ス而シテ出血少量ナルカ又ハ忽チ止ム時ハ敢テ醫治ヲ求  
メサルモ亦可ナリ唯爾後八日間ハ臥床ニ就カシメ善ク之レヲ安靜ナラ  
シム可シ

若シ之レニ反シ出血強度ナルカ若クハ長ク持續スルハ

若シ之レニ反  
シ出血強度ナ

流産第一期ノ  
處置  
妊婦若シ少量  
又ハ中等量ノ  
出血ヲ發セバ

ハカ若クハ長  
持續スルハ

若シ出血劇シ  
ク妊婦ハ甚ダ  
シキ貧血ニ陥  
ルノ恐アルハ

ハ十分ニ消毒法ヲ施コシ精密ニ検査ヲ行ヒ且ツ速カニ醫師ヲ聘ス可  
シ而シテ内検査ノ際ニハ子宮大ニシテ柔軟ナルカ子宮口弛緩セルカ其  
口内ニハ指ヲ挿入シ得ルカヲ檢シ若シ指ヲ挿入シ得ルハ卵ノ部分ヲ  
觸知シ得ルヤ否ヤヲ確メザル可ラズ且ツ此間衣服敷布等ヲ檢シ出血ノ  
多少血液ノ凝固若クハ流動セルヤ及ビ血液中ニ卵ヲ發見シ得ザルヤヲ  
檢ス可シ此ノ如クニシテ出血甚ダシカラザルハ醫師ノ來診ヲ待ツ可  
シ

若シ出血劇シク妊婦ハ甚ダシキ貧血ニ陥ルノ恐アルハ  
ハ下腹ニ冷罨法ヲ施コシ攝氏十五度乃至二十度ノ二%石炭酸水ヲ以  
テ腔内ニ灌注シ尙ホ止血セザルモノハ數箇ノ綿花ヲ取リ  
石炭酸水ニ浸シテ絞搾シ腔内ニ送入シ緊シク之レヲ子宮口ニ壓抵ス可  
シ卵未ダ排出セザルノ間ハ出血ノ爲メニ熱灌注法ヲ行フ可ラズ——此  
タンボンハ醫師ノ到レル際除去ス可キモ若シ送入後十二時間ヲ經  
レバ産婆自ラ之レヲ除去シ石炭酸水ノ灌注ヲ行ヒ尙ホ出血アラハ再ビ

産出セル卵

卵既ニ排出ス  
ルノ後尙ホ出  
血スルハ

流産第二期ノ  
症状及ビ處置

之レヲ送入スルヲ要ス之レニ反シタンボンヲ除去セルノ際既ニ止  
血セルモノニ在リテハ再ビ送入スルヲ要セズ

産出セル卵

タンボンノ上ニ存スルヲアリ此ノ如キモノハ之レヲ採リ收メテ水中  
ニ貯ヘ醫師ノ検査ニ供ス可シ又卵ハ凝血中ニ包圍セラレ直チニ認識シ  
難キヲアルガ故ニ注意センヲ要ス或ハ卵既ニ變化シ消失ニ歸シ或ハ  
血塊肉塊等ヲナシ産出スルヲモ亦之レアリ

卵既ニ排出スルノ後尙ホ出血スルハ

後産殘片ノ遺存セル  
ニヨルガ故ニ醫師ノ來ラザルハ腔内灌注法ヲ施コシ前ニ記セルガ如  
クタンボンヲ送入スヘシ貧血シテ虚脱ヲ發セントスルモノハ葡  
萄酒又ハ Hoffman 液 (每一回一〇)ヲ與エ四肢ヲ温暖ナラシム可シ卵  
全ク排出セラルハ出血セサルヲ常トス流産後ハ八日間平臥セシメ  
通常ノ産褥ニ於ケルガ如ク處置ス可シ

流産第二期ノ症状及ビ處置

異常ノ妊娠及ビ其取扱法 流産ノ症状及ビ處置



此處置ハ早産ニ異ナルヲナキガ故ニ次章ニ於テ之レヲ併セ説クヘシ

第一百十五章 第二期ノ流産并ニ早産ノ症狀及處置

早産ノ症狀及處置

第二期ノ流産并ニ早産ノ症狀

第二期ノ流産并ニ早産ノ症狀 即チ第五ケ月乃至第十ケ月ノ分娩ニアリテハ漸次ニ正規ノ分娩ニ類シ小兒ノ産出前ニ出血スルヲナキチ常トス而シテ小兒ハ既ニ分娩中ニ死亡シ若クハ生活シテ娩出セラレ但シ分娩後生活ヲ保續スルニハ概シテ三十週以後ニシテ體重ハ一千五百瓦ニ達セザル可ラズ而シテ分娩ニ際シ第五六ケ月ノモノハ其胎兒卵膜ヲ被ムリテ胎盤ト共ニ産出スルモノ屢々之レアリ若シ又胎盤子宮内ニ殘レルモノニ在リテハ剝離シ難キヲナキニアラズ

處置

ハ概シテ正規ノ分娩ニ從フ可シ卵膜ノ遺殘セルモノハ醫治ヲ求ムルヲ要ス

第一百十六章 子宮外妊娠

子宮外妊娠トハ

胎兒ノ喇叭管卵巢若クハ腹腔内ニ占居シテ發育

子宮外妊娠ノ經過

スルヲ云フ此ノ如ク卵ノ子宮外ニ發育スルコトアルハ精蟲ノ喇叭管ヲ通リ卵巢ニ至ルマテ進入シ得ルニヨルモノナリ而シテ若シ受胎セル卵子宮内ニ到ルコトヲ妨害セラル、キハ此ノ異常ノ妊娠ヲ現ハス可シ

子宮外妊娠ノ經過

此妊娠ニ於テハ胎兒ノ占居セル部分ニハ脱落膜及ヒ胎盤ヲ生シ子宮ハ増大シ同シク脱落膜ヲ生ス可シ此妊娠中喇叭管妊娠ヲ最モ多シトス而シテ喇叭管妊娠ハ多クハ二三ケ月コシテ其破裂シ腹腔内ニ其ダシキ出血ヲ起シ母體ヲシテ死ニ至ラシムルモノナリ或ハ其破裂ヲ發スルニ先チ胎兒死亡シ治療スルモノモ亦之レアリ腹腔内又ハ喇叭管ノ廣部ニ胎兒ノ發育スルモノニ在リテハ屢妊娠ノ終リヲ完フスルコトアリ此場合ニ於テ其胎兒ハ娩出セラレ、コトナキモ子宮ノ收縮ヲ起シ子宮内脱落膜ヲ産出シ而シテ胎兒ハ其居處ニ止マツテ死ニ至ル可シ

子宮外妊娠ノ徵候

子宮外妊娠ハ正規ノ妊娠ニ於ケルガ如ク月經閉止シ消化器神經系乳房

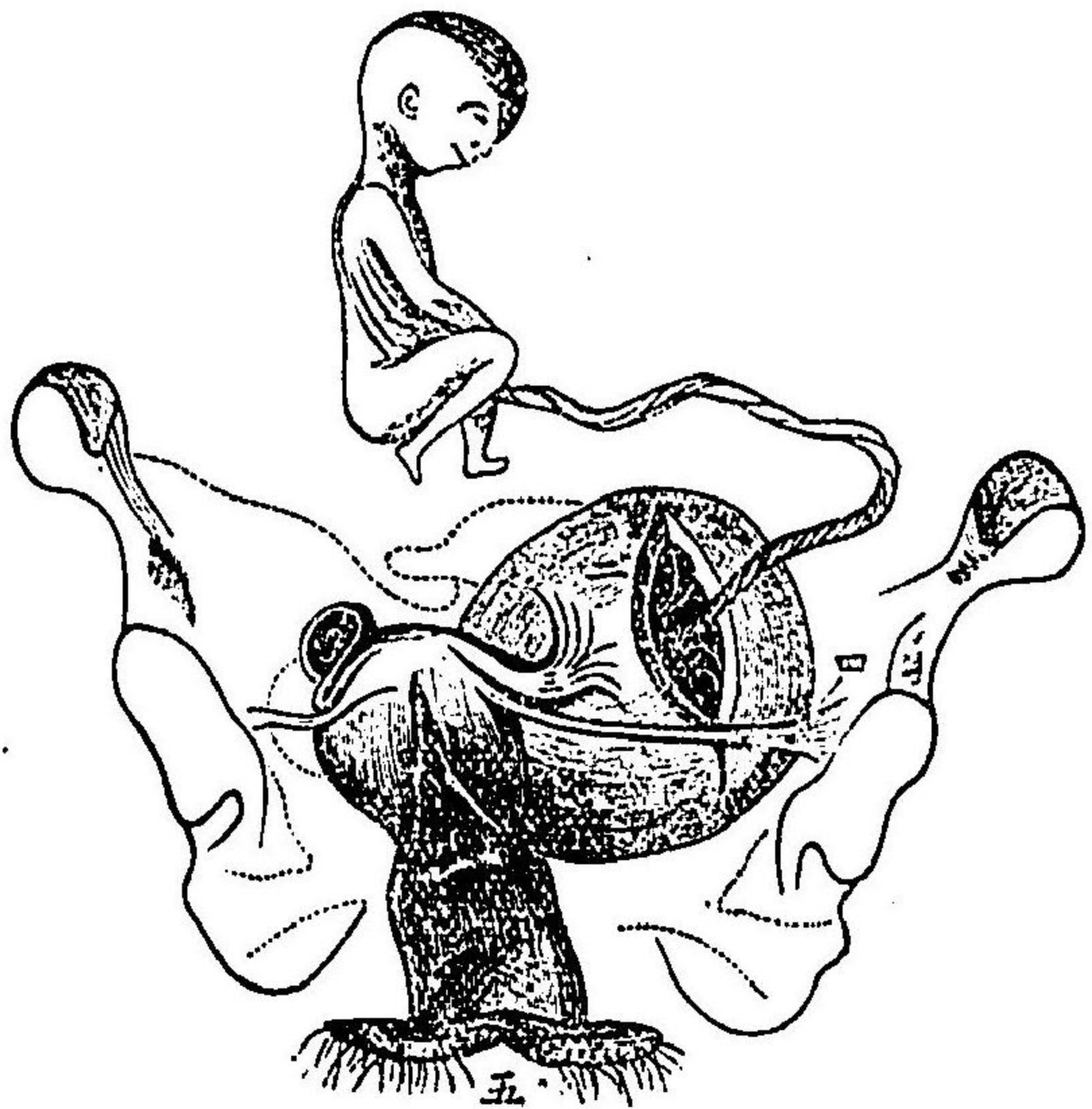
子宮外妊娠ノ徵候

ニ固有ノ妊娠徴候ヲ呈シ子宮ハ漸次ニ増大シ柔軟トナリ殆ント通常ノ

第九十六圖

喇叭管妊娠ノ圖

卵囊ヲ切開シ妊娠第四ヶ月ノ胎兒ヲ抽出シテ之レヲ示ス



- 一、子宮
- 二、喇叭管妊娠ノ囊
- 三、喇叭管ノ内端
- 四、割離シテ左右ニ開張シテ示セル四靱帶
- 五、外陰部

妊娠ト區別ス可ラズ然レモ下腹ニ不快ヲ覺エ時々劇烈ノ腹痛發作ヲ現

ハシ時トシテハ熱候ヲ兼テ或ハ不規則ノ子宮出血ヲ來シ子宮内ニ存セ  
 ル脱落膜ハ第四ヶ月ヲ出デズシテ排出セラル、ト多ク之レアリ  
 喇叭管妊娠ナルキハ其卵囊小ニシテ延張シ難キガ爲ノ通例三四ヶ月ニ  
 シテ破裂スト雖モ若シ卵巢又ハ腹腔内ノ妊娠ナルキハ妊娠ノ末期ニ達  
 スルト多シ此ノ如キモノニアリテハ胎兒ノ體部ヲ觸ル、ト明カニシテ  
 心音ハ容易ク聽取セラル而シテ妊娠末期ニ至ルモ固ヨリ産出ノ路ナク  
 且ツ兒ハ死ニ歸スルヲ常トス

卵囊破裂スル

卵囊破裂スルキハ卒然トシテ劇痛ヲ發シ胎兒ハ腹腔内ニ出テ  
 甚タシキ内出血ヲ呈スルカ故ニ母體ハ急性貧血ヲ發シ數時ニシテ死ニ  
 至ル或ハ其卵囊扁韌帶内ニ破裂スルキハ出血ヲ呈スルモ組織内ニ滲溜  
 スルガ故ニ其量甚ダシキニ至ラズシテ死ヲ免ル可シ此組織内ノ溜血ハ  
 腫瘍狀ヲナシテ現ハル、モノナリ——急性貧血トハ患婦非常ニ脱力シ  
 顔貌甚ダシク蒼白トナリ脈細小頻數ニシテ全身厥冷汗ヲ流シ甚ダシ  
 キハ速カニ死ニ歸スルニ至ルモノトス尙ホ第六編異常分娩第四百十八

妊娠末期ニ達  
セズシテ胎兒  
死ニ陥ルハ

章ヲ參看ス可シ

妊娠末期ニ達シ卵若シ破裂セズシテ胎兒死ニ陥ルトキハ乾固化石シ化石胎兒トナリ毫モ障害ヲ現ハスコナク永ク體內ニ存スルコアリ或ハ胎兒死亡ノ後化膿ニ陥リ母體モ亦爲メニ死ヲ致シ或ハ幸ニ膀胱腸管腔若クハ外部ニ向ツテ破開シ膿汁及ヒ骨片其他胎兒ノ遺殘物ヲ排泄シテ治癒ニ赴クコアリ

處置

子宮外妊娠ハ稀ニシテ診斷モ亦甚マ容易ナラズ而シテ甚ダシク危険ナルモノナルガ故ニ此妊娠ノ疑アル妊婦ハ速カニ醫師ニ托セザル可ラズ而シテ速カニ卵囊ノ破裂ヲ發シ醫師ノ未ダ到ラザルキハ安靜ニ臥セシメ下腹ニ十分ノ氷捲法ヲ施コシ四肢ヲ温暖ナラシメ葡萄酒ブランデー濃茄非等ヲ與ヘホフマン液ヲ服用セシム可シ卵囊ノ破裂ヲ生ゼザルニ當リ醫師ノ許ニ送ルキハ其狀況ニヨリ醫師ハ腹壁ヲ切開シ或ハ藥液ヲ胎兒ノ體中ニ注入シ之レヲ治療ス可シ

### 第六篇 異常分娩及ヒ其取扱法

#### 第一百十七章 誘導篇

分娩ノ異常  
陣痛微弱トハ  
陣痛微弱ノ原  
因

分娩ノ異常 ハ産出力産道及ヒ胎位ノ正規ナラザルニヨリ(第三編第四十四章參照)若クハ臍帶胎盤ノ異常胎兒ノ畸形及ヒ分娩時ニ發スル損傷疾病ニヨリテ之レヲ致スモノトス次ノ各章ニ於テ順次ニ之レヲ説明ス可シ

#### 第一百十八章 陣痛微弱

陣痛微弱トハ

陣痛微弱トハ 子宮ノ收縮スルコト弱ク且ツ短カク其休歇時延長シ分娩甚マ遅延スルガ若クハ全ク停止スルモノヲ云フ

陣痛微弱ノ原

陣痛微弱ノ原因 陣痛微弱ノ原因ハ二種ニ大別スルヲ得ベシ即チ初ヨリ微弱ナルモノ及ビ他ノ事情ニヨリ中ゴロ之レヲ發セルモノ是レナリ而シテ其中更ニ小別アルコト次ノ如シ

初メヨリ微弱  
ナルモノ

第一種 初メヨリ微弱ナルモノ

他ノ事項ニヨリ中ゴロ之レヲ發スルモノ

第一種他ノ事項ニヨリ中ゴロ之レヲ發スルモノ

- 1. 身體ノ薄弱ナルモノ即チ生來虛弱多病ナルモノ重病後ノモノ營養不給ナルモノ甚タ若年ナルモノ
- 2. 子宮ノ變常ニヨルモノ即チ子宮壁ノ腫瘍并ニ羊膜水腫雙胎過大ナル胎兒等ニヨリテ子宮壁ノ過度ニ延張セラレタルモノ
- 3. 甚タシキ悲哀苦惱等ノ精神感動ニヨルモノ

1. 困難ナル分娩ノ疲勞ニヨリテ發ス即チ過大ナル兒頭狹窄骨盤三十年以上ノ初産婦等ニ在リテ子宮口又ハ腔ノ強硬ニシテ開大シ難キモノ

2. 膀胱直腸ノ充盈又ハ胃ノ膨滿セルモノ

是レナリ以上ノ他其原因ノ明カナラザルモノモ亦之レアリ

症狀

開口期ニ於テ陣痛微弱ヲ發スルトキハ子宮口ノ開大スルコト遅ク産出期ニ之レヲ現ハストキハ先進部ノ進行スルコト緩慢ナルカ若クハ全ク停止シ後産期ナルトキハ出血甚ダシク且ツ後産ノ産出スルコト

處置

ト遲シトス——開口期ニ於ケル陣痛微弱ハ産出遲滯スルノミニシテ敢テ害アルコトナキモ産出期ニ至リ胎胞破裂シ兒頭小骨盤内ニ降ルノ際ニ於テハ産道内ニハ壓迫ニヨリテ挫傷ヲ生シ且ツ羊水漏泄シ空氣子宮内ニ竄入スルコトアルガ爲メニ發熱脈搏頻數下腹ノ知覺過敏等ノ症狀ヲ呈シ小兒ハ遂ニ死ヲ致スニ至ル後産期ニ於ケル陣痛微弱ハ最モ危險ニシテ剝離セル胎盤部血管ヨリ劇甚ノ出血ヲ發シ須臾ニシテ母體ヲ死ニ致サシムルコトアリ

處置 身體虛弱ナルモノハ陣痛微弱ヲ發スルノ恐アルガ故ニ既ニ分娩前ニ於テ務メテ柔軟ノ肉類牛乳肉羔汁等ノ滋養物ヲ與ヘ運動セシメ

以テ陣痛微弱ヲ豫防スベシ

開口期ニ在リテ陣痛微弱ヲ發スルトキハ暖カキ牛乳肉羔汁等ヲ服セシメ務メテ膀胱直腸ヲ空虚ナラシメ每一時若クハ二時ニシテ攝氏三十七度乃至三十八度ノ温湯一二千瓦ヲ腔内ニ灌注シ若クハ半乃至一時間三十六度ノ温浴ニ入ラシム可シ其他室内ヲ暖カナラシメ少シク運動ヲ試

マシムルヲ長トス  
産出期ノ陣痛微弱ナルトキハ屢々臥位ヲ交換セシメ葡萄酒咖啡等ヲ與  
ヘ子宮摩擦法ヲ施コシ疲勞著シカラザルモノニハ努責ヲ命ス可シ此ノ  
如クスルモ二時間ヲ經テ陣痛増進セズ分娩ヲ遂グル能ハザルモノハ醫  
治ヲ求ム可シ

### 第一百十九章 陣痛過劇

陣痛過劇トハ

子宮ノ收縮スルコト強ク且ツ長キモノヲ云フ

原因

著シキ原因ナクシテ之レヲ發シ或ハ精神ノ感動ヨリテ之レ  
ヲ致スコトアリ

症狀

陣痛過劇ニシテ產道ノ未ダ開大セザルニ當リ胎兒ヲ產出スル  
トキハ子宮口腔陰等ノ深裂傷ヲ生シ若シ又狹窄骨盤ナルカ或ハ過大  
ノ兒頭ニシテ骨盤内ニ進入シ能ハザルモノニ在リテハ子宮破裂ヲ發ス  
ルコトアリ小兒ハ陣痛ノ過劇ナルガ爲メニ死ヲ致スコトナキニアラズ  
其他母體ノ未ダ產床ニ就カザルニ當リ容易ニ分娩ヲ營ムトキハ小兒ヲ

處置

地上ニ墮シ臍帶斷裂子宮内翻等ヲ發ス又後産期ニ至リ時トシテハ子宮  
疲勞シ陣痛微弱ニ陥リ出血ヲ致スコトアリ

處置

陣痛過劇ニシテ急速ニ娩出セントスルモノハ腹壓ヲ禁テ側臥  
ニ就カシメ強力ヲ以テ會陰ヲ防護シ且ツ兒頭ノ前進ヲ壓止ス可シ後産  
期ニ於テ陣痛微弱ニ陥ルノ恐アラバ按摩法ヲ行ハントトキ要ス

### 第二百十章 痙攣性陣痛

痙攣性陣痛トハ

子宮筋ノ收縮甚ダシキモノニシテ其收縮期ハ  
大ニ長ク休憩時ハ僅カコ一少時間之レアルコト過キザルモノヲ云フ若シ  
其休憩時全ク缺クルトキハ之レヲ子宮強直ト稱シ產出ノ作用全ク停止  
スルモノトス

原因

痙攣性陣痛ハ子宮收縮スト雖トモ胎兒前進スルコトナクシテ  
抵抗著シキノ際ニ之レヲ發ス即チ横位、腦水腫、癒着セル雙胎、狹窄骨盤、產  
道内ノ腫瘍、子宮口ノ強硬、卵膜ノ強韌ナルモノ等之レニ屬ス其他子宮ノ  
收縮ヲ亢進セシムルモノモ亦此症ヲ致ス醫藥ノ誤用不適當ナル子宮按

處置

療法若クハ指ヲ用ヰテ子宮口ノ開大ヲ試ムルモノ等レナリ  
處置 ハ原因ニ從テ之レヲ施コスヲ要ス例之ハ卵膜ノ強硬ナルカ爲  
メニ此症ヲ生ズレハ卵膜穿刺法ヲ施コスガ如キ是レナリ其他ハ速カニ  
醫治ヲ求ムルヲ要ス

### 第百廿一章 子宮ノ位置異常

子宮位置異常ノ中ヲ分娩ニ際シ障害ヲナスモノニ三種アリ前轉左轉及  
ビ右轉是レナリ就中前轉即チ懸垂腹ハ前編中第百八章ニ記載セルヲ以  
テ茲ニ之レヲ省ク可シ

子宮左轉及  
右轉

子宮左轉及ビ右轉 子宮左方若クハ右方ニ傾ムトキハ分娩ノ際  
陣痛力ハ右若クハ左腸骨窩ニ向ヒ產道ノ方向ト一致セザルガ故ニ小兒  
ハ產出スルコト能ハズ或ハ爲メニ横位ニ變スルコトアリ

處置

處置 子宮若シ一方ニ傾キ分娩ノ障害ヲナストキハ是レヲ矯正セ  
ガ爲メ其傾ケル側ニ反對セル側方即チ先進部ノ位セル側方ニ臥サシム  
ルヲ法トス此ノ如クスルトキハ子宮底ハ下方ニ降り子宮口ハ腸骨窩ヲ

處置

去リテ骨盤ノ中線即チ產道ノ方向ニ對シ以テ分娩ヲ營ムコトヲ得セシ  
ム例之ハ子宮左方ニ傾クトキハ右側ニ臥セシメ右方ニ傾クトキハ左側  
ニ臥サシム可シ

### 第百廿二章 子宮ノ形狀異常

子宮壁ノ長サ不同ナルガ爲メ子宮ノ形狀不正トナリ子宮口ハ一方ニ偏  
シ高ク位シ指ノ按ニ達シ難キコトアリ此ノ如キモノニ在リテハ陣痛力  
ハ子宮口ニ向ハズシテ下方ノ壁ヲ壓スルガ故ニ小兒ハ產出スルコト能  
ハズ

處置 此場合ニ於テハ產婦ヲ子宮口ノ存セル反對ノ側方ニ臥サシム  
可シ

### 第百廿三章 卵巢腫瘍

卵巢腫瘍ノ中最モ多キハ卵巢囊腫ナリ卵巢囊腫トハ卵巢ニ囊ヲ生シ内  
ニ液質ヲ蓄ヒ漸次ニ發育スルモノヲ云フ此種ノ腫物ニシテ液質ノ外骨  
毛髮齒牙ヲ有スルモノアリ是レヲ皮膚様囊腫ト稱ス此他卵巢ニハ肉腫

纖維腫等ヲ生スルコトアリ——卵巣腫瘍アルノ際妊娠スルトキハ腫瘍著シク増育シ而シテ子宮ノ増大ヲ妨グルニ至レバ往々墮胎スルコトアリ又囊腫ニ在リテハ破裂ヲ生シ母體ノ生命ヲ失ハシムルコトナキニアラズ或ハ妊娠中ニ此腫瘍アルヲ知ラズ分娩後ニ至リ始メテ之レヲ發見スルコトアリ

處置

處置 固ヨリ醫治ニ委ヌルヲ要ス而シテ醫師ハ妊娠中ト雖トモ腹切開術ニヨリテ卵巣腫瘍ヲ切除スルコトヲ得ベシ又々分娩時ニ至リ帝王切開術ヲ施コシ傍ラ卵巣腫瘍ヲ除去スルコトアリ

第二百廿四章 子宮口狭窄及び閉塞

子宮口狭窄

(一)子宮口狭窄 ハ腔部ノ手術及び前分娩時ノ損傷ニ基因セル痕癢組織頑固ノ頸管加答兒又ハ癌腫ニヨレル硬結若クハ三十歳以上ノ初産婦ニ之レヲ見ル此症アルトキハ子宮口ノ延張シ難キガ故ニ分娩時間ヲ費ヤシ瘰癧性陣痛ヲ發シ若シ或ハ陣痛作用強劇ナルトキハ爲メニ子宮口ノ破裂ヲ致ス可シ

處置

子宮口ノ閉塞

處置 此狭窄アルトキハ陣痛微弱ニ於ケルガ如ク温湯ヲ腔内ニ灌注シ又ハ坐浴若クハ全身浴ヲ取ラシム可シ而シテ尙ホ子宮口ノ弛緩セザルモノハ醫治ヲ求ムルヲ要ス  
(二)子宮口ノ閉塞 アルトキハ兒頭ノ壓迫ニヨリ腔部甚ダシク延脹膨出シ菲薄トナリ時トシテハ胎胞ト誤認セララル、トアリ此症ハ速カニ醫治ニ托スルヲ要ス

腔狭窄

第二百廿五章 腔及び外陰部ノ狭窄

(一)腔狭窄 生來腔ノ狹隘ナルモノ及ヒ疾病若クハ難産ノ後ニ痕癢ヲ生スルモノ等ニ發シ其甚ダシキモノハ僅カニ細少ナル一孔ヲ遺スモノアリ  
腔ノ甚ダシカラザルモノハ分娩ノ間自ラ延張シ得ルコトアリト雖トモ稍甚ダシキモノハ分娩ヲ遂ゲ得ルモ裂傷ヲ生ス可キガ故ニ醫治ニ托スルヲ要ス廣大ナル痕癢アリテ開張シ難キモノハ帝王切開術ヲ施コサハル可ラザルモノアリ

外陰部ノ狭窄

(二)外陰部ノ狭窄 陰裂ノ狭小ナルモノ、處女膜ノ現存、陰唇ノ惹若  
高年ノ初産婦、大ナル血管瘤若シハ陰唇ノ浮腫等ニヨリテ之レヲ致ス  
以上ノ狭窄症ニヨリ分娩遅延スルキハ速カニ醫治ヲ求ム可シ但シ陰裂  
ノ少シク狭小ナルガ如キハ先ツ温漉注法及ビ温罨法ヲ試ムルヲ佳トス

第百廿六章 陰部ノ血腫

血腫

血腫 ハ陰唇會陰等ニ於テ其皮下血管ノ破ル、ノ際ニ發スルモノ  
ニシテ暗紫色ノ波動アル腫物ヲナシ速カニ増大ス此腫物破裂スルトキ  
ハ生命ヲ危クスベキ出血ヲ起シ破開セザルトキハ産褥中ニ至リ化膿ヲ  
起シ劇シキ熱症ヲ發スルコトアリ

處置

處置 分娩ノ際血腫ヲ生ズルトキハ直チニ冷石炭酸水ヲ布片ニ蘸シ  
テ輕ク壓抵ヲ施コシ其既ニ破レタルモノハ同布片ヲ貼シテ強ク壓迫ヲ  
施コシ以テ速カニ醫治ヲ求ム可シ

第百廿七章 陰唇ノ浮腫及ビ靜脈瘤

陰唇

(一)陰唇ノ浮腫 トハ陰壁翻轉シテ陰唇間ニ脱出シ青紅色ノ腫物ヲナスモ

處置

ハナリ分娩ノ際陰唇アルトキハ兒頭ノ壓迫ヲ受ケ炎症ヲ發シ時トシテ  
ハ壞疽ニ陥ルコトアリ

處置

難ナルモノハ速カニ醫治ニ託セサル可ラズ

陰唇ノ浮腫

(二)陰唇ノ浮腫 陰唇浮腫アルトキハ蒼白色トナリ著シク腫脹ス可  
シ但シ其甚ダシキモノニアラザレバ敢テ分娩ヲ妨ケサルモノナリ且ツ  
産後一二日ニシテ消退スルヲ常トス

陰唇靜脈瘤

(三)陰唇靜脈瘤 青色ノ結節ヲナシテ陰唇ニ生シ破裂スルトキハ危  
險ノ大出血ヲナス

處置

處置 ハ産婦ヲ平臥セシメ石炭酸水ヲ布片ニ蘸シ壓抵シテ之レヲ支  
持シ若シ既ニ破裂セルトキハ石炭酸水ニ浸セル布片ヲ以テ其出血部ヲ  
強ク壓迫シ以テ出血ヲ防キ速カニ醫治ヲ請フ可シ

第百二十八章 直腸膀胱ノ充盈

直腸ノ充盈

(二)直腸ノ充盈 直腸内ニ糞便充盈スルトキハ爲メニ小兒ノ産出ヲ



膀胱ノ充盈

處置

妨ケ時トシテハ陣痛微弱ヲ發スルガ故ニ分娩ノ際ニハ豫シメ開口期中ニ灌腸ヲ施コシ以テ直腸ノ充滿ヲ防グ可キモノトス

(二)膀胱ノ充盈 産出期ニ至リ兒頭小骨盤内ニ入り尿道ヲ壓スルトキハ容易ニ尿閉ヲ發シ以テ膀胱ヲ充盈セシムルモノナリ此場合ニ在リテ膀胱ハ球形ヲナシテ恥骨縫隙上ニ出テ腹上ヨリ之レヲ觸知ス可シ而シテ膀胱充滿スルトキハ緊痛ヲ發シ腹壓ヲ妨グ且ツ陣痛微弱ヲ發ス可シ

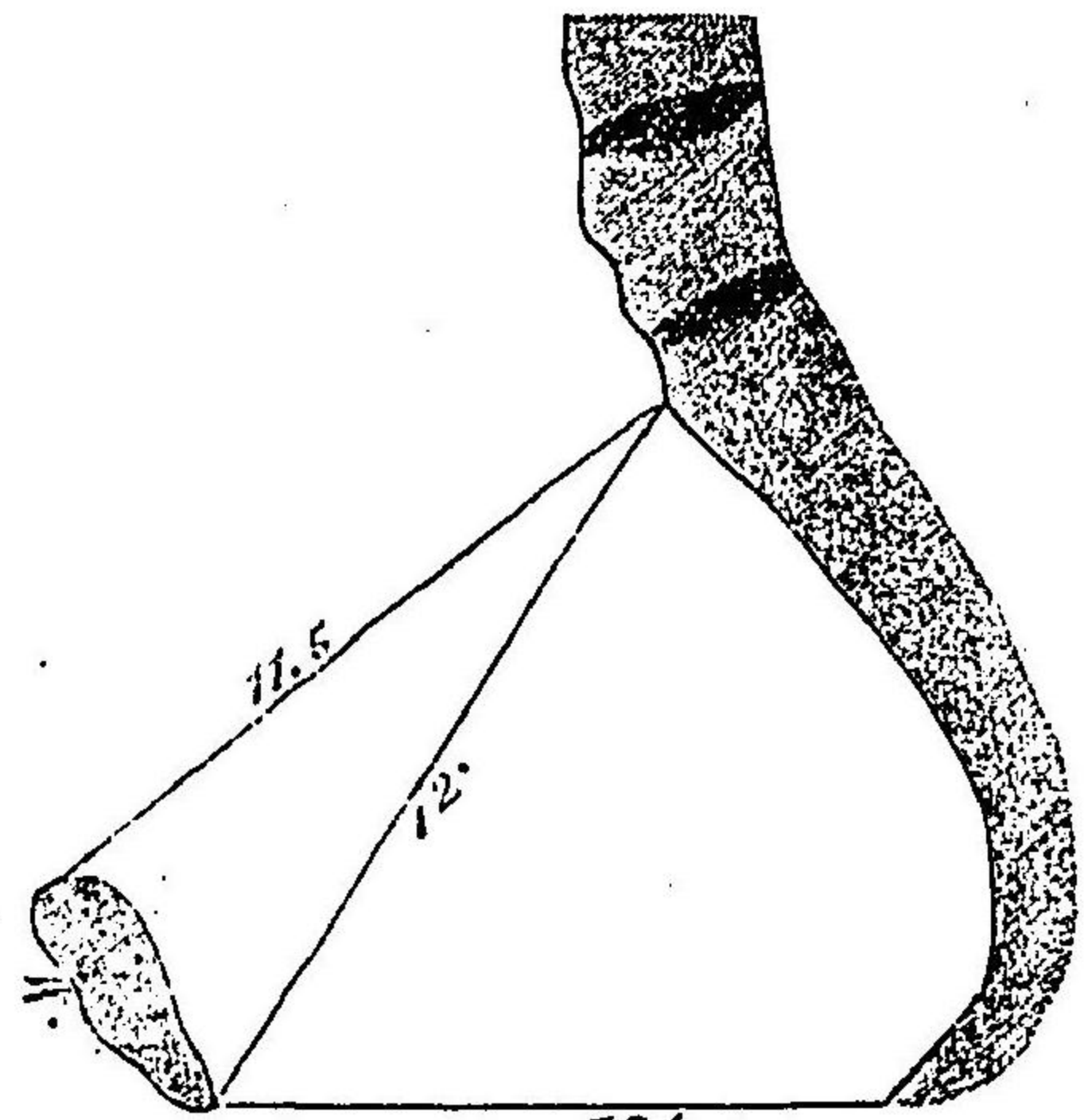
處置 産婦ヲシテ強ク前方ニ屈シ排尿ヲ試マシメ若シ尙ホ排泄スルコト能ハザルトキハ指ヲ腔内ニ送入シ兒頭ヲ後方ニ壓却シ以テ尿道ノ壓迫ヲ免レシム可シ而シテ尙ホ排泄スルコト能ハザルトキハ正規分娩取扱法中第五十九頁ニ示セル法式ニヨリ弾力性カテーテルヲ送入セシコトヲ要ス

### 第二百二十九章 狹窄骨盤

骨盤ノ狹窄セルモノハ其種類甚マ多シト雖トモ之レヲ畧舉スレバ單扁

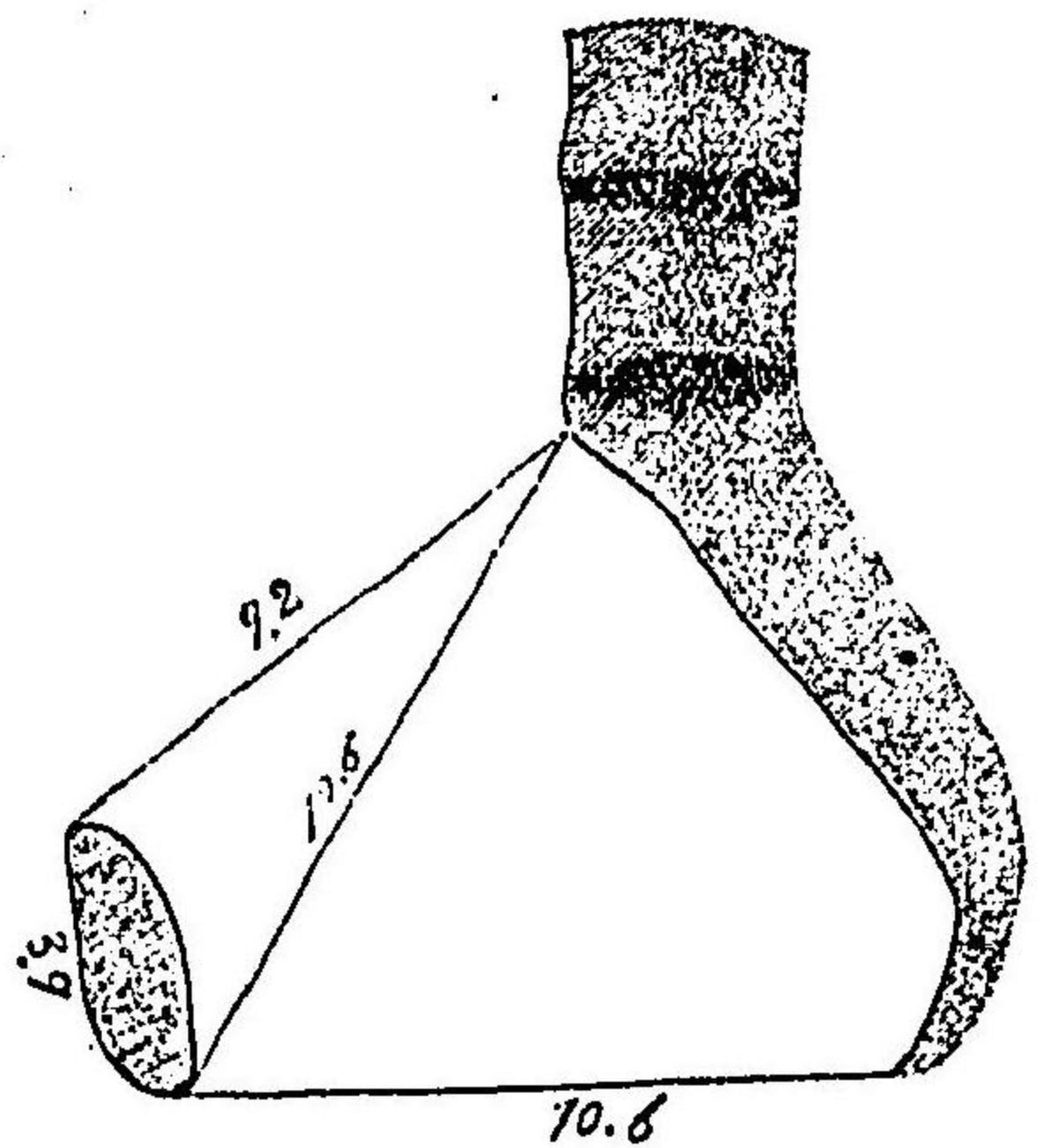
單扁平骨盤

圖七十九第



他ノ骨盤ト比較セシメガ爲メニ示ス数字ハ仙迷テ表ス

圖八十九第



平骨盤尙優病性扁平骨盤骨軟化病性狹窄骨盤斜徑狹窄骨盤橫徑狹窄骨盤骨瘤性狹窄骨盤全狹窄骨盤ノ七トナス

正規骨盤断面ノ圖

單扁平骨盤断面ノ圖

### (一)單扁平骨盤

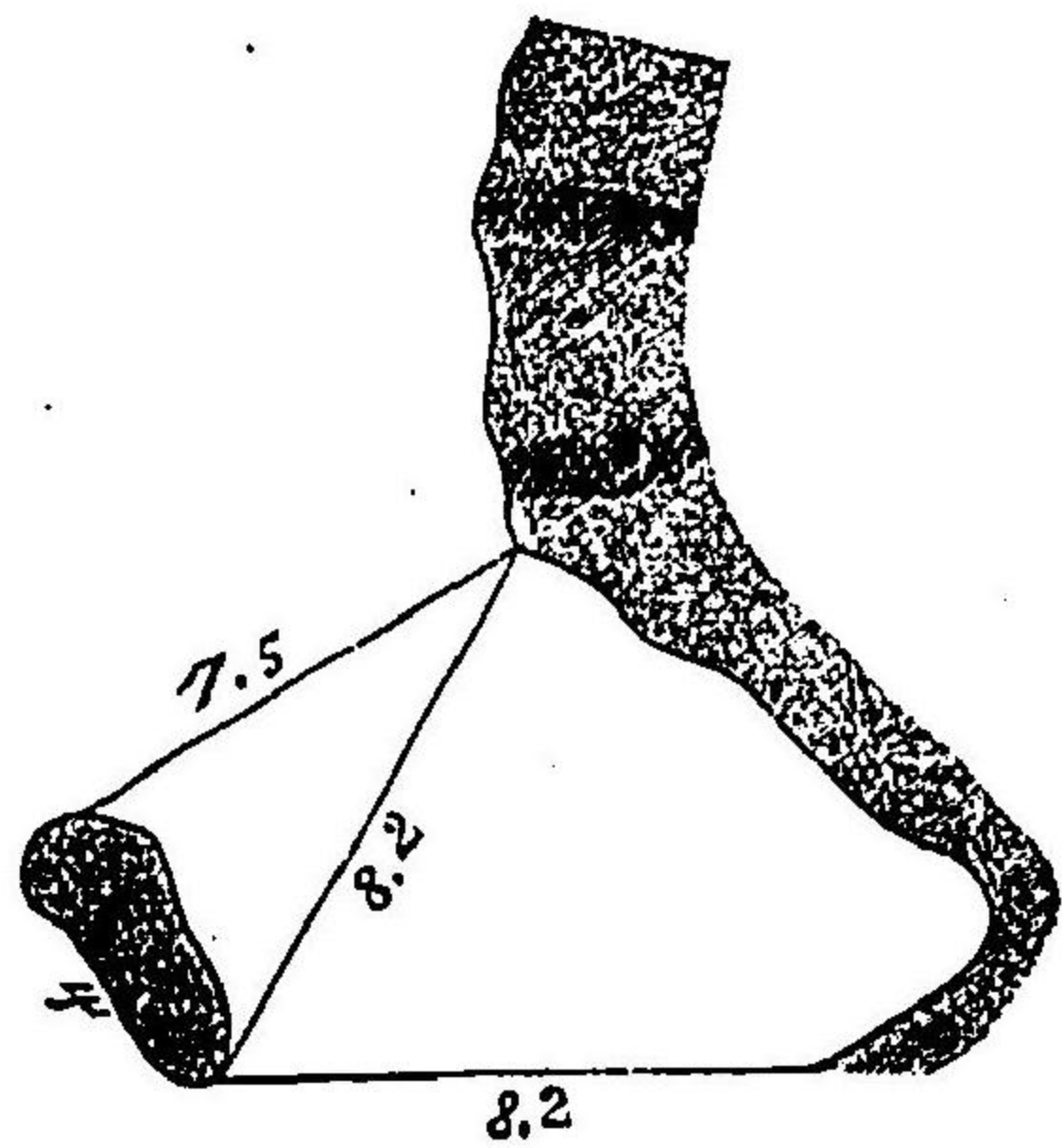
薦骨ノ前方ニ進出スルニヨリ生ズルモノニシテ骨盤ノ直徑線ハ入口出口及び骨盤腔内ニ於テ共ニ一様ニ短小ナルモ

他ノ諸徑線ハ通常ト異ナルコトナキヲ常トス而シテ入口ノ直徑線ハ八仙迷以下ナルハ稀レナリ  
 總テノ狹窄骨盤中單扁平骨盤ハ最モ多シ然レトモ此骨盤ノ婦人ハ體格敢テ尋常ニ異ナラザルヲ常トス然レモ内診スレバ指ハ容易ク薦骨岬ニ達シ得ベキガ故ニ容易ニ之レヲ測定シ得ベシ

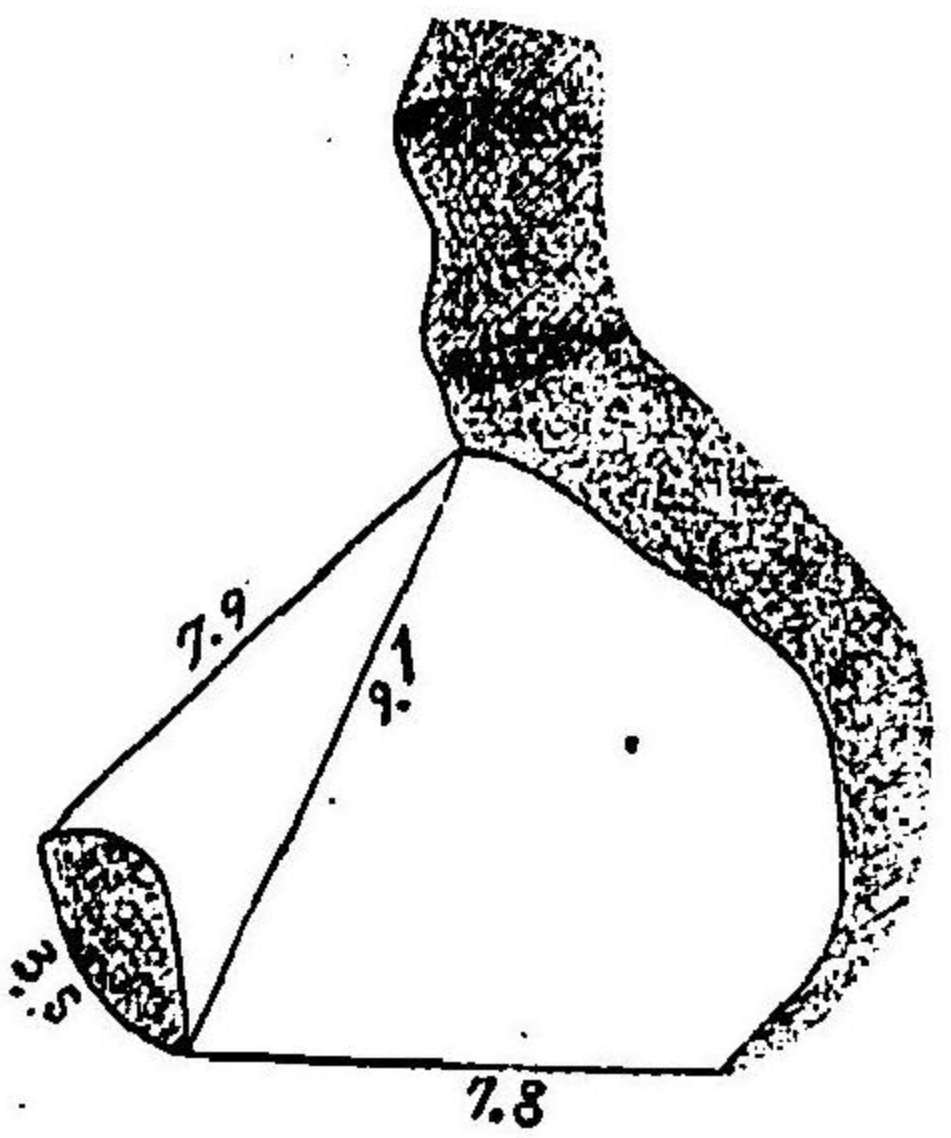
尙優病性扁平骨盤断面ノ圖

全狹窄骨盤断面ノ圖本文ハ二百九十七頁ニアリ

圖九十九第



圖百第

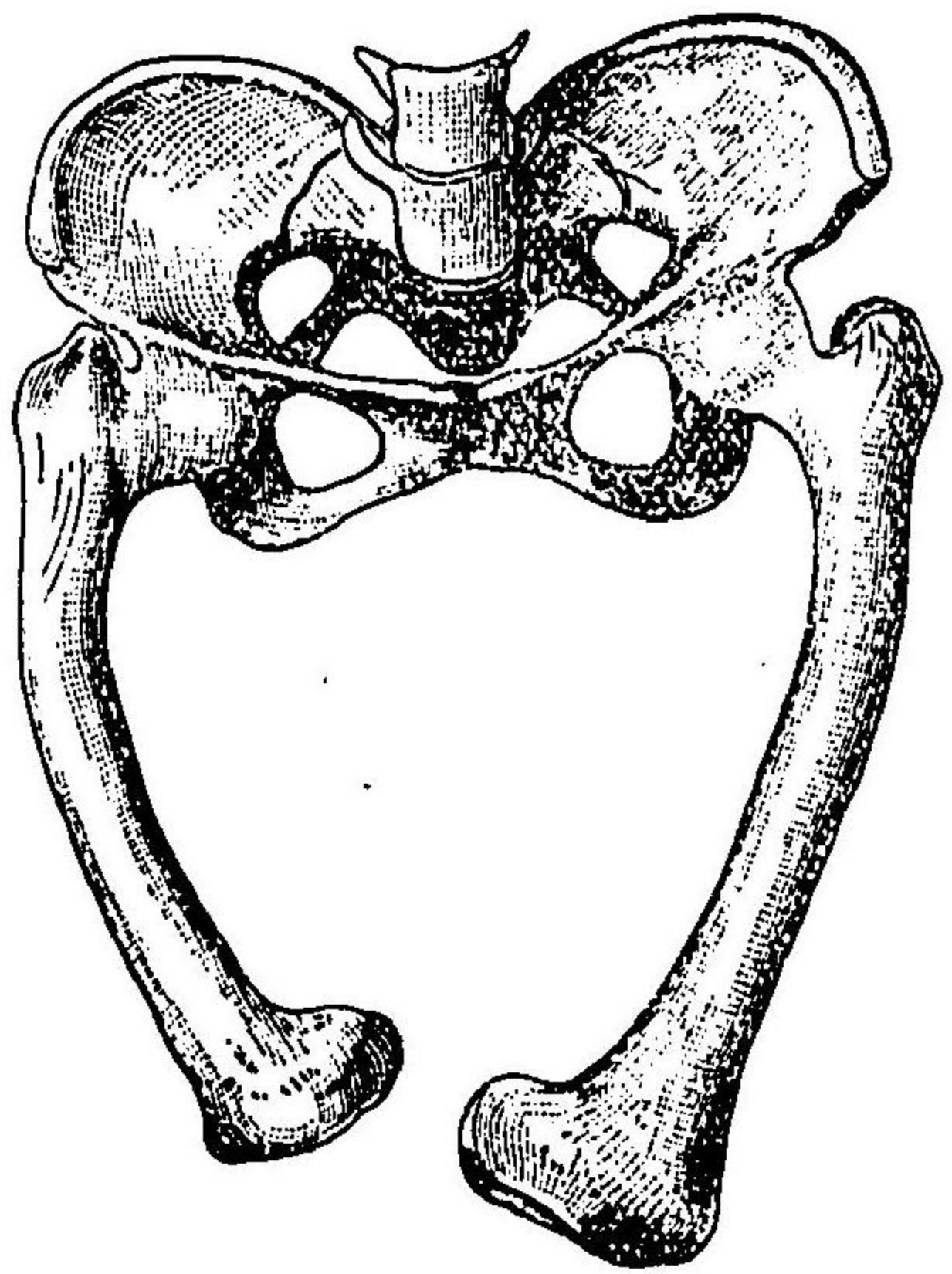


尙優病性扁平骨盤

尙優病性扁平骨盤

トハ尙優病ト名クル骨質ノ疾病ニヨリテ生ズルモノナリ此病ニ於テハ小兒ノ骨質硬固トナラザルガ故ニ脊椎ヨリ薦骨ノ上ニ壓スル重力ニヨリ薦骨岬ハ骨盤腔内ニ陥入シ以テ此骨盤ヲ生ズ故ニ骨盤入口ノ直徑線ハ著シク短縮シ甚ダシキハ六五仙迷以下ニ至ルモノアリ而シテ横徑線ハ却テ延長シ腸骨翼ハ扁平ニシテ恥

圖一百第 圖全ノ盤骨平扁病優尙上同

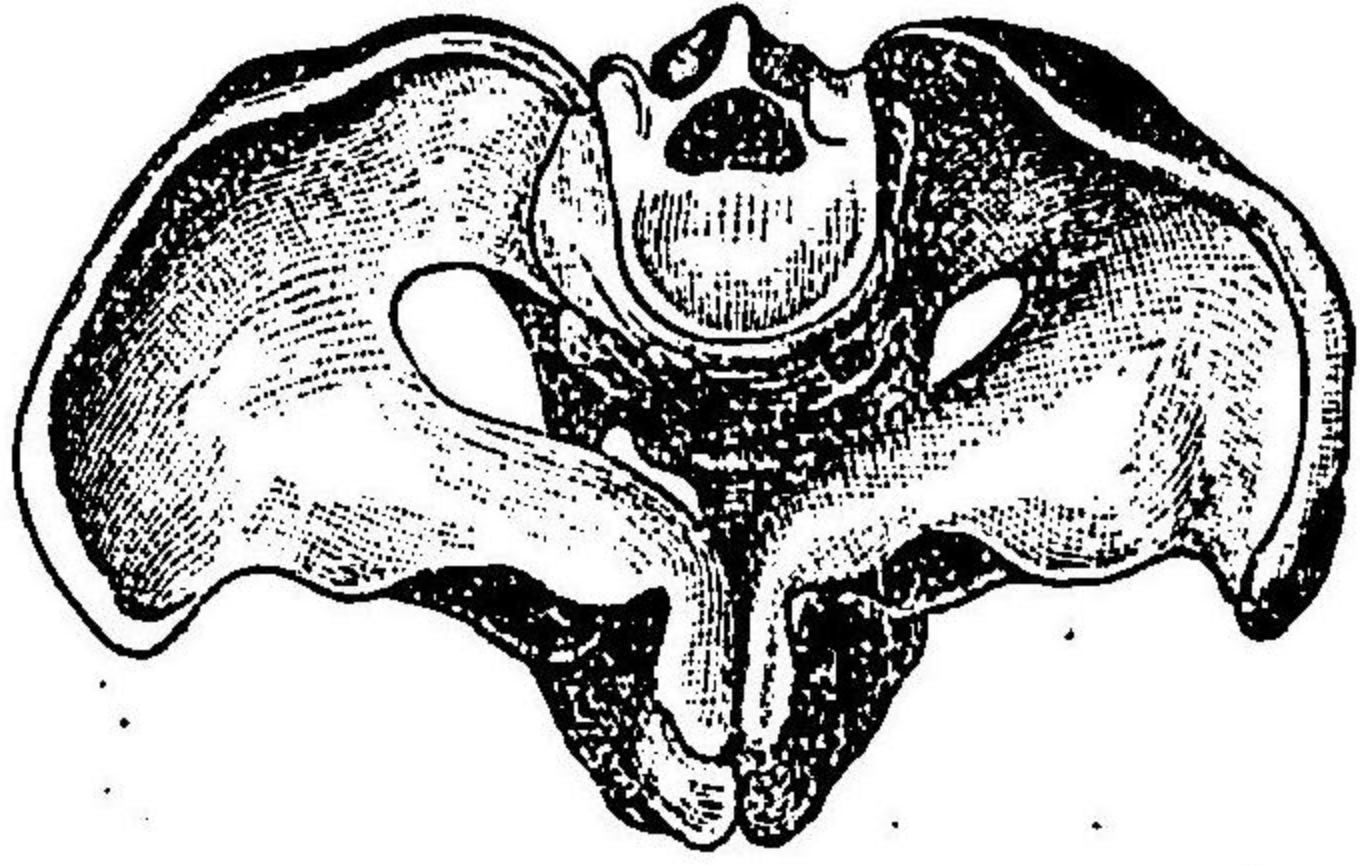


骨弓ハ甚ダ廣シ  
 外検査ニヨルニ此骨盤ノ婦人ハ上腿下腿共ニ彎曲シ歩行ハ蹣跚トシテ家鴨ノ歩ムガ如ク薦骨ノ下部ハ著シク後方ニ突隆シ恥骨縫際ハ低下シ

骨軟化病性狹窄骨盤

圖二百第

骨軟化  
骨病性  
狹窄骨  
盤ノ圖



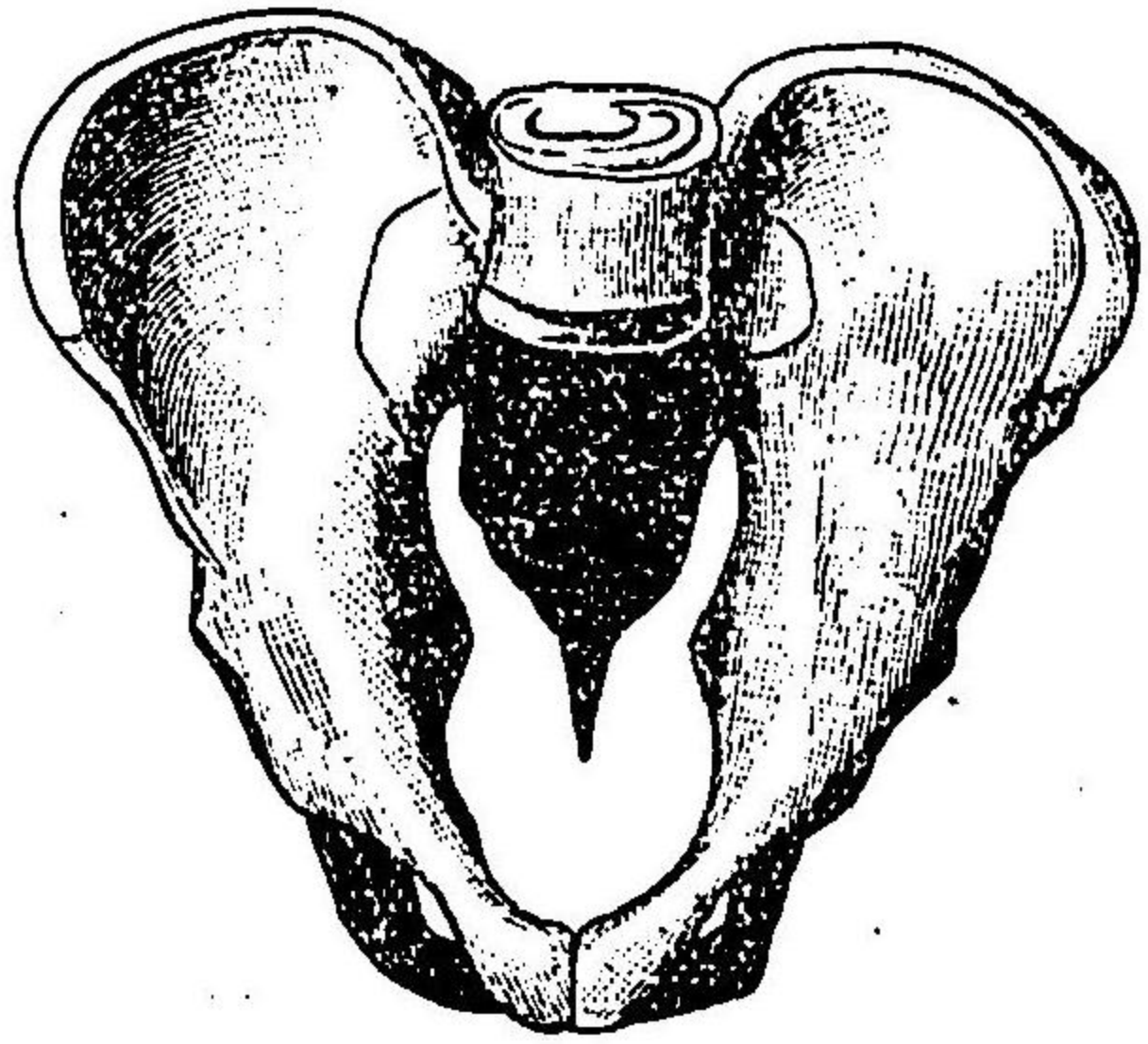
腰部廣キヲ見ル内診スルニ手指ノ薦骨岬ニ達スルコト容易ナリ此ノ如キ婦人ハ小兒期ニ於テ三歳若クハ五歳ニ至リ如メテ歩行スルコトヲ得或ハ一タビ歩行ヲ學ベルモ再ビ久シク歩行スルコト能ハザルモノトス  
(三)骨軟化病性狹窄骨盤 此病ハ骨軟化病ト稱シ大人ノ骨質柔軟トナレル病ニヨリ發スルモノナリ骨軟化病トハ體格佳良ニシテ既ニ正規ノ分娩ヲ營メル婦人ニ發ス殊ニ數回速カニ分娩シ且ツ長ク授乳セルモノニ之レアリ住居ノ不良ナルハ此病ノ發生ヲ助クルモノナリ而シテ此病ニ罹ルトキハ關節ニ疼痛ヲ發シ恰モ癱瘓質斯ノ如ク歩行不能トナリ骨ノ壓縮セラルハニヨリテ身體漸次ニ縮小ス可シ妊娠

橫徑狹窄骨盤

斜徑狹窄骨盤

圖三百第

圖ノ盤骨窄狹徑橫



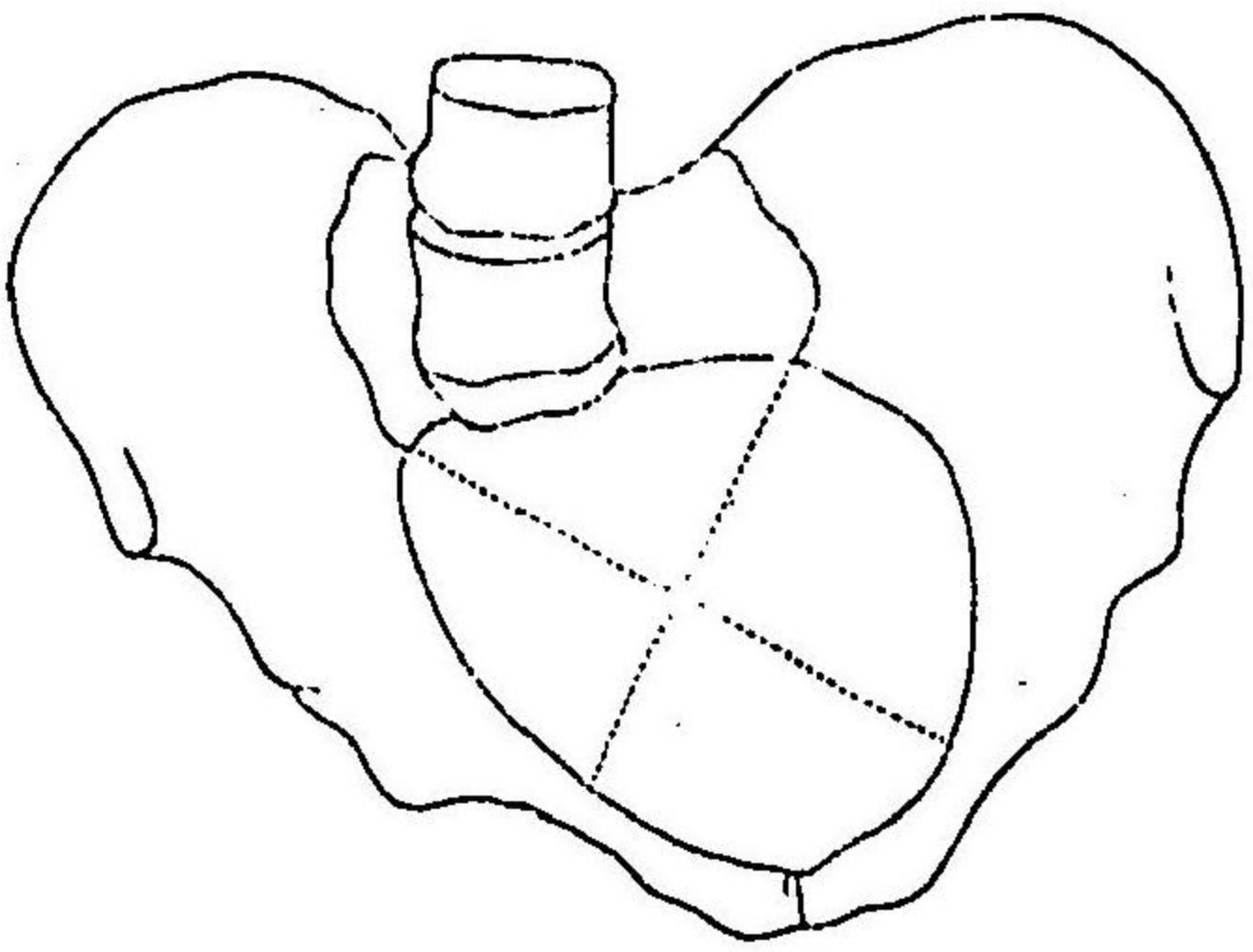
中ニハ病症増進シ產褥期ニ至レハ稍回復スルモノナリ骨盤ハ上ハ脊椎ヨリ下ハ兩大腿ヨリ共ニ壓迫セラレ以テ三方ヨリ内方ニ陥入シ一種ノ三角形ヲナシ恥骨ハ彎屈シテ前方ニ突出シ恥骨弓ハ著シク狹小トナル  
(四)橫徑狹窄骨盤 ハ薦骨狹小ナルガ爲メ骨盤ノ橫徑短小トナルルモノニシテ薦腸關節ニハ癒着ヲ呈ス外検査ニヨルニ腰部ハ狹キヲ見ル可シ

(五)斜徑狹窄骨盤

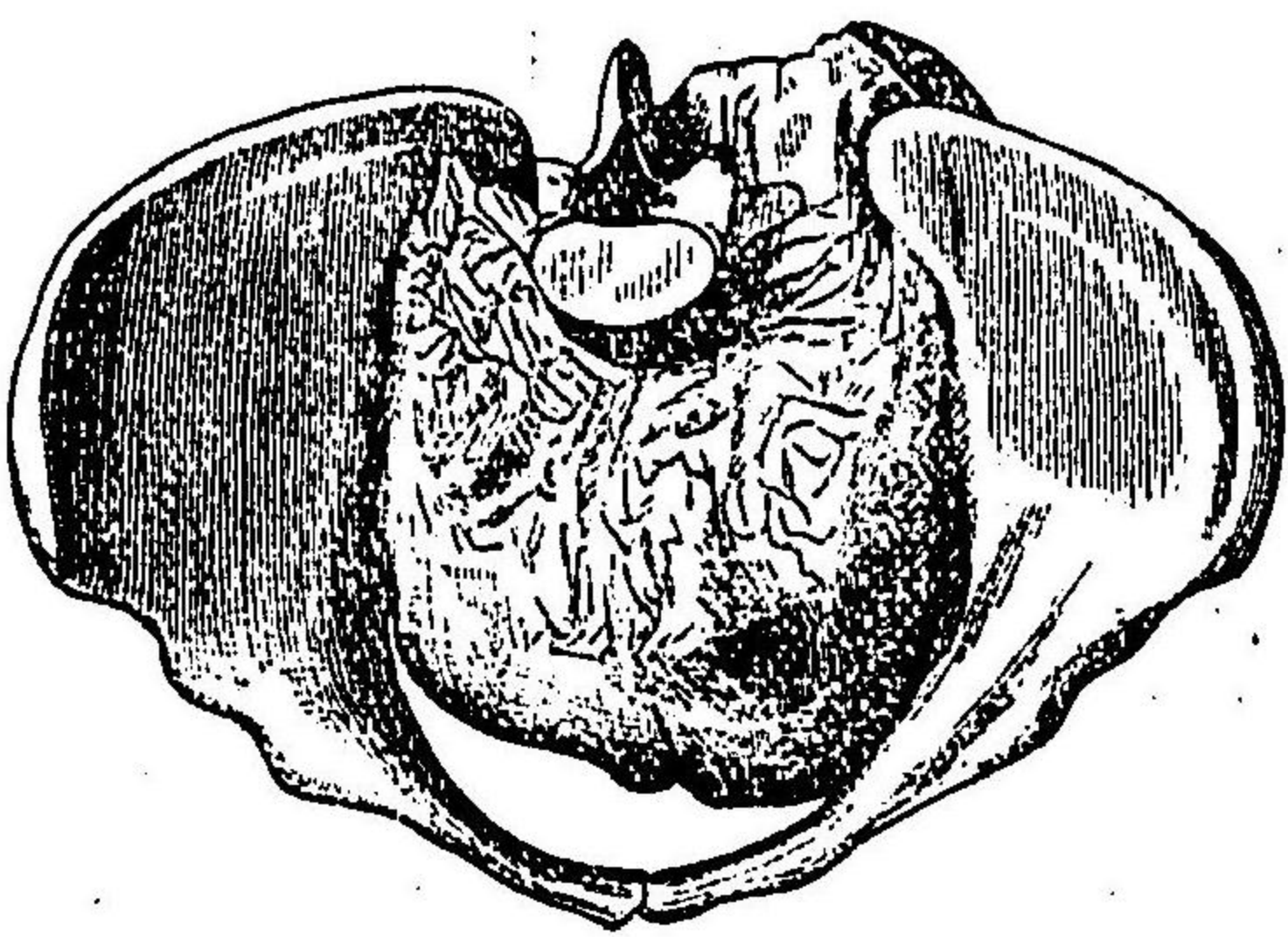
ハ薦骨ノ一側狹小トナレルガ爲メニ發スルモノニシテ佝僂病ニヨリ脊椎彎曲シ體重一側ニ傾シカ又ハ片足ノ跛ナルガ爲メニ體重同シク一側ニ傾クニヨリ發シ他ノ斜徑ハ却テ延長

スルモノナリ

第四百四圖 斜徑狹窄骨盤ノ畧圖



第五百五圖 骨性狹窄骨盤ノ圖



骨瘤性狹窄骨盤

(六)骨瘤性狹窄骨盤 骨瘤ト稱スル骨ノ腫瘤ニヨリ若クハ骨盤骨ノ折傷後其斷端ノ推移シテ癒合セルガ爲メニ此種ノ骨盤ヲ生ズ而シテ骨瘤ヲ生ズルノ部ト其瘤ノ大サ及び數トハ一ナラズシテ甚ダシキハ骨

全狹窄骨盤

狹窄骨盤ノ疑ヲ發ス可キ徵候

盤腔ヲ非常ニ狹隘ナラシムルモノアリ此狹窄骨盤ハ其骨盤腔ノ大サ手拳ヲ通ズルコト能ハザルトキハ分娩ヲ營ムコトヲ得ザルモノナリ  
(七)全狹窄骨盤 ハ骨盤ノ全體小ニシテ其各經線一般ニ短カキモノナリ但シ其直徑線ハ八仙迷以下ニ降ルコトナシ此骨盤ノ婦人ハ體格敢テ小ナラザレドモ唯其骨盤ノミ發育微弱ニシテ之レヲ致セルモノトス  
狹窄骨盤ノ疑ヲ發ス可キ徵候 婦人ニ就キ狹窄骨盤ニアラザルヤノ疑ヲ起ス可キ徵候ハ次ノ如シ即チ(第一)身體矮小身長百四十六仙迷以下(日本人ニ於ケル中等身長ナリ)骨質纖小腰部狹小ナルモノ(第二)檢者一手ノ拇指ト小指トヲ伸張シ左右腸骨前上棘ニ相達シ得ルモノ(第三)體格小サシ蹠跗トシテ行歩シ骨質平圓ナラズ前額又ハ骨ノ關節端膨隆シ薦骨部ノ突隆甚ダシキモノ(第四)妊娠中ニ骨軟化病ヲ發シ儂麻質斯様ノ骨質痛ヲ現ハセルモノ(第五)經産婦ニ於テハ前回ノ分娩ハ位置正シキモ産出ノ困難ナリシコトヲ訴フルモノ是レナリ又妊娠分娩ニ關スルモノヲ舉グレハ左ノ如シ

妊娠分娩間ニ  
現ルル狹窄骨  
盤ノ徴候

妊娠分娩間ニ現ル、狹窄骨盤ノ徴候 妊婦ヲ檢スルニ初妊婦ニシテ妊娠末月ニ至ルモ兒頭高ク位シ骨盤入口内ニ進入セザルカ若クハ懸垂腹ナルトキハ則チ狹窄骨盤ニアラサルヤチ意思ス可シ又分娩時ニ際シ檢査ヲ施コスモ骨盤狹窄ノ度僅少ナルガ爲メニ其狹窄アルチ確知シ能ハザルコトアリ然レトモ軟部ニ異常ナク陣痛甚ク強クシテ兒頭前進セザルトキハ狹窄骨盤ノ徴ナリ其他前頭ノ深ク下降セルモノ後顛頂骨位若クハ前顛頂骨位ヲ現ハスモノハ骨盤ノ狹窄アルモノト看做ス可シ

狹窄骨盤ノ檢定法

狹窄骨盤ノ檢  
定法  
骨盤入口直徑  
線ヲ檢スル法

(一)骨盤入口直徑線ヲ檢スル法 狹窄骨盤ノ確實ナル檢査ハ唯内檢査法ニヨリテ之レヲ營ムコトヲ得ベシ即チ法ニヨリテ丁寧ニ手及ビ陰部ノ防腐法ヲ施コシ第二編第五十六圖(百一頁)ニ示スカ如ク示指及ヒ中指ヲ腔内ニ送入シ手ノ小指側ヲ以テ強ク會陰部ヲ壓入シ以テ示中指ヲ深ク薦骨岬ニ向フテ進マシム此ノ如クスレバ多クノ扁平骨盤ニ於

恥骨ノ後面無  
名線恥骨弓及  
ビ兩坐骨結節  
間ノ檢査

狹窄骨盤分娩  
ノ經過并ニ其  
障害

テハ容易ク薦骨岬ニ達シ得ベシ

(二)恥骨ノ後面無名線恥骨弓及ビ兩坐骨結節間ノ檢査

薦骨岬ノ檢査ヲ終ラバ指ヲ恥骨結節ノ後面ニ移シ左右恥骨後面ノ平等ナルヤ否ヤヲ檢シ次ニ之レヨリ無名線ヲ觸知ス可シ横徑ノ狹小ナルモノハ之レニ觸ル、コト容易ナリ其後チ恥骨弓ノ廣狹ヲ檢シ終リニ左右ノ坐骨結節ノ距離ヲ知ル可シ

狹窄骨盤分娩ノ經過并ニ其障害

狹窄ノ度少ナク一二仙迷

ニ止マルモノハ陣痛強ク胎位ニ異常ナキトキハ時間ヲ費スコト稍大ナルモ敢テ著シキ害ナクシテ自ラ分娩ヲ營ムコトヲ得可シ此際兒頭ハ甚ダシク變形シ頭蓋骨線ハ重積シ頗ル其容積ヲ减小スルモノトス若シ又更ニ狹窄ノ度甚ダシキモノハ分娩著シク困難ニシテ時間ヲ費スコト多ク母兒兩體ニ種々ノ障害ヲナス可シ即チ小兒ニ在リテハ其頭緊シク骨盤内ニ嵌入シ甚ク産瘤ヲ生シ又ハ頭蓋骨ノ凹陷骨傷ヲ致シ胎水ノ早期流泄臍帶脫等ニヨリ分娩中ニ死スルコト最モ多シ産婦ニ於

テハ劇シキ痙攣性陣痛ヲ發シ兒頭緊シク骨盤内ニ嵌入シ久シキヲ經ル  
トキハ其壓迫ニヨリテ恥骨縫際薦骨脚等ニ當リ軟部ノ挫傷又ハ炎症ヲ  
發シ壞疽ニ陥ル可シ其他體力虛弱ナルカ若クハ到底分娩スルコト能ハ  
ザルトキハ續發性陣痛微弱ヲ致シ子宮ノ收縮甚ダシキモノニ在リテハ  
終ニ子宮破裂ニ陥ルモノモ亦之レアリ——直徑線六仙迷以下ナルモノ  
ハ到底骨盤内ヨリ娩出スルコト能ハズ只帝王切開術ニヨリ分娩ヲ營マ  
シム可シ

狹窄骨盤分娩ノ處置

婦人若シ體格不良ナルカ又ハ前回ノ分娩  
重難ニシテ狹窄骨盤ノ徵候ヲ呈スルモノハ速カニ醫師ノ診察ヲ請ハシ  
ム可シ時トシテハ早ク流産術ヲ行ヒ若クハ數週間早ク人工早産術ヲ施  
コス可キコトアリ既ニ分娩ヲ始メタルモノニ在リテハ直チニ醫ノ來診  
ヲ求メシムルヲ要ス——醫師未ダ到ラザル間ニ於テハ決シテ分娩ヲ催  
進センコトヲ求ムルコトナク殊ニ不必要ノ検査ヲ避ケ側臥ニ就カシメ  
努責ヲ禁ジ可及的胎胞ヲ破開セシメザランコトヲ務ム可シ又温浴酒類

骨盤甚ダシク傾斜スルキハ

ホフマン液等ノ如キ陣痛ヲ催進セシム可キモノハ堅ク之レヲ禁シ尿利  
及ビ便通ヲ佳良ナラシメ以テ安靜ニ臥セシムルヲ要ス——醫師ハ狹窄  
骨盤ニ就キ鉗子挽出術回轉挽出術穿顛術若クハ帝王切開術ニヨリ分娩  
セシムルモノナリ

第三百三十章 甚ダシク傾斜セル骨盤

骨盤甚ダシク傾斜スルキハ 薦骨後方ニ突出シ恥骨縫際ハ低  
ク外陰部ハ下方兩腿ノ間ニ在リ此ノ如ク傾斜甚ダシキトキハ小兒恥骨  
縫際ニ支障セラレ分娩ノ障害ヲナスモノナリ此場合ニ於テハ産婦ヲ前  
方ニ屈セシメ小兒ノ先進部ヲ骨盤内ニ導クコトヲ務ム可シ

第三百卅一章 過大ナル胎兒

過大ナル胎兒 トハ身長五十一仙迷ヲ超ニ體重三千五百瓦以上ニ  
至ルモノヲ云フ稀レコハ其體重七八千瓦ニ達スルモノモ亦之レアリ過  
大ナル胎兒ハ殊ニ頭蓋ノ大ニシテ固キガ爲メニ娩出セララルコト甚ダ  
難ク産婦ノ骨盤ハ尋常ナレトモ分娩ノ困難ナルコト狹窄骨盤ト同一ナ

過大ナル胎兒

異常分娩及其取扱法

甚ダシク傾斜セル骨盤

過大ナル胎兒

處置

外検査ヲ施コスニ腹部甚大ニシテ兒ノ軀幹長ク頭ハ大ニシテ硬キヲ見ル可シ時トシテハ雙胎ナリト思意セラル、コトアリ  
處置 ハ狭窄骨盤ノ分娩ニ準ス可シ

腦水腫

第三百三十一章 胎児ノ畸形

(二)腦水腫 腦水腫トハ腦内ニ水液ヲ蓄ヒ頭蓋ノ甚ク膨大セルモノニシテ其大サ稀レニハ大人頭大ニ達スルコトアリ此症ノ胎児ハ三千回ノ分娩中凡ソ一回アル可シ而シテ此症ニ在リテハ分娩ノ際子宮ノ下部強ク延張セラレ容易ニ子宮ノ破裂ヲ生ズルガ故ニ甚ク危険ナルモノナリ或ハ兒頭ハ自ラ破裂シ縮小シテ容易ク分娩スルコトモ亦之レアリ  
外検査ヲ施コスニ兒頭大ニシテ軟カク且ツ波動ヲ呈シ内検査ノ際子宮口開ケルトキハ縫合及ヒ顛門ノ甚ク廣キヲ見ル可シ然レトモ通常ハ此等ノ狀況ヲ診知スルコト容易ナラズ但シ骨盤ノ狭窄ナラサルニ當リ陣痛強盛ナリト雖トモ兒頭ノ下降セザルモノハ此畸形ノ疑ヲ起ス可シ又

處置  
脊椎破裂

第三百六圖

腦水腫 胎児ノ圖



子宮下部ノ壁質  
甚ク延張非  
薄トナリ將サニ  
破裂セントスル  
モノヲ示ス

兒頭子宮口ニ臨メルニ際シ陣痛時ニ緊張ヲ發シ胎胞ト誤認セラル、コトアリ

處置

ハ子宮破裂ノ恐アルニヨリ速カニ醫治ヲ請フ可シ  
(二)脊椎破裂 脊椎破裂トハ脊椎ノ後方ニ裂隙アリテ椎骨ノ内部ヨリ液質ヲ蓄フルヲ出シ頂部或ハ臀部ニ於テ大ナル腫瘍ヲ現ハスモノ

異常分娩及び其取扱法 胎児ノ畸形

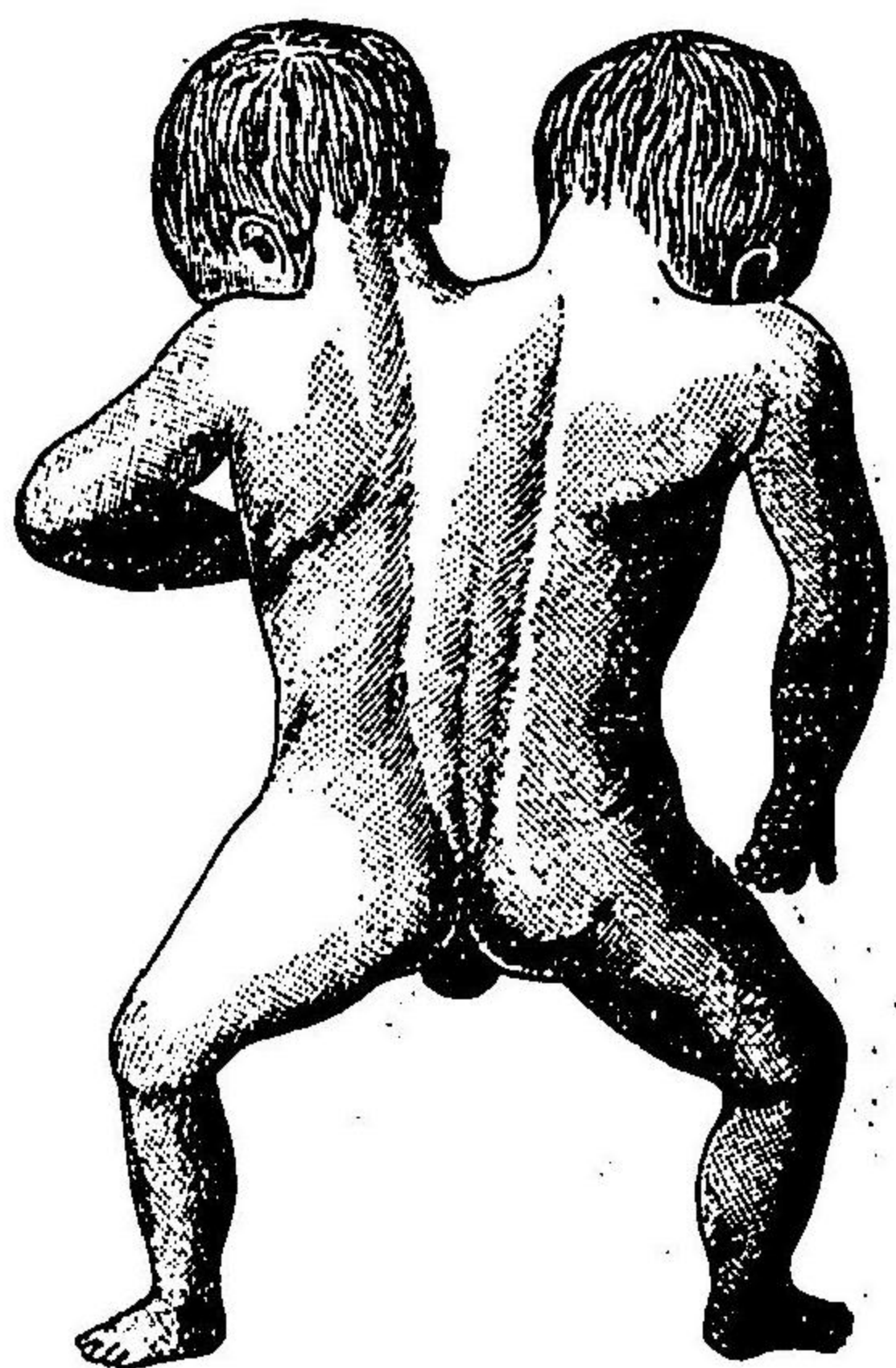
腹水其他ノ畸形

ナリ此症ハ甚メシク分娩ノ障害ヲナスコトアリ  
 (三)腹水其他ノ畸形 胎兒ノ疾病ニヨリテ腹水ヲ發シ若クハ肝臓  
 腎臓膀胱等ノ腫大ニヨリ腹部膨大シ分娩ノ障害ヲナスコトアリ此ノ如  
 キ場合ニ在リテハ兒頭既ニ産出スルモ軀幹ハ續テ出ヅルコトナク安リ  
 ニ挽出スルトキハ終ニ兒頭ヲ離斷セシムルニ至ルモノナリ

重複畸形胎兒ノ圖

重複畸形胎兒

圖七百第

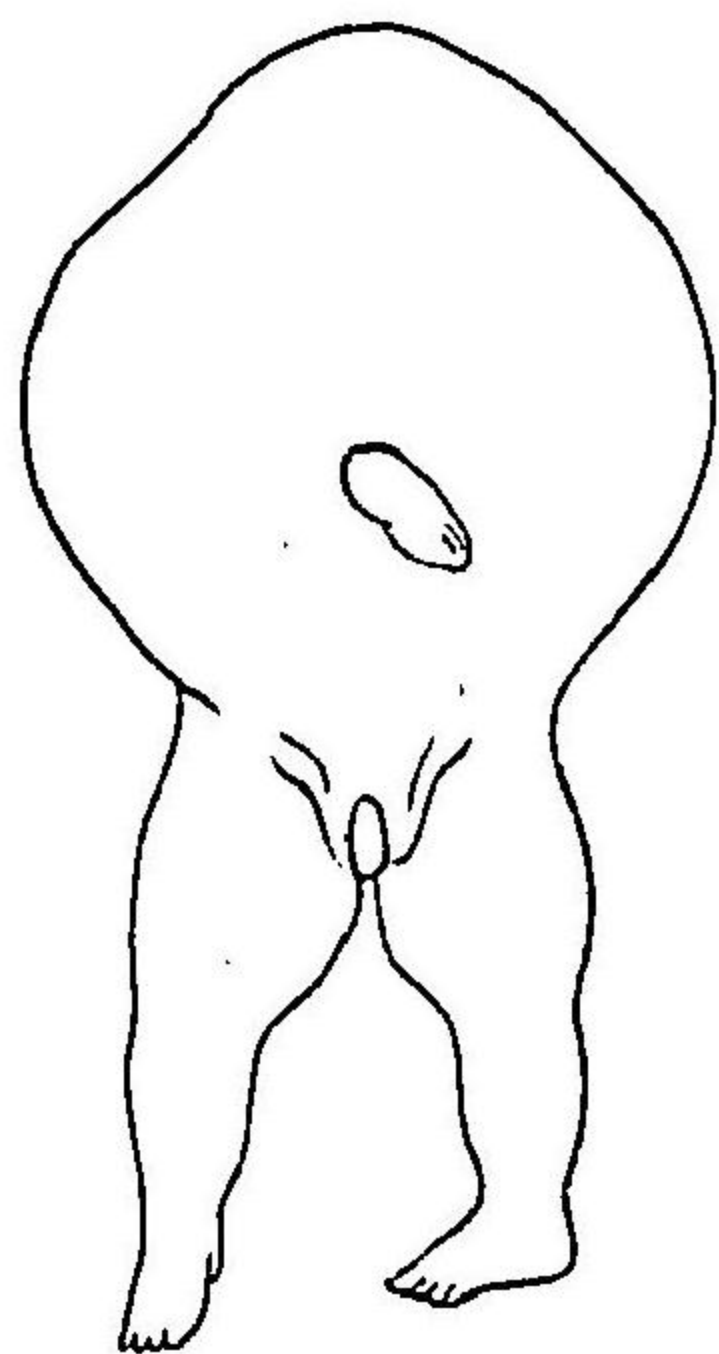


一ノ軀幹ニシテ兩頭ヲ有スルモノ(丁)一頭ニシテ二軀幹ヲ有セルモノ(丙)

以上(二)及ヒ(三)ノ兩症ハ  
 胎兒娩出後ニアラサレ  
 ハ確知スルコト能ハザ  
 ルモノナリ然レトモ若  
 シ此病ノ疑アラハ速カ  
 ニ醫治ヲ請フ可シ  
 (四)重複畸形胎兒  
 此畸形ニ凡ソ四種アリ  
 (甲)兩兒ノ腹部若クハ胸

無頭兒及ビ頭蓋欠損

圖八百第 圖ノ兒頭無



部互ニ癒合セルモノ(乙)兩兒ノ薦骨及ビ腰椎ノ下部互ニ癒合セルモノ(丙)  
 一ノ軀幹ニシテ兩頭ヲ有スルモノ(丁)一頭ニシテ二軀幹ヲ有セルモノ(是  
 レナリ)  
 此等ノ畸形ハ骨盤廣ク陣痛強キトキハ時トシテ自ラ産出シ得ルコトア  
 リ而シテ胎兒ハ多ク死亡スト雖トモ時トシテハ産出後尙ホ生活スルコ  
 トアリ——此畸形モ亦分娩前ハ之レヲ知ルコト能ハスト雖トモ若シ雙  
 胎ニシテ分娩ノ障害甚タシキヲ見バ此畸形ニアラザルヤナ意思シ以テ  
 速カニ醫ノ來診ヲ求ム可シ

(五)無頭兒及ビ頭蓋欠損  
 此等ノ畸形ハ敢テ分娩ノ障害  
 ナサズト雖トモ小兒ハ生活  
 ナ營ムコト能ハサルモノナリ  
 分娩ハ人工ヲ要セスシテ容易  
 ニ之レヲ終ルコトヲ得可シ



以上ノ他

(六)以上ノ他 一足ナルモノ、眼ノ融合セルモノ、頸骨突出セルモノ、四肢チ欠如セルモノ等種々ノ畸形アリ此等ノ畸形ハ分娩容易ナリト雖トモ之レチ葬禮ニ附ス可キヤ否ヤヲ決センガ爲メニ醫師ノ來診ヲ求ム可シ

輕度ナル各種ノ畸形

(七)輕度ナル各種ノ畸形 此ニ屬スルモノハ兎唇、痕咽(即チ硬口蓋ノ破裂)贅指又ハ贅趾、指趾ノ癒着セルモノ、内翻手又ハ内翻足、鎖肛、尿道閉鎖等トナス此等ノ畸形ニ在リテハ醫師ヲ招キテ其治療法又ハ養育法ノ指示ヲ請フ可シ

凡ソ總テノ畸形

凡ソ總テノ畸形 其母ニ知ラシメテハ能ク注意シ決シテ遂カニ喫驚スルコトナカシムルヲ緊要ナリトス

横位トハ

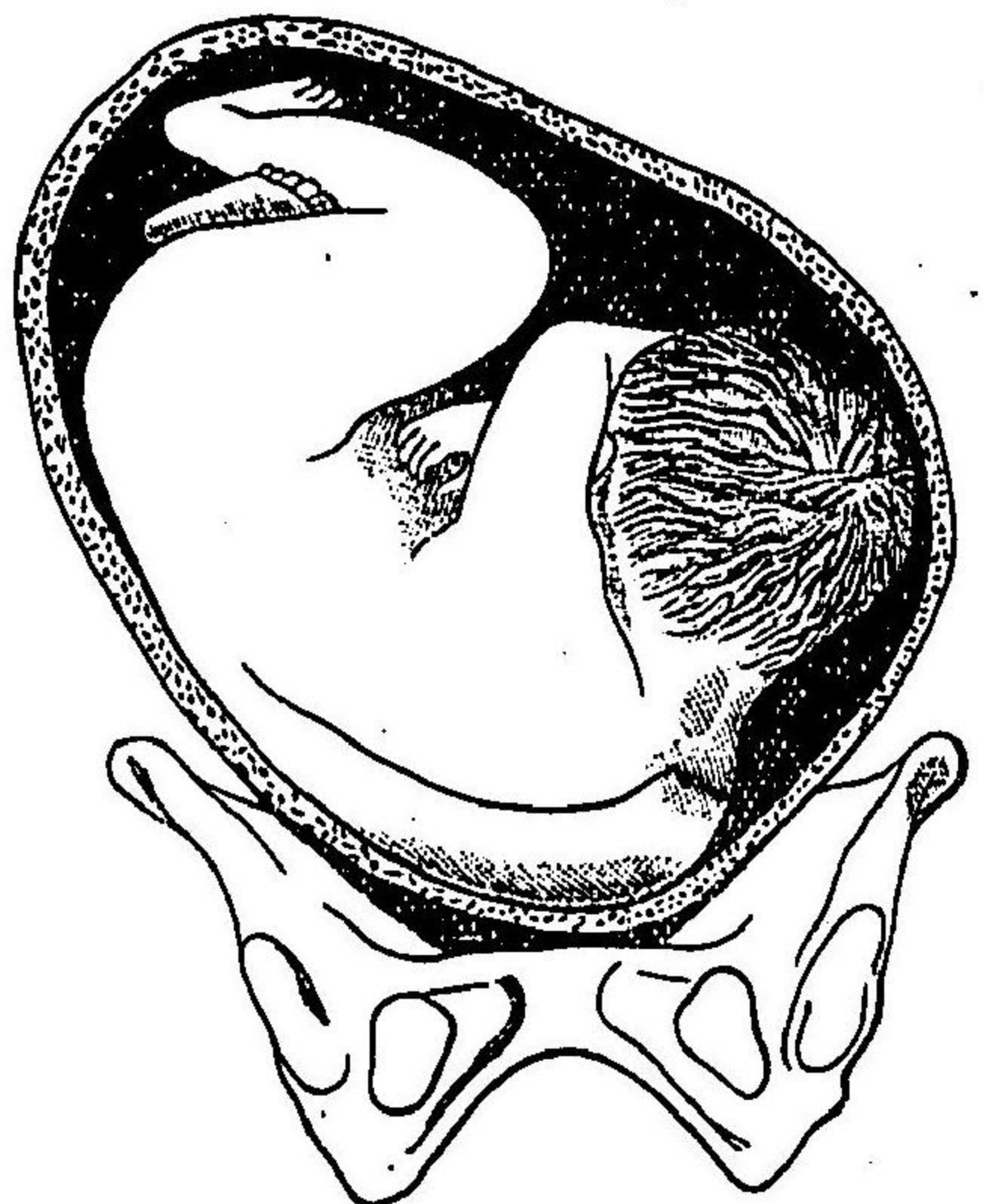
第百卅三章 横位

横位トハ 胎兒横ニ子宮内ニ在ルヲ云フ然レトモ正シク横ニ位スルコトナシ必ズ多少斜ノ位置ヲ取ルガ故ニ又是レチ斜位ト名シ而シテ常ニ肩胛部ノ先進スルヲ以テ或ハ肩胛位ト稱ス斜位ニシテ髖部ノ下方

横位ノ區別

ニ位スルモノハ分娩ニ際シ多クハ髖位ニ變ズルモノナリ 横位ノ區別 横位ヲ別ケテ第一横位及ビ第二横位ノ二トナス即チ

第百九圖 横位胎兒ノ圖



第一横位第一分類ノ胎兒ヲ示ス

トキハ第一横位ノ第二分類ナリ又兒頭右ニ存シ其背前方ニ在ルトキハ第二横位第一分類ニシテ其背後方ニ面スルハ第二横位ノ第二分類ナル

横位ノ原因

チ知ル可シ(或ハ兒背ノ前ニ在ルチ第一横位、後ナルチ第二横位、頭ノ左ナルチ第一分類、右ナルチ第二分類ト定ムルモノモ亦之レアリ)

**横位ノ原因** 多産婦ニシテ子宮壁及ビ腹壁弛緩シ胎兒移動シ易キモノ、胎兒小ナルモノ、雙胎ノ第二兒軟化セル死胎兒、羊膜水腫、狹窄骨盤、懸垂腹等ハ横位ヲ發ス可シ而シテ最後ノ二者ニ在リテハ兒頭骨盤内ニ進入スルコト能ハズシテ横位ヲ致セルモノ其他ハ胎兒ノ運動シ易キガ爲メ此位置ヲナスモノナリ

横位ノ徴候

**横位ノ徴候**

(一) 外検査 ニヨルニ腹部横ニ廣ク子宮ハ正規ノ卵圓形ヲナサズ觸診スルニ子宮底及ビ恥骨縫際ノ上部ハ空虚ニシテ大體部ハ左右兩側ニ位シ小體部ハ通例臀部ノ近傍ニ在リ而シテ其小體部多クシテ明瞭ニ觸ルベキトキハ兒腹ノ前方ニ向ヘルコト多ク心音ハ腹部ノ中線若クハ兒頭ノ側ニ位ス

内検査

(二) 内検査 チ施コスニ胎胞尙ホ存スルトキハ一モ胎兒ノ部分ヲ觸

又背部ノ方向  
頭部ノ方位  
進手ノ辨別

知セズ此故ニ一般ニ産婦ノ検査ニ際シ此ノ如キ狀況ヲ見バ横位ニアラサルヤチ意思ス可シ而シテ横位ニ在リテハ二三指若クハ半手ヲ深ク送入スルニ及ビ始メテ骨盤入口上ニ肩胛ノ存スルヲ觸知セラル且ツ其肩胛ハ肩胛骨鎖骨及ヒ肋骨ノ存スルニヨリ之ヲ知ル可シ即チ肩胛骨ハ三角形ニシテ其下角ハ下層ヨリ提舉ス可ク鎖骨ハ彎曲シテS字形ナリシ肋骨ハ隣々相並ブチ特異ナリトス

(三) 又背部ノ方向頭部ノ方位先進手ノ辨別

チ緊要ナリト

ス即チ肩胛骨ノ向ヘル部ハ背部ナリ腋窩ノ開ケル方向ハ臀部ニシテ其閉タル方位ハ頭部ナリ又手ハ指節ニヨリ及ビ踵ノ存セザルニヨリテ足ト區別ス手ノ左右ヲ知ルニハ試ミニ檢者ノ手ヲ以テ之レト相重ス可シ(手ノ方向ハ固ヨリ相反對ス)而シテ兩拇指相對スルトキハ異名手ニシテ拇指ト小指ト相向フトキハ同名手ナリ凡ソ内検査ノ際手ヲ牽引スルハ最モ不可ナルガ故ニ決シテ之レヲナス可ラズ或ハ時トシテ肩胛部ニ産瘤ヲ生シ臀部ト區別シ得サルコトアリ

横位分娩ノ経過

横位ハ人工ノ補助ヲ與フルコトナケレバ自ラ分娩ヲ營ムコト能ハサルヲ常トス而シテ今之レチ自然ノ経過ニ任ズルトキハ胎水頗ル早ク漏泄シ一二時間ノ後チ陣痛増劇シ肩胛ハ深ク骨盤内ニ壓入セラレ胎水ハ全ク流泄シ子宮壁ハ胎兒ニ密着シ且ツ子宮ノ下部ハ漸ク菲薄トナル横位ノ狀況此ノ如キニ至レバ之レチ壓入セラレタル横位ト云フ此期ニ於テハ其陣痛痙攣性トナリ疼痛甚ク時トシテハ子宮強直ヲ發スルコトアリ次チ子宮下部ノ壁質大ニ延張セラレ薄クシテ紙ノ如ク遂ニ陣痛ノ發作ト共ニ一頓ニ破裂チ生シ胎兒チ腹腔内ニ脱出セシムルニ至ル而シテ母體ハ劇シキ出血ノ爲メニ死スルヲ常トス或ハ未ダ子宮破裂セズト雖トモ時トシテハ壓迫ニヨリテ軟部壞死シ且ツ時間チ費スガ爲メニ子宮内ニ腐敗チ發シ體温甚ダシク亢進シ産婦ハ虚脱ニ陥リテ致命スルコトアリ——小兒ハ分娩ノ初メ既ニ脱出セル臍帶ノ壓迫セラレ、ニヨリ次ニハ強度ノ子宮收縮ニヨリ終リニ至レバ胎盤ノ剝離ニヨリ其生命チ失フコトアルモノナリ

横位分娩ノ處置

稀レニハ横位ノ胎兒ニシテ自ラ産出スルコトアリ之レニ二種アリ一チ自己回轉ト云フニチ自己産出トナス(甲)自己回轉トハ分娩ノ始メ適當ノ臥位ニヨリ頭部若クハ骨盤部下降シ縦位ニ變テ正規ノ分娩チ遂クルモノナリ(乙)自己産出トハ強劇ノ陣痛ニヨリ兒頭ハ恥骨ノ上部ニ支障セラレ兒ノ下體ハ薦骨彎内ニ下リ遂ニ始メニ産出シテ足位トナリ以テ娩出チ遂グルモノトス但シ骨盤廣濶ナルカ胎兒小ナルニアラサレバ自己産出チ營ムモノニアラス故ニ通常ハ成熟胎兒ニ之レチ見ルコト甚ダ少ク死胎兒未成熟胎兒若クハ軟化セル胎兒ニ於テ自己産出チ致スコト多シトス

**横位分娩ノ處置** 産婆横位ナルチ知ラバ速カニ醫師ヲ招ク可シ若シ遅延スルトキハ大ニ治術チ困難ナラシムルモノナリ而シテ醫師ノ到ラザル間ハ可及的胎胞チ保存セシムルチ務ム可シ是レ胎胞ノ破開セル後ハ回轉術チ行フコト大ニ困難ナルニヨル即チ産婦チ兒頭ノ位セル側方ニ臥セシメ努責チ禁シ安靜チ守ラシム可シ且ツ手術ニ就キ臥床其

他ニ要スル器具ヲ整ヒ温湯冷水等ヲ用意スルヲ要ス

### 第三百三十四章 頭蓋位ニ於ケル上肢及ビ下肢ノ脱出

頭蓋位ニ於ケル上肢ノ脱出

(一)頭蓋位ニ於ケル上肢ノ脱出 此脱出ハ兒頭ノ子宮下部及ビ骨盤ヲ充塞セザルニヨリ生ズルモノニシテ狭窄骨盤小ナル胎兒羊膜水腫懸垂腹等ニ發ス可シ

此場合ニ於テハ胎兒小ナルカ陣痛強力ナルカ又ハ骨盤廣潤ナルトキハ敢テ分娩ニ害アルモノニアラズ而シテ此ノ如キ際ニハ産婦ヲ手ノ存セサル側方ニ臥セシム(手ヲ甚タシク脱出セサラシムル爲メナリ)即チ第一頭蓋位ニ於テハ左側第二頭蓋位ニ在リテハ右側ニ臥サシム可シ若シ産道狭小ナルカ或ハ上肢ノ脱出スルコト甚ダシキトキハ醫治ニヨリ整復術回轉術鉗子挽出術等ヲ要スルモノナリ

頭蓋位ニ於ケル下肢ノ脱出

(二)頭蓋位ニ於ケル下肢ノ脱出 ハ稀レニ未成熟胎兒若シハ雙胎ノ兩兒同時ニ骨盤内ニ出ヅルモノニ是レヲ見ルコトアリ

臍帶脱

### 第三百三十五章 臍帶脱及ビ臍帶先進

臍帶脱 トハ胎胞破裂ノ後チ臍帶縮係狀ヲナシ先進部ノ下ニ脱出スルカ又ハ先進部ト同所ニ位スルヲ云ヒ臍帶先進トハ臍帶脱ニシテ未ダ胎胞ノ破開セザルモノヲ云フ

原因

原因 之レヲ發スルノ原因ハ上肢ノ脱出ニ於ケルカ如ク主トシテ先進部ノ骨盤腔ヲ充塞セザルニヨル即チ狭窄骨盤羊膜水腫小ナル胎兒横位足位其他前置胎盤臍帶ノ甚ダ長キモノ(七十以上)等はレナリ其他起立位ニ於テ胎水漏泄セルノ際ニモ之レヲ發スルコトアリ

症状

症状 内検査ヲ施コスニ臍帶ノ先進若クハ脱出アルトキハ卵膜内又ハ子宮口腔内若クハ外陰部ニ於テ脈動アル索條ヲ觸知ス可シ實際上ニハ兒頭ノ尙ホ移動スルニ當リ胎水漏泄スルトキハ内検査ヲ施コシ臍帶脱ノ有無ヲ檢スル法トス若シ又脱出セル臍帶アリト雖モ其搏動ナキモノハ胎兒ノ死亡セルモノナルヲ知ル可シ但シ陣痛時ニハ生兒ト雖トモ壓迫ニヨリ搏動停止スルコトアルガ故ニ注意スルヲ要ス——臍帶脱ア

ルトキハ胎兒ノ生命頗ル危険ナリ是レ兒體ト産道壁ノ間ニ臍帯壓迫セラレ血行ヲ障害シ胎兒ノ生命ヲ危クスルニヨル而シテ頭蓋位ニ於ケル臍帯脱ハ最モ不良ニシテ足位ハ之レニ次キ臀位ハ最モ危キコト少ナシ横位ニ在リテハ肩胛部ノ深ク下降セザルトキハ壓迫ヲ生ゼザルモノトス

處置

臍帯先進アルトキハ可及的胎胞ノ破裂ヲ防キ醫ノ來診ヲ求メ而シテ臍帯ノ存セサル側方ニ臥セシム可シ之レニヨリテ屢整復セラレハコトアリ  
胎胞既ニ破裂シ臍帯ノ脱出セルモノニ在リテハ殊ニ速カニ醫師ノ治方ヲ請フ可シ其間可及的壓迫ヲ免レシメシカ爲メニ努責ヲ禁シ二三指ヲ用キテ兒頭ヲ壓却シ以テ醫師ノ到ルヲ待ツ可シ——若シ又兒頭骨盤下口ニ進ミ將ニ産出セントスルモノニ在リテハ子宮ヲ摩擦シ陣痛ヲ催進シ産婦ヲシテ劇シク努責セシメ或ハ後會陰壓出法(第三篇百六十五頁)ヲ施コシ以テ速カニ兒頭ヲ娩出セシムルヲ務ム可シ

經産婦ノ分娩容易ナルモノニ在リテハ兒頭尙ホ骨盤内ニ存セルノ際ニ於テモ亦娩出ヲ催進シ速カニ之レヲ終ラシムルヲ佳トス  
陣痛休憩時ニ於テ臍帯ニ觸ルハニ搏動絶止シ兒ノ死亡セルヲ確實ナルモノニ在リテハ整復法ヲ試ミ若クハ醫師ヲ迎フルヲ要セズ自然ニ委シテ産出セシム可シ

第三百三十六章 臍帯ノ異常

臍帯纏絡

(一)臍帯纏絡 ハ通例之レアルコト多ク凡ソ三四回ノ分娩中ニ一回アルヲ見ル可シ就中頸部ニ纏絡セルモノ最モ多ク且ツ其纏絡ノ數ハ一廻又ハ數廻ノ多キニ至ルコトアリ而シテ通例ハ害ナキヲ常トスレトモ稀レニハ妊娠中ニ臍帯纏絡ノ爲メニ手足ヲ絞斷セラレ或ハ纏絡部ノ絞搾ニヨリテ血行絶止シ胎兒ノ死ヲ致スコトアリ分娩時ニ於テ纏絡ノ爲メニ臍帯短縮セルトキハ小兒ノ娩出ヲ妨ケ劇痛アル陣痛又ハ出血ヲ發シ胎盤ノ過早剝離子宮翻轉等ヲ致シ或ハ臍帯斷裂シ若クハ牽引ニヨリ其血行ヲ害シ小兒ヲ死ニ到ラシムルコトアリ但シ此纏絡ハ臍帯ノ長キ

| 處置  | 臍帯ノ短カキモノ   | 臍帯ノ離斷 |
|---|--|-------|
| <p>●失スルモノニ多ク之アリ</p> <p><b>處置</b> 分娩時ニ臍帯纏絡アルモ必スシモ速カニ解除スルヲ要セズ是レ纏絡セル臍帯ハ甚ダ長キコト多キニヨル之レニ反シ纏絡ノ爲メニ臍帯緊張シ胸部ノ産出ヲ妨グルトキハ直チニ之レヲ切離シ小兒娩出ノ後速カニ其兩端ヲ結紮ス可シ(結紮ノ後切離スルモ亦可ナリ)</p> <p>(一)臍帯ノ短カキモノノハ之レアルコト少ナシ然レトモ極メテ稀レニハ全ク臍帯ヲ欠キ血管直チニ胎兒ヨリ胎盤ニ分布スルモノアリ凡ソ臍帯ノ短カキモノハ其害アルコト纏絡ニヨリテ短縮セルモノト異ナルコトナシ</p> <p>(二)臍帯ノ離斷 急劇ナル分娩ニヨリ産床ニ坐スルニ違アラズシテ起立位ニ於テ娩出ヲ遂ケ小兒ヲ床上ニ墜スカ若クハ臍帯ノ甚ダシク短カキモノニ於テハ胎兒尙ホ産道中ニ在リテ臍帯ノ離斷ヲ生スルコトアリ斷裂セル臍帯ハ或ハ全ク出血ナキコトアリ但シ離斷セル部臍帯ニ近キトキハ出血スルコト從テ多キモノナリ又臍帯ノ出血ハ小兒ノ啼泣ス</p> | <p>ルコト甚ダシキトキハ大ニ少量ナルモノトス</p> <p><b>處置</b> 速カニ結紮ヲ施コシ若クハ臍部ヨリ離斷シテ結紮スルコト能ハザルトキハ酢又ハ石炭酸水ニテ蘸セル綿花ヲ以テ壓抵シ以テ速カニ醫治ヲ乞フ可シ</p> |       |

| 處置   | 原因  | 徵候  |
|--|---|---|
| <p>ルコト甚ダシキトキハ大ニ少量ナルモノトス</p> <p><b>處置</b> 速カニ結紮ヲ施コシ若クハ臍部ヨリ離斷シテ結紮スルコト能ハザルトキハ酢又ハ石炭酸水ニテ蘸セル綿花ヲ以テ壓抵シ以テ速カニ醫治ヲ乞フ可シ</p> | <p><b>原因</b> 子宮破裂ハ横位膈水腫狹窄骨盤産道ノ狹窄閉塞等分娩ノ抗拒極メテ大ナルモノ若クハ疾患ニヨリ子宮ノ組織變質シ脆弱トナレルモノニ發ス</p> | <p><b>徵候</b> (一)將サニ子宮破裂ヲ發セントスルノ徵候 ハ子宮體ハ漸次ニ上方ニ收縮上昇シ子宮下部ハ延張シ甚ダ非薄トダリ此兩部ノ境界即チ收縮輪ハ殆ント臍部ニ上リ之レニ觸ルハ硬索狀ヲナセルヲ知ル可シ又下腹部ヲ按スルニ疼痛甚ダシク胎兒ノ體部ハ頗ル明カニ觸知セラ</p> |

第三百三十七章 子宮破裂

既に破裂を生ズルキハ

ノ前徴ナシ卒然トシテ破裂ヲ生ズルコトアリ

(二)既に破裂ヲ生ズルキハ 産婦ハ下腹内ニ切ルカ如キ疼痛ヲ感シ以テ顔色蒼白體力衰脱陣痛ハ全ク止ミ脈細數四肢厥冷シ直チニ適當ノ醫治ヲ加フルヲ得ザレハ速カニ死ニ歸ス而シテ胎兒腹腔内ニ脱出スルカ爲メニ觸診スレバ腹部ノ形狀全ク變化シ胎兒ハ子宮ノ外ニ在テ其體部ハ甚タ明カニ觸知セラル陰部ヨリハ夥シキ出血ヲ呈ス又同時ニ腹腔内ニモ劇シク出血シ胎盤ハ子宮ノ變小スルガ爲メニ剝離ス可シ内診スルニ先進體部ハ既に觸知シ得ベカラザルニ至ル

陰穹窿部ノ破裂

陰穹窿部ノ破裂 時トシテ子宮ハ破裂セズ單ニ陰穹窿部ノミ破裂スルコトアリ此症ニ於テハ子宮破裂ト同一ノ症狀ヲ呈スルモ胎兒ハ腹腔内ニ脱出スルコトナシ

子宮破裂ノ處置

子宮破裂ノ處置 子宮破裂ノ原因アルヲ見バ未ダ危險ノ徴ヲ現サバ先チ速カニ醫治ヲ求ム可シ既に破裂ヲ生スルトキハ安靜ニ臥セシメ下腹ニ氷褰法ヲ施コシ葡萄酒濃珈琲 ホフマン 等ノ興奮藥

子宮翻轉

ナ與ヘ以テ醫師ノ至ルヲ待ツ可シ但シ醫師ハ破裂ノ狀ニ應ジ或ハ産道内ヨリ胎兒ヲ挽出シ或ハ腹切開術ヲ施コシ其破裂ヲ治療ス可シ

第三百三十八章 子宮翻轉

子宮翻轉 ハ其輕重ニ從ヒ産婆學ニ於テハ之レヲ二種ニ區別スベシ第一種不全翻轉ハ子宮底部ノ子宮腔内ニ陷入セルモノ第二種全翻轉ハ即チ子宮全ク翻轉セルモノ是レナリ

原因 妄リニ臍帶ヲ牽引シテ胎盤ヲ剝離セントスルコヨリ又ハ分娩ノ際臍帶ノ短カクシテ牽引セラル、ニヨリ若クハ子宮弛緩セルノ際妄

リニ胎盤壓出法ヲ施コスニヨリテ之レヲ發ス

症狀 全翻轉ニ在リテハ外陰部若クハ腔内ニ於テ暗紅色ニシテ知覺過敏ナル圓形ノ腫瘍ヲ認メ時トシテハ胎盤尙ホ之レニ附着セルコトアリ恥骨縫際上ニ於テハ子宮ヲ觸知スルコトナシ不全翻轉ナルトキハ恥

骨縫際上ニ於テ子宮底ハ漏斗狀ノ凹陷ヲ呈スルモノトス——本症ヲ發スルトキハ急ニ脈細數衰脱ヲ發シ甚ダシク子宮出血ヲ現ハスモノナリ

處置

處置 子宮翻轉シ危險ノ徵アルヲ見ハ嚴シク手ノ消毒法ヲ行ヒ之レ  
ヲ腔内ニ送入シ五指ヲ以テ翻轉セル部ヲ保チ徐々ニ復納ス可シ若シ容  
易ク目的ヲ達スルコト能ハザルトキハ一%石炭酸水ヲ布片ニ浸シテ腫  
瘍ヲ被ヒ速カニ醫師ヲ迎フ可シ

第三百三十九章 子宮頸、膈及び外陰部ノ裂傷

子宮頸ノ破裂

(一)子宮頸ノ破裂 子宮口ノ強硬ナルモノ又ハ子宮口ノ開大十分  
ナラザルノ際手又ハ器械ヲ送入スルニヨリテ生ズ而シテ茲ニ破裂ト稱  
ス。モノハ頗ル大ニシテ殆ド全腔部ヲ破裂セシムルモノヲ云フ小ナル  
裂傷ハ敢テ之レニ算入セズ

膈破裂

子宮頸破裂スルトキハ後産期ニ至リ甚ダシキ出血ヲ呈シ産褥中ニハ化  
膿ヲ生シ産褥熱ノ原因ヲナスコトアリ  
(二)膈破裂 ハ初産婦殊ニ其高年ニシテ膈ノ延張性少ナキモノ又ハ  
鉗子挽出術等ノ手術ニ際シ之レヲ發ス  
破裂ノ部位ハ下部ニ在ルコト多ク且ツ甚ダシク深部ニ達スルコトアリ

外陰部ノ破裂

若シ深部ニ達スルトキハ甚ダシキ出血ヲ致ス腔穹窿部ヲ破リ腹腔内ニ  
達スルモノハ子宮破裂ニ於ケルカ如ク直チニ死亡スルコトアリ産褥中  
ニハ化膿ニヨリテ産褥熱ヲ發シ又ハ治癒ノ後、膈ノ狭窄ヲ遺スモ亦之レ  
アリ

各裂傷性出血  
ノ性状

(三)外陰部ノ破裂 ハ陰核及び尿道隆起ノ損傷ヲ以テ最モ緊要ナリ  
トス此部ハ皮下ニ饒多ノ血管アルヲ以テ甚ダシキ出血ヲ致スモノナリ  
各裂傷性出血ノ性状 以上三種ノ出血ニ就キ大ナル血管損傷セ  
ラル、トキハ甚ダシキ出血ヲ呈ス就中靜脈性出血ナルトキハ暗色ノ血  
液絶エズ流出シ動脈性出血ナレバ鮮紅色ノ血液線狀ヲナシ若クハ涌ク  
ガ如ク射出ス可シ而シテ此出血ハ通例胎兒娩出後ニ發スルモノナリ而  
シテ子宮善ク收縮セルノ際此ノ如ク出血スルトキハ直チニ裂傷性出血  
ナルヲ知ル可シ

裂傷性出血ノ  
處置

裂傷性出血ノ處置 以上記セルガ如ク強度ノ出血アルトキハ速カニ醫ノ來診ヲ求メ且ツ急



腔内栓塞法

要ノ處置ヲ施コサシガ爲メ陰部ヲ光明チ對セシメ石炭酸水ニ濕セル綿花ヲ以テ外陰部ヲ拭去シ若シ其出血部外陰部ニ在ルトキハ棉花ノ一塊ヲ石炭酸水ニ蘸シ強ク壓抵シテ止血セシム——而シテ外陰部ニ損傷ナク且ツ子宮善ク收縮セルノ際腔内ヨリ多量ノ出血アルモノハ腔壁若シクハ子宮頸ノ裂傷ニヨルモノナルガ故ニ先ツ薦骨部ヲ少シク高クシ且ツ臀部ノ軟部ヲ前方ニ引キテ陰唇ヲ閉合セシメ壓抵巾ヲ陰部ニ貼シ強ク兩脚ヲ閉合セシメ一手ヲ以テ腹上ヨリ強ク子宮ヲ壓ス可シ此ノ如クスレバ血液ノ凝固ニヨリ屢止血スルニ至ルモノナリ若シ此法ヲ施コスモ尚ホ多量ノ出血ヲ現ハストキハ腔内栓塞法ヲ施コサマル可ラズ

**腔内栓塞法** 法ノ如ク手ノ消毒ヲ施コシ内検査ニヨリ損傷部ノ腔或ハ子宮頸ニアルヤヲ檢シ一%ノ冷石炭酸水一〇〇〇ヲ用キテ腔内ニ灌注シ長サ半迷的兒巾四指横徑ノ脱脂綿多數ヲ取り豫シメ之レヲ捻振シテ斷裂シ難カラシメ二%石炭酸水ニ浸シテ絞搾シ之レヲ一盤中ニ容レテ陰部ノ直前ニ置キ產婆ハ一手ヲ以テ陰唇ヲ開キ他手ヲ以テ棉花

會陰破裂

腔内ニ送入シ固ク出血部ニ壓抵シ以テ漸次ニ腔内ニ充填ス可シ此ノ如ク全ク腔内ヲ充塞セハ緊シク兩足ヲ收閉シ安臥セシメ且ツ腹上ヨリ強ク子宮ヲ摩擦シ收縮セシメ以テ内出血ヲ致サシメザルヲ要ス或ハ脱脂綿ニ代ヘテ線條ヲ附セル棉花 タンポン 又ハ瓦設片ヲ用キ若クハ急速ノ際ニハ手巾ヲ取り之レヲ石炭酸水ニ浸シ以テ代用スルモ亦可ナリ

**栓塞法ヲ施コスノ前若シ後産ノ子宮内ニ存スルコトアラハ壓出法ニヨリ先ツ之レヲ娩出セシムルヲ要ス**

第四百十章 會陰破裂

**會陰破裂** ハ之レヲ分テ第一度第二度及ビ第三度ノ三種トナス

第一度トハ肛門ニ向ヒ一二仙迷ヲ破裂セルモノ第二度トハ既ニ肛門ニ達スルモ其括約筋ヲ殘スモノ第三度トハ全會陰ヲ破リ且ツ肛門括約筋ヲ破裂セルモノヲ云フ

會陰破裂ナルモノハ最モ屢是レアルモノナリ其輕度ニシテ殊ニ陰唇繫帶ノミヲ破裂セルモノハ殆ド毎初産婦ニ之レアリト云フ可シ而シテ會

| 原因  | 症狀   |
|---|--|
| 陰破裂ハ通例分娩處置ノ不良ナルニヨリテ發スルモノナレトモ亦最モ<br>良ク其處置ヲ營ムト雖トモ之レヲ免ルコト能ハサルモノアリ其他稀<br>レニハ會陰ノ中部ノミ破裂シ孔穴ヲ造ルコトアリ<br><b>原因</b> ハ兒ノ最大ナル部分ノ產出スルニ際シ外陰部ノ延張其極度ニ<br>達シ以テ會陰ノ中線ニ破裂ヲ生ズルモノニシテ急速ナル兒頭ノ產出顔<br>面位等ノ如キ不良ノ胎勢產婦ノ背臥恥骨弓ノ狹隘ナルモノ高年ノ初産<br>婦鉗子手術等ニ於テ殊ニ之レヲ發スルモノナリ又妄リニ後進兒頭ヲ挽<br>出スルトキハ全會陰破裂ヲ生ズルコト屢之レアリ | <b>症狀</b> ハ僅少ニシテ產婦ハ陰部ニ灼熱ヲ感ズルコト過キス出血ハ其破<br>裂ノ腔内ニ及ボセルカ又ハ會陰ノ側方ニ破裂ヲ生ゼルノ際ニ於テノミ<br>多ク之レ在リ而シテ此破裂ヲ自然ニ放任シ縫合法ヲ施コサレバ陰門<br>裂孔多ク哆開ニ腔加答兒腔脫等ノ因ヲナスコト屢之レアリ第三度ノ破<br>裂即チ肛門括約筋ニ及ボセルモノニ在リテハ膈内ノ瓦斯又ハ液性ノ糞<br>便ヲ止ムルコト能ハズシテ大ニ患者ヲ苦マシムルモノナリ其他會陰破 |

| 處置  | 分娩時ノ出血   |
|---|--|
| 裂アルトキハ屢産褥熱ヲ誘起シ又ハ其破裂部ニ産褥性潰瘍ヲ發シ創面<br>増大シ終ニ大ナル組織ノ欠損ヲ致スコトアリ<br><b>處置</b> 小ニシテ僅カニ陰唇繫帶ノ一部ヲ損傷セルモノハ石炭酸水又<br>ハ硼酸水ヲ以テ洗滌シ沃度ホルムヲ撒布スルヲ以テ足レリトス其少<br>シク大ナルモノニ至リテハ醫治ニヨリ縫合セザル可ラズ | <b>第三百四十一章 骨盤關節ノ損傷</b><br>恥骨縫隙及ビ兩薦腸關節ハ兒頭ト骨盤ノ關係不良ニシテ分娩ノ困難ナ<br>ルニ當リ稀レニハ破裂ヲ生ズルコトアリ<br>此破裂アルトキハ患婦ハ下肢ヲ運動セシムルコト能ハズ傷部ヲ壓スレ<br>ハ大ニ疼痛ヲ訴フ而シテ恥骨縫隙ノ離開セルモノニ在リテハ膀胱ノ障<br>害即チ排尿時ノ疼痛等ヲ有ス可シ以上ノ損傷ハ速カニ醫治ヲ求メンコ<br>トヲ要ス<br><b>第三百四十二章 分娩時ノ出血</b><br>分娩時ノ出血 既ニ分娩ヲ始メ而シテ出血スルモノト及ヒ妊娠中 |

異常分娩及び其取扱法

骨盤關節ノ損傷

分娩時ノ出血

ニ出血シ遂ニ分娩ヲ誘起スルモノト共ニ之レヲ分娩時ノ出血ト名ク可シ是レ妊娠中ニ出血スレバ多クハ之レガ爲メニ分娩ヲ催起スルニ至ルモノナルニヨル尙ホ妊娠中ノ出血ニ就キテハ第五篇第百五章ヲ參考ス可シ

原因

原因 分娩時ノ出血ヲ現ハスモノニ種々アリ(一)妊娠中ニ併發セル婦人科の疾病即チ腔靜脈瘤ノ破開癌腫 ポリープ 等ニヨルモノ(二)子宮破裂及び子宮翻轉(三)胎盤ノ早期剝離(四)前置胎盤(五)分娩時ノ損傷(六)胎盤部ノ無力性出血是レナリ之レヲ次ニ各論ス可シ但シ一妊娠中ニ發セル婦人科の疾病ハ既ニ第五篇第百五章ニ之レヲ説キ二子宮破裂及ヒ子宮翻轉ハ既ニ本篇第百三十七章及ビ第百三十八章ニ論述セリ

第四百四十三章 胎盤ノ早期剝離

胎盤ノ早期剝離トハ

胎盤ノ早期剝離トハ 分娩ノ始メ若クハ尙ホ妊娠中ニ在リテ胎盤早ク剝離セルモノニシテ主トシテ母體ノ血管ヨリ出血シ而シテ未ダ正規ノ分娩期ニ至ラズト雖トモ娩産ヲ誘發スルコト最モ多シ

原因

原因 ハ外傷殊ニ身體ヲ劇シク震盪スルコト子宮内膜炎妊娠性腎炎(浮腫ヲ發スル疾病)若クハ分娩時ニ胎胞ノ久シク破開セサルモノニ在リトス

症狀

症狀 ハ内出血及ヒ外出血ノ二種アリ

内出血トハ

(一)内出血トハ 子宮壁ト剝離セル胎盤及ビ卵膜トノ間ニ血液ノ滞留セルモノニシテ母體ニ於テハ血液外部ニ現ハレズト雖トモ劇シキ貧血ヲ發ス即チ其徴候ハ出血ニヨリテ下腹内ニ卒然トシテ疼痛ヲ發シ子宮内ニハ劇シキ緊張ヲ感シ子宮ハ其形増大シ若クハ變形シ母體ハ脈細小頻數トナリ四肢厥冷脱力等ノ急性貧血ノ徴ヲ呈シ遂ニ死ニ至ルコトアリ胎兒ハ其血液ヲ失フコト多カラズト雖トモ胎盤ノ物質交換ヲ妨ケラル、ニヨリ多クハ死ヲ致ス可シ但シ内出血ト名スト雖トモ通常ハ幾分カ外部ニ出血スルモノナリ

外出血トハ

(二)外出血トハ 血液ノ外部ニ漏出スルモノニシテ胎盤部ヨリ出血スル所ノ血液ハ子宮壁ト卵膜トノ間ヲ經テ流出ス可シ此出血ハ内出血

ニ於ケルガ如ク急性貧血ノ徴ヲ呈ス可シ小兒ニ在リテモ亦内出血ト異ナル所ナシ

**處置** ハ内外出血共ニ患婦ヲ安靜ニシテ下腹ニ氷褌法ヲ施コシ外出血ナルキハ腔内ニハ緊ク栓塞法ヲ行ヒ以テ速カニ醫治ヲ請フ可シ

**分娩ニ際シ久シク胎胞破開セザル者** 分娩ニ際シ胎胞ノ久シク破開セザルカ爲メニ其胞往々外陰部ニ現ハレ以テ出血ヲ現ハスコトアリ是レ子宮壁ハ收縮スト雖トモ胎盤ハ收縮セサルニヨリ爲メニ剝離ヲ生ズルニ基ツク此ノ如キ場合ニ於テハ胎胞ヲ破開ス可キモノトス

**第四百四十四章 前置胎盤**

**前置胎盤トハ** 胎盤ノ子宮下部ニ附着セルモノニシテ産婆學ニ於テハ之レヲ二種ニ區別ス可シ(一)中央即チ全前置胎盤(二)側前置胎盤是レナリ中央前置胎盤トハ胎盤ノ中央部全ク子宮内口ニ一致シ附着セルモノニシテ側前置胎盤トハ胎盤ノ子宮内口ノ側ニ位シ其下部ノ邊縁子宮内口ニ達スルモノナク云フ但シ今此二種ニ區別スト雖トモ中央前置胎盤ト

處置  
分娩ニ際シ久シク胎胞破開セザル者

前置胎盤トハ

側前置胎盤トノ間ニ種々ノ階級ヲ現ハシ其症狀モ大同小異ナルモノアルヲ知ル可シ

**原因** ハ多ク子宮内膜炎ニヨルモノニシテ短速ニ屢妊娠スルモノニ發スルチ多シトス前置胎盤ハ凡ソ千五百ノ分娩中ニ一回アリト云フ

**症狀** 前置胎盤ハ分娩ニ際シ夥シキ出血ヲ發スルカ故ニ最モ危険ナルモノナリ而シテ其出血スル所以ハ妊娠ノ末期二三ヶ月ニ至リ卵ノ增大ニヨリ子宮ハ強ク延張セラル、ニ際シ胎盤ハ獨リ延張スルヲナキガ故ニ胎盤ノ一部ニ剝離ヲ生ジ母體胎盤ノ血管口侈開シ以テ此部ヨリ劇シク出血スルニヨルモノナリ

**全前置胎盤ノ出血** 此ノ如クニシテ妊娠ノ末期ニ至リ他ニ原因ナク不意ニ子宮出血ヲ發シ時トシテハ安眠中ニ來ルコトアリ而シテ數日若クハ數週ノ後ヲ再ビ出血ヲ發シ數回反復シ遂ニ分娩ノ期ニ達ス分娩時ノ出血ハ殊ニ強劇ニシテ産婦ハ爲メニ往々絶脈シ終ニ死ニ歸スルコト屢之レアリ胎盤ハ胎兒ノ産出ニ先ヲナテ一部子宮内チ出テ若クハ

全前置胎盤ノ出血

原因  
症狀

側前置胎盤

全部脱出スルコトアリ之レヲ要スルニ全前置胎盤ノ出血ハ全ク分娩ヲ終ルニアラザレバ閉止セザルモノナリ  
側前置胎盤 ハ全前置胎盤ノ如ク妊娠中及び分娩ノ初メニ出血ヲ呈スト雖モ幾何カ其量少ナク且ツ胎胞ノ破開スルニ至レバ兒頭ノ壓迫ニヨリ止血スルモノトス

前置胎盤ノ診斷

前置胎盤ノ診斷 妊娠及び分娩中靜脈結節 ボリープ 癌腫等ノ存セザルニ當リテ異常ノ出血ヲ致スモノハ胎盤ノ早期剝離若クハ前置胎盤ニ基クモノナリ而シテ前置胎盤ニ在リテ特異ナルハ其腔部甚ダシク柔軟ニシテ大ナルニ在リ今内検査ヲ施コスニ腔部ハ軟カニシテ併ノ如ク且ツ兒ノ先進部ト腔部ノ間ニ胎盤ノ存スルガ爲メニ兒ノ先進部ヲ觸知スルヲ甚ダ不明ナリ子宮口既ニ開大セルノ後ニ於テハ指ヲ子宮口内ニ挿入シ直チニ胎盤ノ不平面ニ觸レ若クハ側方ニ胎盤縁ヲ觸知ス可シ但シ胎盤ノ不平面ハ時トシテ子宮口内ノ凝血ト誤認スルコトアリト雖トモ凝血ハ甚ダシク軟カニシテ容易ニ破碎シ得ルヲ以テ區別ス

處置

可シ  
處置

醫師ノ未ダ到ラザル間ハ

前置胎盤ハ最モ危険ノ疾患ナルカ故ニ此症ナルヲ知ルカ若クハ其疑アルトキハ速カニ醫師ヲ招聘セザル可ラズ  
醫師ノ未ダ到ラザル間ハ 安靜ニ臥セシメ飲食便通ノ際ト雖トモ必ス起立セシムルコトナク寒冷ノ食物及び飲料ヲ與ヘ且ツ事物ノ感動ヲ避ケシム可シ出血既ニ閉止セルモノニ於テモ亦安靜ヲ命ジ且ツ醫ノ診察ヲ乞ハソトトハ要ス是レ豫カシメ治療ノ方法ヲ定ムルノ必要アルモノナリ凡テ此症ノ妊婦ハ分娩ニ至ルマテ尙ホ久シキモノト雖トモ其間必ス臥床ニ就カシム可キモノトス

出血閉止セズ且ツ陣痛ヲ現セル時ハ

出血閉止セズ且ツ陣痛ヲ現セル時ハ 胎盤ノ剝離ヲ大ナラシムルガ故ニ醫師若シ致ラザレバ産婆ハ第百卅九章子宮頸及び腔ノ裂傷ニ於ケルカ如ク腔内栓塞法ニヨリ之レガ治方ヲ施コサ、ル可ラズ即チ其手ヲ防腐シ患婦ハ脚ヲ屈シテ仰臥セシメ腔内ニハ一%石炭酸水一

卵膜ヲ破開ス  
可キ場合

○○○ノ冷灌注法ヲ行ヒ長サ半迷的兒巾四指横徑ノ脱脂綿數片ヲ取  
 リ豫カシメ之レヲ給轉シテ断裂シ難カラシメ二%ノ石炭酸水中ニ浸シ  
 テ絞搾シ之レヲ一盤中ニ容レテ陰部ノ直前ニ置キ産婆ハ一手ヲ以テ陰  
 唇ヲ開キ他手ヲ以テ綿花ヲ腔内ニ送入シ固ク子宮口ヲ壓閉シ以テ緊密  
 ニ腔内ヲ充填ス可シ此ノ如ク全ク腔内ヲ充填セバ兩足ヲ固ク收閉シ安  
 靜ニ臥セシム

上法ノ如ク堅ク栓塞法ヲ施コサバ醫師ノ來ルコ至ルマテ之レヲ放置シ  
 栓塞ノ爲メニ排尿ヲ妨グルモノハカテーテルヲ挿入ス可シ——若  
 シ長クタンボンヲ施コセルノ後十二時間以上腔内ニ臭氣ヲ發ス  
 ルニ至ラバ注意シテ之レヲ除去シ二%石炭酸水ヲ用テ灌注ス可シ而シ  
 テ子宮口稍開大スルヲ見ルト雖トモ子宮内口上ニ胎盤ノ粗糙面アルヲ  
 觸知セバ再ビ栓塞法ヲ行フ可シ——若シ栓塞法ヲ行フモ止血ノ目的ヲ  
 達スルコト能ハズ且ツ危険アルトキハ卵膜破開法ヲ施コス可シ

卵膜ヲ破開ス可キ場合 上法ノ如ク固ク栓塞法ヲ施コスト雖ト

若シ醫師ノ直  
キキハ

モ出血閉止セズ且ツタンボンヲ除去スルノ際子宮内口上ニ卵膜ヲ  
 觸知シ側前置胎盤ナルヲ知ラバ卵膜ヲ穿刺ス可シ但シ子宮口尙ホ手拳  
 大ニ達セズ且ツ陣痛強カラサルカ又ハ臍帶ノ脱出アルトキハ之レヲ穿  
 刺ス可ラス而シテ卵膜ヲ穿刺スルニハ指爪ヲ用ヰテ足ルコトアリト雖  
 トモ若シ能ハザルトキハ手指ニ沿フテカテーテルノ線條ヲ送入シ  
 陣痛ニ乗リ卵膜ヲ穿開ス可シ此ノ如ク卵膜ヲ破ルトキハ幾何カ胎盤ノ  
 剝離ヲ防止シ且ツ兒頭ハ下降シテ出血部ヲ壓スルカ故ニ止血セシム唯  
 妄リニ穿刺法ヲ行ハサルヲ要ス又臀位若クハ足位ナルトキハ其一足ヲ  
 執リ外陰部ニ至ルマテ牽出ス可シ此ノ如クナルトキハ兒ノ臀部ハ強ク  
 出血部ヲ壓抵スルガ故ニ止血スルヲ常トス——卵膜破開後ハ再ビ栓塞  
 法ヲ行フ可ラズ

若シ醫師ノ直キキハ來着ス可キキハ 産婆ハ腔内灌注法ヲ施  
 コシ栓塞法ヲ行ヒ而シテ後十回轉術ニ要スル臥床温湯冷水其他各種ノ  
 器具ヲ整ヒ以テ之レヲ待ツ可シ

後産期ニ於テ

貧血ノ療法

後産期ニ於テハ 胎盤ハ直チニ排出ス可シ是レ其一部早ク既ニ剝離セルニヨル又後産々出ノ前若クハ後ニ於テ陣痛微弱ニヨリ甚ダシキ出血ヲ呈スルコトアリ何トナレバ胎盤ノ存セル子宮ノ下部ハ上部ニ比スレバ筋ノ收縮大ニ微弱ナルヲ以テナリ 若シ胎盤産出ノ前ニ當リ甚ダシキ出血ヲ發シ而シテ醫師ノ未ダ到ラザルモノニ在リテハ手及び陰部ノ消毒ヲ行ヒ手ヲ腔内ニ送入シ胎盤ヲ全ク剝離シ(第百五十章)攝氏五十度ノ一%熱石炭酸水ヲ子宮内ニ灌注ス可シ

**貧血ノ療法** 此症ニ於テハ既ニ數回多量ニ出血シ大ニ貧血ニ陥ル可キヲ以テ第百四十八章ニ述ブレガ如ク十分ニ興奮劑ヲ與フルヲ要ス

**第百四十五章 後産期ノ出血**

後産期ノ出血ハ極メテ危険ニシテ屢産婦ヲ死ニ陥ラシムルモノナリ故ニ此出血ノ處置ハ産婆學上ニ於テ消毒法ニ次ギテ最モ緊要ナルモノトス

此出血ニ二種ノ別アリ(一)軟部産道ノ損傷ニヨルモノ(二)陣痛微弱ニヨル

軟部産道ノ損傷ニ因スル出血

陣痛微弱ニ因スル後産期ノ出血

原因

モノ是レナリ次ニ之レヲ各論ス可シ

第百四十六章

軟部産道ノ損傷ニヨル後産期ノ出血

軟部産道ノ損傷ニ因スル出血トハ 子宮頸腔及び外陰部ノ裂傷ニ於ケルモノヲ云フ此等ノ諸症ハ既ニ第百三十九章ニ説述セルヲ以テ之レヲ參看ス可シ

第百四十七章

陣痛微弱ニ因スル後産期ノ出血

陣痛微弱ニ因スル後産期ノ出血ハ 最モ屢之レアルモノナリ而シテ後産期ニ於ケル陣痛微弱ハ胎盤産出前ナルトキハ其産出大ニ遅延スルモノナリ此産出遅延ニ就キテハ更ニ第百五十章ニ説述セル所アリ宜シク參看ス可シ

**原因** 陣痛微弱ニヨリ分娩遅延セルモノ困難ナル分娩ニヨリ子宮ノ收縮衰弱セルモノ雙胎羊膜水腫等ニシテ子宮ノ過度ニ擴張セルモノ胎

症状

處置

盤ノ剝離セザルモノ胎盤卵膜ノ一部遺殘セルニヨルモノ等是レナリ詳  
 細ハ尙ホ第十八章陣痛微弱ノ原因ニ就テ見ル可シ  
 症状 陣痛微弱ニヨリテ出血スルトキハ子宮ハ柔軟ニシテ弛緩シ其  
 底臍部ノ上方ニ位シ甚ダシク弛緩セルモノニアリテハ殆ド其壁ヲ觸知  
 シ得ザルコトアリ陣痛ハ之レアリト雖トモ弱ク且ツ稀少ナリ而シテ陣  
 痛間ニハ血液子宮腔内ニ滞留シ陣痛發スルカ又ハ壓迫ヲ加フルトキハ  
 大ニ流出スルヲ見ル可シ其出血殊ニ甚ダシキハ胎盤ノ一部既ニ剝離セ  
 ルモノニ在リトス胎盤ノ尙ホ子宮内ニ存スルキハ子宮ハ不等ノ圓形ヲ  
 ナシ一側ハ著シク膨大スルヲアリ——又後産ノ殘片疑血等ニヨリ子宮  
 口閉塞セルトキハ血液僅カニ外部ニ流泄シ若クハ全ク漏泄セズシテ子  
 宮内ニ滞留シ内出血ヲナシ子宮ハ急速ニ膨大シ時トシテハ心窩ニ達ス  
 ルコトアリ此ノ如キ場合ニ於テハ之レヲ認知セザルコトアルニヨリテ  
 外出血ニ比スレバ大ニ危険ナリトス

處置

子宮内灌注法

此症ニヨリテ血液夥シク流出スルヲ見バ直チニ醫師ニ報シ且ツ胎盤ノ  
 尙ホ子宮内ニ存セルモノニ存リテハ第二篇第六十七章ニ記セルガ如ク  
 胎盤壓出法ヲ施コシ而シテ尙ホ産出セズ止ムヲ得ザル場合ニ於テハ人  
 工胎盤剝離法(第四百四十九章中ニアリ)ヲ行ハソコトヲ要ス  
 胎盤既ニ排出シ而シテ尙ホ出血セルモノニ在リテハ兩手ヲ用キテ臀部  
 ナ前方ニ引キ兩陰唇ヲ閉合シ壓抵巾ヲ外陰部ニ貼シ固ク兩脚ヲ收閉セ  
 シメ且ツ強ク腹上ヨリ子宮ヲ摩擦ス可シ出血若シ持續セバ此際兩腿間  
 ヨリ上方ニ現ハレ決シテ床中ニ流下スルコト能ハザルモノナルカ故ニ  
 容易ニ之レヲ認メ得可シ子宮既ニ硬固トナレルトキハ止血ノ効ヲ全フ  
 セルモノナリ

子宮内灌注法 若シ上記ノ法ヲ施コスモ奏効ナク出血強度ナルモ  
 ノハ子宮内灌注法ヲ行フ可シ即チニ%石炭酸水ニ雪若クハ氷片ヲ加ヘ  
 テ寒冷ナラシムルカ若クハ之レニ反シ攝氏五十度ノ熱液トナシ之レヲ  
 子宮腔内ニ灌注センコトヲ要ス五十度ノ熱度ハ手ヲ挿入スルニ之レニ耐



子宮内出血部  
壓抵法

●得ルモノナリ灌注ノ際ハ手ヲ消毒シ其ニ指ヲ子宮頸管内ニ送り之レ  
●沿フテ藥液ヲ噴出セシメツルニ依リガトシテノ噴管ヲ子宮腔内  
●ニ進ムルヲ要ス若シ或ハ噴管又ハゴム管中ニ空氣ヲ含ムトキハ其空  
●氣血管内ニ竄入スルノ恐アリ又ダ灌注ノ間ハ腹上ヨリ子宮ヲ壓シ以テ  
●子宮ヲ過度ニ擴張セシムルノ害ヲ防止シ且ツ患婦ノ脈搏顔貌ニ注意ス  
●可シ

**子宮内出血部壓抵法** 上記ノ如ク冷液若クハ熱液ヲ用キ一回ノ灌  
●注ヲ行フトキハ多クハ止血スルモノナレトモ若シ尙ホ効ナキモノハ在  
●リテハ防腐セル手ヲ子宮内ニ送り胎盤附着部ノ粗糙面ヲ探知シ茲ニ手  
●ヲ貼シ同時ニ外方ヨリ此部ニ向フテ反對ノ壓力ヲ施コシ以テ壓迫ヲ營  
●ム可シ

**内出血ノ治方** 内出血ノ徴アルヲ見ハ子宮ヲ摩擦シ且ツ壓迫ヲ行  
●ヒ以テ子宮口内ノ障害物ヲ排出センコトヲ務メ若シ尙ホ能ハサルトキ  
●ハ規則的ニ消毒セル手ヲ子宮口内ニ送入シ凝血若クハ卵膜片ヲ除去シ

内出血ノ治法

自余ノ注意

而シテ後ナ以上記セル法則(子宮内灌注法又ハ子宮内出血部壓抵法)ニヨ  
●リテ出血ヲ處置センコトヲ要ス

**自余ノ注意** 多量ノ出血ニヨリ急性貧血ヲ發セルモノハ第四百十  
●八章ニ論述セル處置ニヨリテ其精力ヲ奮起セシムルヲ要ス 此後産  
●期ノ出血アルノ際ハ決シテ腔内栓塞法ヲ行フ可ラズ是レ故サラニ内出  
●血ヲ致サシムルノ恐アルニヨリ又子宮内灌注法ヲ施コサズシテ單ニ下  
●腹ニ氷褌法ヲ施コスガ如キハ甚ダ不可ナリ 以上記セル所ニヨリテ  
●一タビ効ヲ奏シ二三時間ヲ經レハ再ビ後出血ヲ發スルガ如キハ極メテ  
●稀レナルモノトス

第四百四十八章 急性貧血(血量)

急性貧血

**急性貧血** ハ分娩中種々ノ出血ニヨリ多ク之レヲ發スルヲ以テ茲ニ  
●特ニ説述ス可シ

症状

**症状** ハ顔面口唇蒼白トナリ頰部及ヒ四肢ハ厥冷シ脈細小ニシテ其  
●數百二十乃至百四十ニ達ス此ノ如キモノハ頗ル危険ナリトス又惡心嘔

吐ヲ發シ耳鳴眼火閃發視力昏眩ヲ發シ時トシテハ吃逆欠伸スルモノアリ  
 更ニ重症ナルハ甚クシク渴ヲ訴ヘ且ツ煩悶シ頻リニ反側シ床中ヨリ跳  
 リ出デントスルニ至ル此ノ如ク不安ナルモノハ極メテ危險ノ徵ナリト  
 ス爾後全身ノ脈冷漸ク増進シ顔面ニ冷汗ヲ流シ脈搏消失シ時トシテハ  
 大聲ヲ發シテ呼吸精神全ク昏眩シ呼吸淺表トナリ終ニ絶止ス心動ハ呼  
 吸ニ後レテ休止ス可シ又將ニ死ニ陥ランノ際痙攣ヲ發スルコトアリ  
 但シ生來強壯ナル婦人ハ大ニ出血ニ堪エ且ツ速カニ回復シ得ルモノナ  
 リ

**處置** 先ツ速カニ出血ノ原因ヲ處置シ而シテ後チ直チニ患婦ノ頭部  
 ナ底クシテ下體ヲ高カラシメ身體ヲ暖カニ包被シ且ツ腋下四肢ニ温婆ヲ  
 置キテ之レヲ温暖ナラシメ強烈ノ酒類温肉羔汁濃茄菲等チ與ヘ頭部胸  
 部腹部ニハ温卷法ヲ施コシ且ツ葡萄酒鷄卵温肉羔汁砂糖湯等チ服用セ  
 シメ務メテ水分ノ欠乏ヲ補フ可シ——醫藥ニ於テハホフマン液十五

原因

滴チ砂糖水若クハ冷水ニ和シテ毎五分乃至十分時ニ服用セシメ砂糖精  
 ノ嗅引法ヲ行ヒ顱顫部ニハ香水又ハ酢ヲ塗布ス可シ其他速カニ醫治ヲ  
 請ハンコトヲ要ス

第四百四十九章 胎盤產出ノ遲延

**原因** 胎盤產出ノ遲延ニハ種々ノ原因アリ(一)後產期ノ陣痛微弱ナル  
 ニヨリ(二)胎盤ノ癒着ニヨリ(三)子宮口ノ痙攣性收縮ニヨリテ之レヲ發ス  
 小兒ノ分娩後二時間ヲ經テ尙ホ胎盤ノ產出セザルトキハ(胎盤產出セズ  
 直チニ出血スルモ亦同シ)其原因ノ何レナルヤヲ確メ其狀況ヲ記シ之レ  
 チ醫師ニ報シ以テ來診ヲ請フ可シ其間場合ニ應シ產婆ハ必要ノ處置ヲ  
 施コサ、ル可ラス  
 次ニ各種ノ原因ニ就キテ其症狀ト處置トヲ述フ可シ

第二百五十章 陣痛微弱ニシテ剝離セザルニヨル胎盤產出ノ遲延

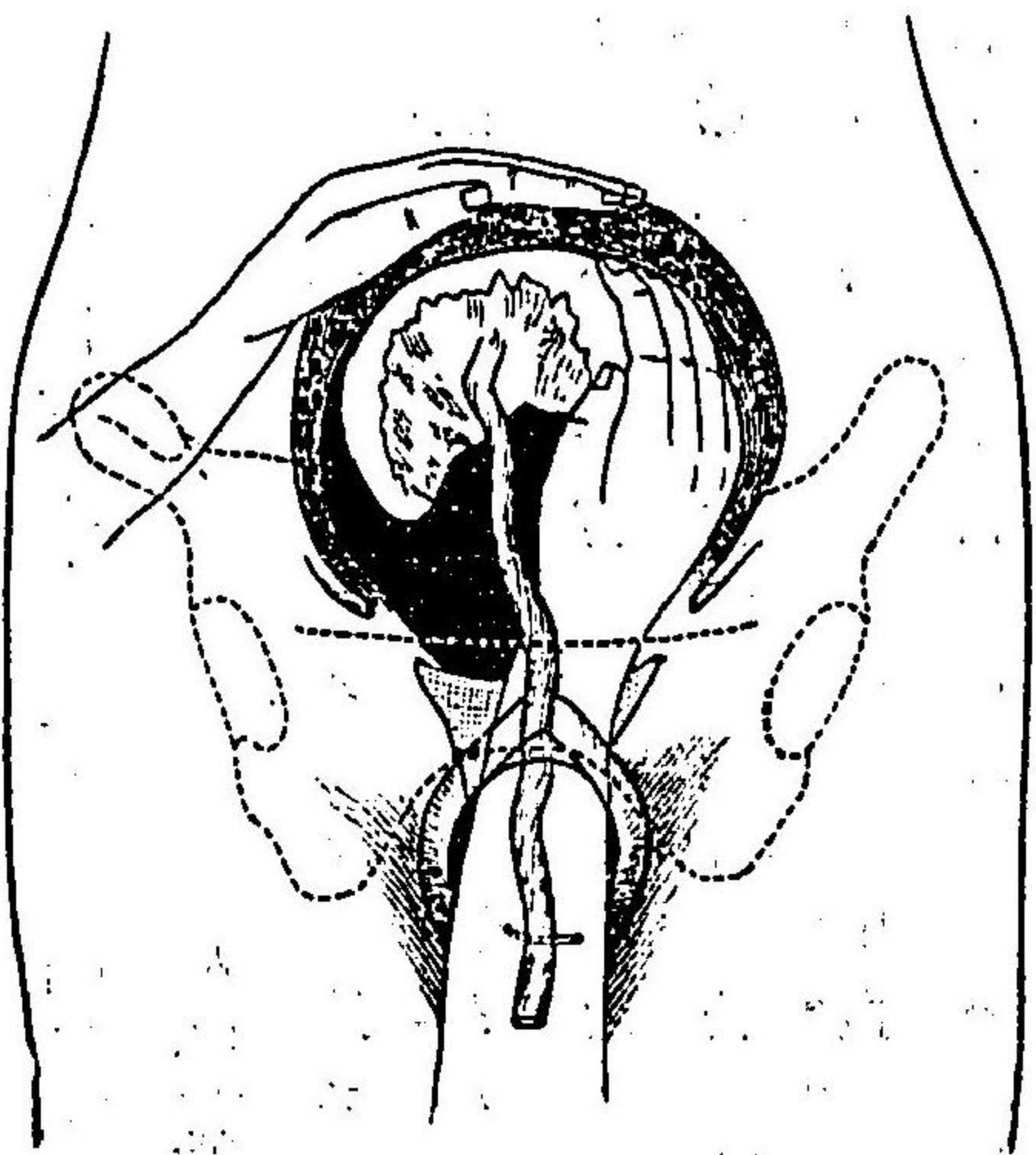
**原因及び症狀** ハ第百十八章及び第百四十七章ニ詳カナリ就テ看

處置

ル可シ  
 處置 陣痛微弱ニシテ胎盤ノ産出セサルヲ見ハ先ツ子宮ヲ摩擦シテ  
 其收縮ヲ催進シ且ツ胎盤ノ壓出法(第二篇第六十七章)ヲ行ヒ數回反復シ  
 テ之レヲ施コスト雖モ尚ホ胎盤ヲ排出セザルトキハ消毒法ニヨリ内檢  
 査ヲ試ム可シ即チ一手ヲ以テ適度ニ臍帶ヲ牽キテ緊張セシメ臍帶ニ沿  
 フテ他手ヲ産道内ニ進ムルヲ要ス果シテ陣痛微弱ニ因スル胎盤産出ノ  
 遅延ナルトキハ子宮口廣ク開キテ胎盤ノ一部ハ子宮口内ニ挺出セルヲ  
 見ル可シ——此ノ如ク壓出法ヲ行フト雖トモ胎盤産出セズ且ツ強度ノ  
 血ニヨリ産婦ハ危篤ニ迫リ到底醫師ノ來ルヲ待ツコト能ハザルトキ  
 ハ人工胎盤剝離法ヲ行ハザル可ラズ  
**人工胎盤剝離法** 産婦ヲ仰臥セシメ可及的其兩脚ヲ披開シ外陰部  
 及ビ手ヲ法ノ如ク消毒シニ石炭酸水ヲ以テ腔内灌注法ヲ施シ一手ヲ  
 以テ臍帶ヲ適度ニ牽引シ之レニ沿フテ他手ヲ送入シ子宮口ヲ過キテ直  
 チニ胎盤ノ附着部ニ達セシム此際外手ヲ子宮底部ニ移シ内手ニ向テ壓

人工胎盤剝離法

第一百十八圖 同胎剝離法圖



追スルヲ要ス次テ内手ノ四指ノ末端ヲ並列シ胎盤ノ既ニ剝離セル部ニ  
 就キ注意シテ之レヲ剝離ス可シ子宮壁ヲ損傷セザランガ爲メ産婆ハ豫  
 シメ其爪ヲ圓滑ナラシム  
 可キヲ勿論ナリ(或ハ指ノ  
 末端ヲ用ヰズ手ノ小指側  
 ナリ)以テ剝離ヲ行フトキハ  
 最モ可ナリ若シ胎盤ノ全  
 部尚ホ附着セルモノニ在  
 リテハ其上方ノ邊緣ヨリ  
 剝離スルヲ佳トス此ノ如  
 クニシテ剝離セル胎盤ハ  
 之レヲ手掌内ニ受ケ之レ  
 ナ腔内ニ導キ出シ再ビ其手ヲ子宮腔内ニ進メ以テ胎盤卵膜ノ殘片遺存  
 スルコトナキヤヲ檢ス可シ——此ノ法ニヨリ全ク後産ヲ除去シ終ラハ

剝離セル後産

攝氏五十度ヲ有スル二%ノ温石炭酸水ヲ子宮腔内ニ灌注シ且ツ外方ヨリ子宮摩擦法ヲ施コシ其收縮ヲ助ク可シ  
剝離セル後産 ハ之レヲ時ヒ以テ醫師ノ検査ヲ請フ可シ

第一百五十一章 胎盤ノ癒着ニ因スル胎盤産出ノ遅延

此症ハ

此症ハ 陣痛微弱ニヨルモノニ比スルニ其數著シク稀ナリトス  
症狀 症候ハ概ネ陣痛微弱ニ於ケルモノト同一ナリト雖トモ間々強度ノ陣痛ヲ現ハシ子宮ハ明カニ硬固トナレルモノアリ甚ダシキ癒着ニ在リテハ胎盤全ク子宮壁ニ癒着シ恰モ胎盤ノ存在セザルガ如キ狀況ヲ呈スルコトナキニアラズ而シテ出血ハ之レナキニアラサレトモ頗ル稀レナリ何トナレバ子宮ノ收縮多クハ強度ナルニヨル又胎盤ヲ剝離スルコト頗ル困難ニシテ其一部遺殘スルコトアリ

處置

處置 ハ概シテ陣痛微弱ニ因レルモノト異ナルコトナシ但シ癒着甚ダシク且ツ出血著シカラザルモノハ醫師ノ來診ヲ待タンコトヲ要ス

此症ハ

此症ハ 分娩中ニ於テ既ニ子宮口ノ強硬ヲ現ハセルモノニ多シ  
症狀 子宮善ク收縮スト雖トモ後産々出セズ産婦多クハ甚ダシキ痙攣性ノ疼痛ヲ訴ヘ出血ハ欠如ス可シ又内検査ヲ施コスニ子宮口ハ甚ダ狭窄シ一指ヲモ通スルコト能ハザルモノトス

處置

處置 速カニ醫ノ來診ヲ請ヘ其間子宮ヲ摩擦スルコトナク産婦ヲ安靜ナラシメ温暖ナル牛乳若クハ温湯ヲ與ヘ出血ヲ呈スルモノハ栓塞ヲ行フ可シ而シテ子宮ノ弛緩ヲ致ストキハ按摩法ヲ施コサンコトヲ要ス二十分間ヲ經レバ少許ノ壓出ニヨリ間々後産ヲ排出セシメ得ルコトアリ  
甚ダシク出血スルトキハ胎盤ノ剝離法ヲ行フ可シ即チ初メ一二指ヲ子宮内ニ送り次テ徐々ニ全手ヲ挿入シ胎盤ノ上縁ヨリ掌中ニ把握シ其全部ヲ抽出ス可シ後産ノ一部分ト雖トモ之レヲ遺存セシム可ラズ否ラザレバ甚ダシキ出血ヲ致スモノナリ後産全ク除去セルノ後ハ攝

甚ダシク出血スルハ